

Collaboration

# かんたんセットアップガイド

解説・操作書

3020-3-H30

## 対象製品

P-2446-5S54 Groupmax Collaboration - Server 07-83 (適用 OS: Windows Server 2008 R2 , Windows Server 2008 x64 , Windows Server 2008 x86 , Windows Server 2003 R2 x64 Editions , Windows Server 2003 R2 , Windows Server 2003 )

注 WOW64 環境だけで使用できます。

## 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

## 商標類

Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Oracle は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

## マイクロソフト製品の表記について

このマニュアルでは、マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

表記		製品名
Windows Server 2003	Windows Server 2003	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition 日本語版 Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition 日本語版
	Windows Server 2003 R2	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition 日本語版 Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition 日本語版
	Windows Server 2003 R2 x64 Editions	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition 日本語版 Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition 日本語版
Windows Server 2008	Windows Server 2008 x86	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise 32-bit 日本語版 Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard 32-bit 日本語版
	Windows Server 2008 x64	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise 日本語版 Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard 日本語版

表記	製品名
Windows Server 2008 R2	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise 日本語版 Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard 日本語版

Windows Server 2003 および Windows Server 2008 を総称して Windows と表記することがあります。

## 発行

2011年6月 3020-3-H30

## 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2011, Hitachi, Ltd.



# はじめに

このマニュアルは、Collaboration Setup Navigation の使用方法および Collaboration Setup Navigation を使ったセットアップ作業について説明したものです。この製品およびマニュアルを利用することで、次に示す製品のセットアップ作業を軽減することを目的としています。

- Collaboration - File Sharing Server
- Windows 版の Groupmax Scheduler Server Version 7 の HiRDB 連携版 (DB モード) および Windows 版の Groupmax Facilities Manager Version 7 の HiRDB 連携版 (DB モード)

## 対象読者

このマニュアルは、Collaboration - File Sharing Server、Groupmax Scheduler Server Version 7 および Groupmax Facilities Manager Version 7 のシステムを構築する方を対象としています。必要な前提知識を次に示します。

- セットアップする製品の概要
- 使用する OS (Operating System)、Web ブラウザ、およびデータベース (HiRDB) の操作

## このマニュアルで使用する記号

このマニュアルで使用する主な記号を次に示します。

記号	意味
[ ] (半角角括弧)	この記号で囲まれている項目は、省略してよいことを意味します。 (例) [A] 「何も指定しない」か「A を指定する」ことを示します。
	半角スペースを示します。
イタリック体	可変の文字列を表します。

画面の操作方法に関しては、次に示す記号を使用して説明しています。

記号	意味
[ ] (全角角括弧)	メニュー、コマンド、ウィンドウ、ダイアログの名称、ボタン、またはキーボードのキーを示します。
[A] - [B]	- の前に示した [A] メニューから [B] コマンドを選択することを示します。
「 」	ユーザが指定する内容を示します。



# 目次

<b>1</b>	<b>Collaboration Setup Navigation の概要</b>	<b>1</b>
1.1	Collaboration Setup Navigation とは	2
1.1.1	File Sharing サーバのセットアップ	2
1.1.2	Scheduler Server および Facilities Manager のセットアップ	3
1.2	Collaboration Setup Navigation のインストールとセットアップ	6
1.3	Collaboration Setup Navigation のセットアップナビゲーション画面	7
<b>2</b>	<b>File Sharing サーバをセットアップする</b>	<b>11</b>
2.1	Collaboration Setup Navigation のシステム構成 (File Sharing サーバを構築する場合)	12
2.2	File Sharing サーバのセットアップ手順	13
2.3	Collaboration Setup Navigation で構築情報を設定する	15
2.3.1	セットアップナビゲーション画面で構築情報を設定する	15
2.3.2	セットアップファイルを出力する	17
2.4	File Sharing マシンでセットアップ作業を実行する	19
2.4.1	セットアップファイルを各マシンにコピーする	19
2.4.2	File Sharing サーバをセットアップする (csn_cfv_setup コマンド)	19
2.5	HiRDB をセットアップする (csn_cfv_dbsetup コマンド)	20
<b>3</b>	<b>Scheduler Server および Facilities Manager をセットアップする</b>	<b>21</b>
3.1	Collaboration Setup Navigation のシステム構成 (Scheduler Server および Facilities Manager を構築する場合)	22
3.2	Scheduler Server および Facilities Manager のセットアップ手順	23
3.3	Collaboration Setup Navigation で構築情報を設定する	27
3.3.1	セットアップナビゲーション画面で構築情報を設定する	27
3.3.2	セットアップファイルを出力する	30
3.4	Scheduler マシンでセットアップ作業を実行する	31
3.4.1	セットアップファイルを各マシンにコピーする	31
3.4.2	Scheduler Server および Facilities Manager をセットアップする (csn_ssv_setup コマンド)	31
3.5	HiRDB マシンでセットアップ作業を実行する	32
3.5.1	jar ファイルをマスターサーバからコピーする	32
3.5.2	HiRDB をセットアップする (csn_ssv_dbsetup コマンド)	32

3.5.3	HiRDB にデータを登録する	32
-------	-----------------	----

## 4

Collaboration Setup Navigation およびそのセットアップ製品で使用する ファイル		37
4.1	Collaboration Setup Navigation のファイル	38
4.1.1	動作環境ファイル	38
4.1.2	入力値ファイル	39
4.1.3	設定内容ファイル	40
4.2	File Sharing サーバのファイル	42
4.2.1	動作環境プロパティファイル	42
4.2.2	見積もり基礎情報ファイル	43
4.2.3	見積もりファイル	45
4.2.4	セットアップファイル	47
4.3	Scheduler Server および Facilities Manager のファイル	49
4.3.1	動作環境プロパティファイル	49
4.3.2	見積もり基礎情報ファイル	50
4.3.3	見積もりファイル	54
4.3.4	セットアップファイル	67

## 5

コマンド		71
5.1	コマンドの概要	72
5.2	Collaboration Setup Navigation のコマンド	73
5.2.1	セットアップナビゲーション画面を開く (csn_navistart コマンド)	73
5.3	File Sharing サーバのコマンド	74
5.3.1	File Sharing サーバをセットアップする (csn_cfv_setup コマンド)	74
5.3.2	HiRDB をセットアップする (csn_cfv_dbsetup コマンド)	75
5.4	Scheduler Server および Facilities Manager のコマンド	77
5.4.1	Scheduler Server および Facilities Manager をセットアップする (csn_ssv_setup コマンド)	77
5.4.2	HiRDB をセットアップする (csn_ssv_dbsetup コマンド)	78
5.4.3	セットアップ前の状態に戻したい (csn_ssv_restore コマンド)	79

## 6

メッセージ		81
6.1	メッセージの形式	82
6.1.1	メッセージの出力形式	82



6.1.2	このマニュアルでのメッセージの記載形式	82
6.2	Collaboration Setup Navigation のメッセージ	85
6.2.1	メッセージに出力される詳細情報	93
6.3	File Sharing サーバのセットアップ時に出力されるメッセージ	95
6.3.1	セットアップナビゲーション画面の操作時に出力されるメッセージ	95
6.3.2	セットアップコマンドの実行時に出力されるメッセージ	102
6.4	Scheduler Server および Facilities Manager のセットアップ時に出力されるメッセージ	106

## 付録 123

付録 A	ディレクトリ構成	124
付録 A.1	Collaboration Setup Navigation のディレクトリ構成	124
付録 A.2	各セットアップ製品のディレクトリ構成	124
付録 B	こんなときは	125
付録 B.1	セットアップ前の状態に戻したい ( csn_ssv_restore コマンド )	125
付録 C	このマニュアルの参考情報	126
付録 C.1	関連マニュアル	126
付録 C.2	このマニュアルでの表記	127
付録 C.3	英略語	127
付録 C.4	KB ( キロバイト ) などの単位表記について	128
付録 D	用語解説	129

## 索引 131



# 1

## Collaboration Setup Navigation の概要

この章では、Collaboration Setup Navigation の概要について説明します。

---

1.1 Collaboration Setup Navigation とは

---

1.2 Collaboration Setup Navigation のインストールとセットアップ

---

1.3 Collaboration Setup Navigation のセットアップナビゲーション画面

---

## 1.1 Collaboration Setup Navigation とは

Collaboration Setup Navigation は、セットアップナビゲーション画面の操作によってバッチファイルを生成し、構築者が生成されたバッチファイルを実行することで、次に示す製品をセットアップできます。これによって、セットアップ作業を軽減できます。

Collaboration Setup Navigation でセットアップできる製品は次のとおりです。対応するバージョンは、リリースノートなどを参照してください。

Collaboration - File Sharing Server  
(以降、「File Sharing サーバ」と表記)

Windows 版 Groupmax Scheduler Server Version 7 および Windows 版 Groupmax Facilities Manager Version 7  
(以降、「Scheduler Server および Facilities Manager」と表記)

このマニュアルでは各マシンを次のように表記します。

表 1-1 このマニュアルでのマシンの表記

このマニュアルでの表記	説明
Collaboration Setup Navigation マシン	Collaboration Setup Navigation をインストールするマシン
File Sharing マシン	File Sharing サーバを構築するマシン
Scheduler マシン	Scheduler Server および Facilities Manager を構築するマシン • マスターサーバ DB モードで、DB にアクセスするコマンドを実行するマシンを指します。 • スレーブサーバ DB モードで、マスターサーバ以外のマシンを指します。
HiRDB マシン	HiRDB を構築するマシン

### 1.1.1 File Sharing サーバのセットアップ

Collaboration Setup Navigation では File Sharing サーバを新規構築できます。File Sharing サーバの詳細については、次のマニュアルを参照してください。

- 製品概要  
マニュアル「Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド」
- 製品のインストール方法  
マニュアル「Collaboration 導入ガイド」

File Sharing サーバをセットアップするために必要な前提製品は次のとおりです。

表 1-2 File Sharing サーバの前提製品

前提製品			対象マシン	
製品名	対応するバージョン	製品の用途, マニュアルの記述箇所	File Sharing マシン	HiRDB マシン
TPBroker	( uCosminexus Application Server に同梱されるものを使用 )	File Sharing サーバのセットアップコマンドの実行に必要な機能や, 動作に必要な環境変数を提供します。		-
DABroker Library	( リリースノート参照 )	File Sharing サーバの動作に必要な環境変数を提供します。 マニュアル「 Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド」の DABroker Library のインストール手順を参照してください。		
HiRDB/ シングルサーバ	08-05	File Sharing サーバがデータベースとして使用します。 詳細についてはマニュアル「 HiRDB Version 8 システム導入・設計ガイド ( Windows(R) 用 )」を参照してください。	-	
HiRDB/Run Time	08-05			-

( 凡例 )

- : 製品のインストール・セットアップが必要です。
- : 製品のインストール・セットアップは不要です。

## 1.1.2 Scheduler Server および Facilities Manager のセットアップ

Collaboration Setup Navigation では Scheduler Server および Facilities Manager を HiRDB と連携する環境 ( DB モード ) で新規構築できます。また, Collaboration Setup Navigation で構築したシステムに, ファイルモードからデータを移行できます。

構築には次の制限があります。

- 構築できる HiRDB システムは, シングルサーバ構成だけです。
- 構築済みの HiRDB システムに Scheduler Server および Facilities Manager 用のデータベースは追加できません。

Scheduler Server および Facilities Manager の詳細については, マニュアル「 Groupmax Scheduler/Facilities Manager Version 7 システム管理者ガイド」( Windows 版 ) を参照してください。

Scheduler Server および Facilities Manager の前提製品は次のとおりです。

1. Collaboration Setup Navigation の概要

表 1-3 Scheduler Server および Facilities Manager の前提製品

前提製品			対象マシン		
製品名	対応するバージョン	製品の用途, マニュアルの記述箇所	Scheduler マシン		HiRDB マシン
			マスターサーバ	スレーブサーバ	
Address Server	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows Server 2008 を使用する場合 07-80 以降</li> <li>Windows Server 2008 以外の OS を使用する場合 07-00 以降</li> </ul>	Groupmax システム全体のユーザ情報を一元管理します。詳細についてはマニュアル「Groupmax Address/Mail Version 7 システム管理者ガイド 基本操作編」を参照してください。		-	-
Object Server	(Address Server の製品バージョンに依存)	Address Server の前提製品です。Address Server と同じマシンにインストールしてください。詳細についてはマニュアル「Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド」を参照してください。			
HiRDB/ シングルサーバ	08-05	Scheduler Server および Facilities Manager がデータベースとして使用します。詳細についてはマニュアル「HiRDB Version 8 システム導入・設計ガイド (Windows(R) 用)」を参照してください。	-	-	
HiRDB/Run Time					-
HiRDB SQL Executer		管理ツールコマンド (DB モードで情報の出力・設定を実行するコマンド) を実行するマシンで使用します。詳細についてはマニュアル「HiRDB Version 8 UAP 開発ガイド」を参照してください。	1	1	-
JRE	1.4.2 Version5 Version6	次の作業で使用します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Scheduler Server および Facilities Manager のスケジュール削除コマンド (SFdelsch コマンド) の実行</li> <li>ストアドプロシジャの動作</li> </ul>		- 2	

(凡例)

: 製品のインストール・セットアップが必要です。

- : 製品のインストール・セットアップは不要です。

注 1

HiRDB SQL Executer は、管理ツールコマンドを実行するマシンへインストールしてください。

注 2

ファイルモードから移行する場合は、すべてのスレーブサーバにもインストールしてください。

## 1.2 Collaboration Setup Navigation のインストールとセットアップ

---

Collaboration Setup Navigation を起動するまでの手順を次に示します。Collaboration Setup Navigation は、必ず管理者権限のあるユーザで実行してください。

### 操作

1. JRE を使用できるようにするため、前提製品である uCosminexus Application Server をインストールします。  
uCosminexus Application Server は Groupmax Collaboration - Server に同梱されています。uCosminexus Application Server のインストール方法についてはリリースノートを参照してください。JRE の使用が目的のため、セットアップ作業は必要ありません。
2. Collaboration Setup Navigation をインストールします。  
Collaboration Setup Navigation のデフォルトのインストール先は、使用している Windows によって次のように異なります。
  - Windows Server 2008 R2 , Windows Server 2008 x64 , Windows Server 2003 R2 x64 Editions の場合  
*Windows のシステムドライブ:*¥Program  
Files(x86)¥Hitachi¥CollaborationSetupNavi
  - 上記以外の Windows の場合  
*Windows のシステムドライブ:*¥Program Files¥Hitachi¥CollaborationSetupNavi
3. 必要に応じて、Collaboration Setup Navigation のセットアップ時の動作環境を変更します。  
セットアップナビゲーション画面やトレースなどの動作環境は、Collaboration Setup Navigation の動作環境ファイルで変更できます。定義したファイルは、セットアップナビゲーション画面を開いた際に読み込まれます。  
動作環境ファイルについては、「4.1.1 動作環境ファイル」を参照してください。

これらの作業が完了したら、セットアップする製品のインストールとセットアップを実施します。セットアップ対象の製品は、セットアップの前にインストールを完了させてください。セットアップ準備については、「2.2 File Sharing サーバのセットアップ手順」または「3.2 Scheduler Server および Facilities Manager のセットアップ手順」を参照してください。



## 1.3 Collaboration Setup Navigation のセットアップナビゲーション画面

---

セットアップする製品の構築情報は、セットアップナビゲーション画面で設定します。セットアップナビゲーション画面は次のどちらかの方法で開いてください。

- Windows の [ スタート ] - [ プログラム ] - [ Collaboration Setup Navigation ] から「Setup Navigation 起動」を選択する。
- `csn_navistart` コマンドを実行する。  
`csn_navistart` コマンドについては、「5.2.1 セットアップナビゲーション画面を開く (`csn_navistart` コマンド)」を参照してください。

セットアップするには、セットアップナビゲーション画面でセットアップする製品を選択し、フロー表示領域に表示されるフローに従って作業を進めます。セットアップナビゲーション画面の構成を次に示します。

# 1. Collaboration Setup Navigation の概要

図 1-1 セットアップナビゲーション画面の構成

ヘッダ表示領域  
メニューや [終了] ボタンなどが表示される。  
[終了] ボタンをクリックすると、画面が閉じる。

タイトル表示領域  
セットアップ中の製品名と  
ステップ名が表示される。

構築手順表示領域  
セットアップ対象の  
製品を選択する。

フロー表示領域  
構築手順表示領域に  
表示されたステップの  
フローが表示される。

設定表示領域  
フロー表示領域で選択されたプロセスの設  
定方法が表示される。  
エラー発生時はエラーメッセージ表示領域  
となり、エラーメッセージが表示される。

セットアップナビゲーション画面の領域の操作手順を次に説明します。

## 操作

1. 構築手順表示領域で、セットアップする製品を選択します。  
選択した製品名の下に、セットアップ手順がステップとして表示されます。  
フロー表示領域に、ステップ内の全プロセスがフロー形式で表示されます。プロセスを直接クリックして、設定表示領域に構築情報を表示することもできます。
2. 設定表示領域で、フロー表示領域のプロセスに該当する構築情報を設定します。

セットアップナビゲーション画面で設定した構築情報は、ヘッダ表示領域の [アクション] メニューで次のように入力値ファイルとして保存したり、保存内容を画面上へ読み込んだりできます。

- セットアップナビゲーション画面で構築情報を定義したあと、[アクション ] - [名前を付けて保存] を選択して、入力値ファイルとして任意の場所へ保存できます。入力値ファイルは XML 形式で保存されます。
- 保存した入力値ファイルの内容をセットアップナビゲーション画面に表示したい場合、[アクション ] - [開く] を選択して入力値ファイルを指定すると、入力値ファイルの内容がセットアップナビゲーション画面に表示されます。

また、[アクション ] メニューのほかのサブメニューを使って、入力値ファイルの内容を上書きしたり、設定した構築情報を破棄したりすることもできます。

また、セットアップナビゲーション画面で構築情報を設定したあと、入力値ファイルはセットアップファイルと一緒に出力されます。出力場所とファイル名については、「4. Collaboration Setup Navigation およびそのセットアップ製品で使用するファイル」のセットアップファイルの説明を参照してください。



# 2

## File Sharing サーバをセットアップする

この章では、Collaboration Setup Navigation を使った File Sharing サーバのセットアップ手順を説明します。  
この章に登場するセットアップ手順の順に作業を進めてください。

- 
- 2.1 Collaboration Setup Navigation のシステム構成（File Sharing サーバを構築する場合）

---

  - 2.2 File Sharing サーバのセットアップ手順

---

  - 2.3 Collaboration Setup Navigation で構築情報を設定する

---

  - 2.4 File Sharing マシンでセットアップ作業を実行する

---

  - 2.5 HiRDB をセットアップする（csn\_cfv\_dbsetup コマンド）
-

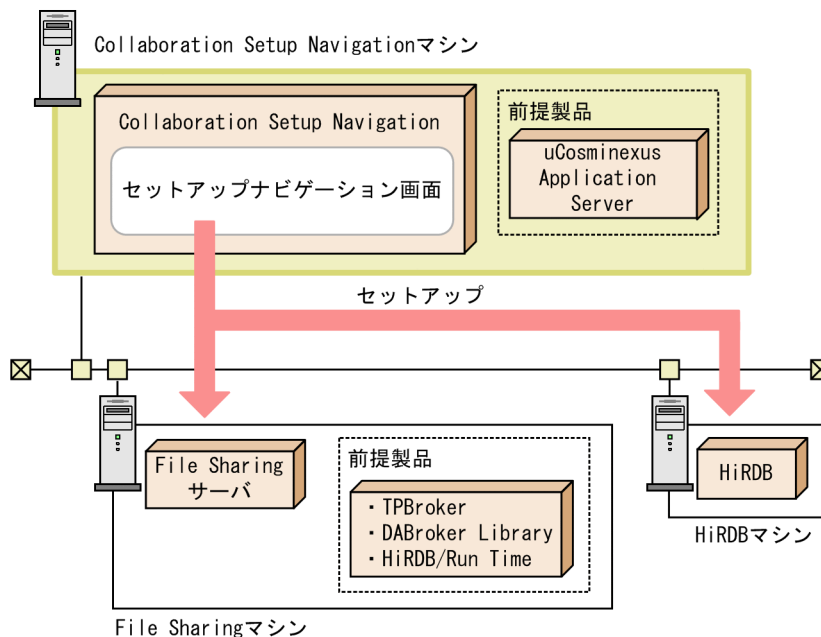
## 2.1 Collaboration Setup Navigation のシステム構成 (File Sharing サーバを構築する場合)

Collaboration Setup Navigation で File Sharing サーバを構築する場合、Collaboration Setup Navigation マシンのほかに次のマシンが必要です。

- File Sharing マシン
- HiRDB マシン

システム構成を次の図に示します。

図 2-1 システム構成 (File Sharing サーバを構築する場合)



## 2.2 File Sharing サーバのセットアップ手順

---

File Sharing サーバのセットアップの準備とセットアップ手順を次に示します。

### (1) File Sharing サーバのセットアップの準備をする

File Sharing サーバをセットアップする前に、セットアップ対象の製品をインストールし、その前提製品をインストールする作業が必要です。

必要なマシンは File Sharing マシンおよび HiRDB マシンです。これらのマシンの役割を 1 台のマシンで兼ねることもできます。

セットアップ準備の流れを次に示します。

- |   |   |
|---|---|
|  | <ol style="list-style-type: none"><li>1. 各マシンに、前提製品をインストール</li><li>2. File Sharingマシンに、File Sharingサーバをインストール</li></ol> |
|---|---|

操作

1. 各マシンで使用する製品について、前提製品のインストールを実施します。  
マシンごとの前提製品については「1.1.1 File Sharing サーバのセットアップ」を参照してください。
2. File Sharing マシンに File Sharing サーバをインストールします。

### (2) File Sharing サーバをセットアップする

File Sharing サーバをセットアップする流れは次のとおりです。

## 2. File Sharing サーバをセットアップする

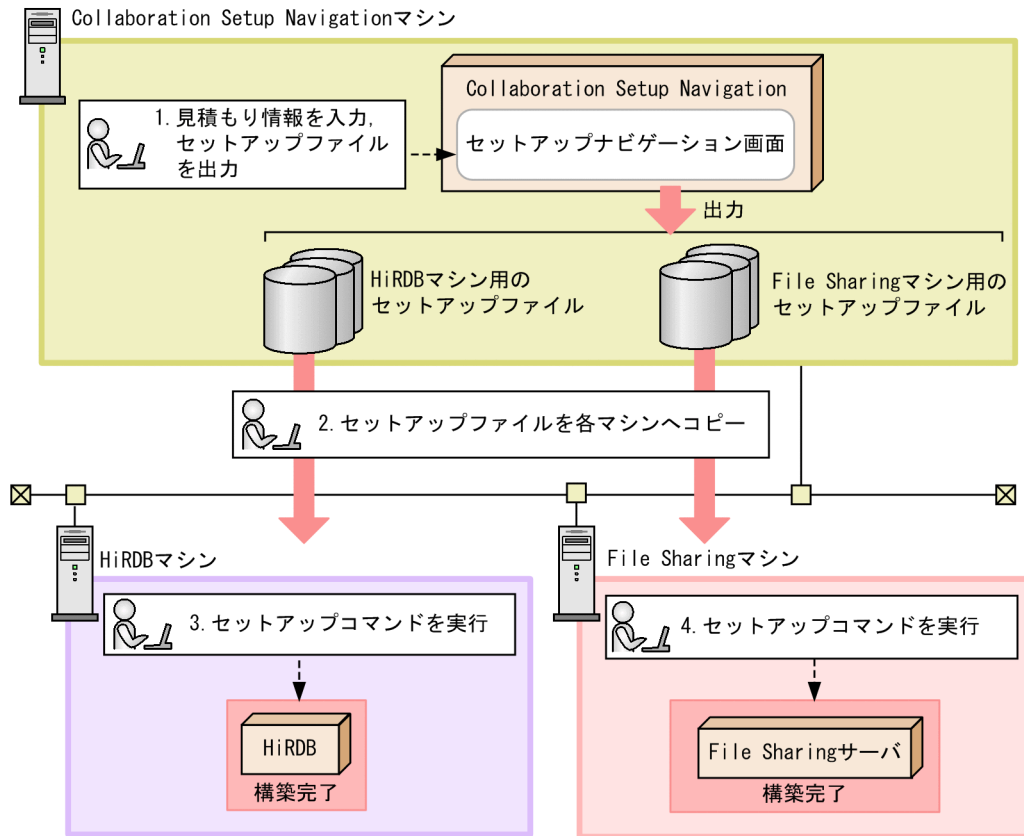


表 2-1 セットアップ手順

手順	マシン	作業内容	説明箇所
1	Collaboration Setup Navigation マシン	セットアップナビゲーション画面で構築情報を入力します。最後まで入力が完了したら、セットアップファイルを出力します。	2.3 節
2	File Sharing マシン HiRDB マシン	出力されたセットアップファイルを File Sharing マシンおよび HiRDB マシンの任意のディレクトリへコピーします。	2.4.1 項
3	HiRDB マシン	HiRDB マシン上でセットアップコマンドを実行します。これによって、HiRDB マシンの構築が完了します。	2.5 節
4	File Sharing マシン	File Sharing マシンでセットアップコマンドを実行します。これによって、File Sharing マシンの構築が完了します。	2.4.2 項



## 2.3 Collaboration Setup Navigation で構築情報を設定する

この節では、セットアップナビゲーション画面での構築情報の設定について説明します。

構築情報を設定するためのセットアップナビゲーション画面は、次のどちらかの方法で開いてください。

- Windows の [ スタート ] - [ プログラム ] - [ Collaboration Setup Navigation ] から「Setup Navigation 起動」を選択する。
- `csn_navistart` コマンドを実行する。  
`csn_navistart` コマンドについては、「5.2.1 セットアップナビゲーション画面を開く (`csn_navistart` コマンド)」を参照してください。

### 2.3.1 セットアップナビゲーション画面で構築情報を設定する

ここでは、セットアップナビゲーション画面での構築情報の設定手順を説明します。

#### (1) セットアップナビゲーション画面で構築情報を設定する

セットアップナビゲーション画面では、各画面で構築情報を設定し、[ 次へ ] ボタンで次の画面へ進みます。

セットアップナビゲーション画面で設定する値の説明を次に示します。

表 2-2 セットアップナビゲーション画面で設定する値の説明

画面名	画面項目	説明
「ステップ 4 : File Sharing サーバの設定」の [ 3.File Sharing サーバの接続設定 ] 画面	HiRDB 識別子	HiRDB のシステム共通定義に指定する HiRDB 識別子を指定します。
	ユニット識別子	HiRDB のシステム共通定義やユニット制御情報定義に指定するユニット識別子を指定します。
	パスワード	HiRDB に接続するためのパスワードを指定します。
	パスワード (再入力)	確認のため、パスワードを再入力します。
	HiRDB 運用ディレクトリ	HiRDB のインストールディレクトリを指定します。
	HiRDB ファイルシステム領域格納先ディレクトリ	File Sharing サーバ用の HiRDB ファイルシステム領域を格納するディレクトリを指定します。

## 2. File Sharing サーバをセットアップする

画面名	画面項目	説明
	スケジューラプロセスのポート番号	HiRDB のスケジューラプロセスのポート番号を指定します。HiRDB システム共通定義の pd_service_port オペランドに対応します。

設定手順のうちポイントとなる事項を次に示します。

### 操作

1. 「ステップ 2：データベース容量の見積もり」の [1. データベース容量の見積もり方法] 画面で、File Sharing サーバを利用するユーザ数を「5,000 人まで」「10,000 人まで」「30,000 人まで」の中から選択します。  
この 3 パターンに対しては、見積もりデータのサンプルが用意されています。サンプルの値を変更したい場合は、チェックボックス「選択したユーザ数をもとに個別に設定する。」をオンにしてください。オフにした場合は、Collaboration Setup Navigation が提供する見積もりのサンプル値を使用できます。
2. チェックボックス「選択したユーザ数をもとに個別に設定する。」をオンにした場合、出力される見積もり基礎情報ファイルを基に見積もりファイルを作成して、「ステップ 2：データベース容量の見積もり」の [7. 見積もりファイルの指定] 画面で読み込みます。  
[7. 見積もりファイルの指定] 画面を開いた時点で、セットアップナビゲーション画面で設定した内容を基に見積もり基礎情報ファイルが出力されます。見積もり基礎情報ファイルについては、「(2) 見積もり基礎情報ファイルの出力内容を確認する」を参照してください。
3. 「ステップ 5：完了」でセットアップファイルを出力し、画面を閉じます。

## (2) 見積もり基礎情報ファイルの出力内容を確認する

見積もり基礎情報ファイルは、セットアップナビゲーション画面で設定した見積もり情報を基に出力されるファイルです。セットアップナビゲーション画面の「ステップ 2：データベース容量の見積もり」の [7. 見積もりファイルの指定] 画面を開いた際に、CSV 形式で出力されます。見積もり基礎情報ファイルの出力内容については、「4.2.2 見積もり基礎情報ファイル」を参照してください。

見積もり基礎情報ファイルの出力先ディレクトリを次に示します。

Collaboration Setup Navigation のインストールディレクトリ  
¥systems¥cfv¥sample

出力された見積もり基礎情報ファイルを基に、RD エリアの容量を算出してください。RD エリアの容量の算出方法については、マニュアル「HiRDB Version 8 システム導入・設計ガイド (Windows(R) 用)」を参照してください。

RD エリアの容量は、次の手順で設定します。

1. 見積もりファイルを作成し、[ 7. 見積もりファイルの指定 ] 画面でその格納場所を指定する。  
見積もりファイルの作成については、「(3) 見積もりファイルを作成する」を参照してください。
2. 表示された画面で見積もりデータを編集する。

### (3) 見積もりファイルを作成する

見積もりファイルには、セットアップナビゲーション画面で出力した見積もり基礎情報ファイルを基に、次に示す定義パラメタをユーザが指定します。

- HiRDB ファイルシステム領域のサイズ
- RD エリアのセグメント数
- RD エリアの 1 セグメント当たりのページ数
- グローバルバッファの面数
- シンクポイントダンプファイルの 1 ファイル当たりのレコード数
- サーバ用ステータスファイルの 1 ファイル当たりのレコード数

見積もり基礎情報ファイルを使用した見積もりファイルの作成方法については、「4.2.3 見積もりファイル」を参照してください。

## 2.3.2 セットアップファイルを出力する

セットアップナビゲーション画面ですべての構築情報を入力したら、次の手順でセットアップファイルの出力先ディレクトリを指定してください。

操作

1. [ 設定内容の確認 ] 画面のチェックボックス「セットアップファイルを出力する。」をオンにし、[ 次へ ] ボタンをクリックする。
2. ダイアログでセットアップファイルの保存場所を指定する。

これによって、指定したディレクトリに次の構成でファイルが出力されます。

```

セットアップファイルの出力先ディレクトリ
filesharingserver
  setupfiles
    filesharingserver (File Sharingマシン用のセットアップファイルの出力先)
    filesharingserver_envid_n
                        (File Sharingマシン用のセットアップファイルの出力先)
    hirdb (HiRDBマシン用のセットアップファイルの出力先)
    csn_cfv_setinfo.csv (設定内容ファイル)

```

注

このディレクトリは、複数のファイル共有サーバの実行環境を作成する場合に、実行環境の数から 1 を引いた数だけ作成されます。 $n$  には 1 ~ 254 の整数値が連番で付与されます。

セットアップファイルは File Sharing マシン用と HiRDB マシン用とに分かれて出力さ

## 2. File Sharing サーバをセットアップする

れます。セットアップファイルはセットアップコマンドなど、複数のファイルから構成されます。ディレクトリ構成の詳細については、「4.2.4 セットアップファイル」を参照してください。

## 2.4 File Sharing マシンでセットアップ作業を実行する

この節では、File Sharing マシンで実行するセットアップ作業を説明します。

### 2.4.1 セットアップファイルを各マシンにコピーする

「2.3.2 セットアップファイルを出力する」で出力されたセットアップファイルの出力先ディレクトリのうち、次に示すディレクトリを File Sharing マシンおよび HiRDB マシンへコピーしてください。

セットアップファイルの出力先ディレクトリ	
filesharingserver	
setupfiles	
filesharingserver	File Sharingマシンへコピー
filesharingserver_envid_n	File Sharingマシンへコピー
hirdb	HiRDBマシンへコピー

(凡例)

$n$ : 1 ~ 254 の整数値

コピー先のマシンでは、次の条件を満たす任意のディレクトリへコピーしてください。

- 実行ユーザに書き込み権限がある。
- セットアップファイルのパスが OS の最大パス長を超えない。

### 2.4.2 File Sharing サーバをセットアップする ( csn\_cfv\_setup コマンド )

File Sharing マシン上で File Sharing サーバをセットアップするには、`csn_cfv_setup` コマンドを実行します。`csn_cfv_setup` コマンドについては、「5.3.1 File Sharing サーバをセットアップする ( csn\_cfv\_setup コマンド )」を参照してください。

## 2.5 HiRDB をセットアップする ( csn\_cfv\_dbsetup コマンド )

---

File Sharing サーバで使用する HiRDB をセットアップするには、HiRDB マシン上で `csn_cfv_dbsetup` コマンドを実行します。`csn_cfv_dbsetup` コマンドについては、「5.3.2 HiRDB をセットアップする ( csn\_cfv\_dbsetup コマンド )」を参照してください。

# 3

## Scheduler Server および Facilities Manager をセット アップする

この章では、Collaboration Setup Navigation を使った Scheduler Server および Facilities Manager のセットアップ手順を説明します。

この章に登場するセットアップ手順の順に作業を進めてください。

- 
- 3.1 Collaboration Setup Navigation のシステム構成（Scheduler Server および Facilities Manager を構築する場合）

---

  - 3.2 Scheduler Server および Facilities Manager のセットアップ手順

---

  - 3.3 Collaboration Setup Navigation で構築情報を設定する

---

  - 3.4 Scheduler マシンでセットアップ作業を実行する

---

  - 3.5 HIRDB マシンでセットアップ作業を実行する
-

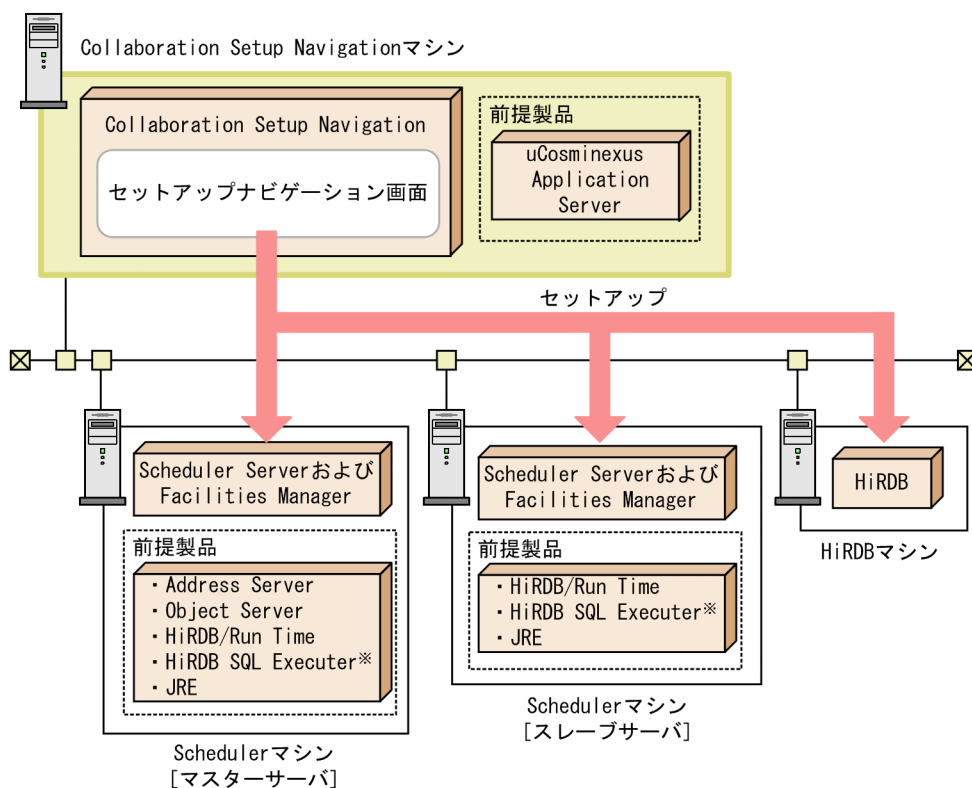
## 3.1 Collaboration Setup Navigation のシステム構成 ( Scheduler Server および Facilities Manager を構築する場合 )

Collaboration Setup Navigation で Scheduler Server および Facilities Manager を構築する場合、Collaboration Setup Navigation マシンのほかに次のマシンが必要です。

- Scheduler マシン ( マスターサーバとスレーブサーバ )
- HiRDB マシン

システム構成を次の図に示します。

図 3-1 システム構成 ( Scheduler Server および Facilities Manager を構築する場合 )



注※

HiRDB SQL Executerは、管理ツールコマンドを実行するマシンへインストールしてください。



## 3.2 Scheduler Server および Facilities Manager のセットアップ手順

Scheduler Server および Facilities Manager のセットアップの準備とセットアップ手順を次に示します。

### (1) Scheduler Server および Facilities Manager のセットアップの準備をする

Scheduler Server および Facilities Manager をセットアップする前に、セットアップ対象の製品をインストールし、その前提製品をインストールする作業が必要です。

使用できるシステム構成とマシンは次のとおりです。

#### システム構成

構成	説明
シングルサーバ構成	マスターサーバ 1 台だけで構成されるシステム
マルチサーバ構成	マスターサーバと、スレーブサーバで構成されるシステム

#### 使用するマシンの種類

マシンの種類		必要数
Scheduler マシン	マスターサーバ	1 台
	スレーブサーバ	0 台以上
HiRDB マシン		1 台

セットアップ準備の流れを次に示します。



1. マスターサーバに、Groupmax 関連の前提製品をインストール
2. 各マシンに、HiRDB 製品をインストール
3. 各マシンに、Scheduler Server および Facilities Manager をインストール
4. マスターサーバの Address Server で、Scheduler Server で使用するユーザを登録

#### 操作

1. マスターサーバへ管理者権限のあるユーザ ID でログインし、Groupmax 関連の前提製品のインストールを実施します。  
Groupmax 関連の前提製品については「1.1.2 Scheduler Server および Facilities Manager のセットアップ」を参照してください。
2. 各マシンへ管理者権限のあるユーザ ID でログインし、HiRDB 関連製品のインストールを実施します。  
HiRDB 関連の前提製品については「1.1.2 Scheduler Server および Facilities

### 3. Scheduler Server および Facilities Manager をセットアップする

Manager のセットアップ」を参照してください。

#### **!** 注意事項

すでに HiRDB がインストールされているマシンに対して、Scheduler Server および Facilities Manager 用の HiRDB はインストールできません。

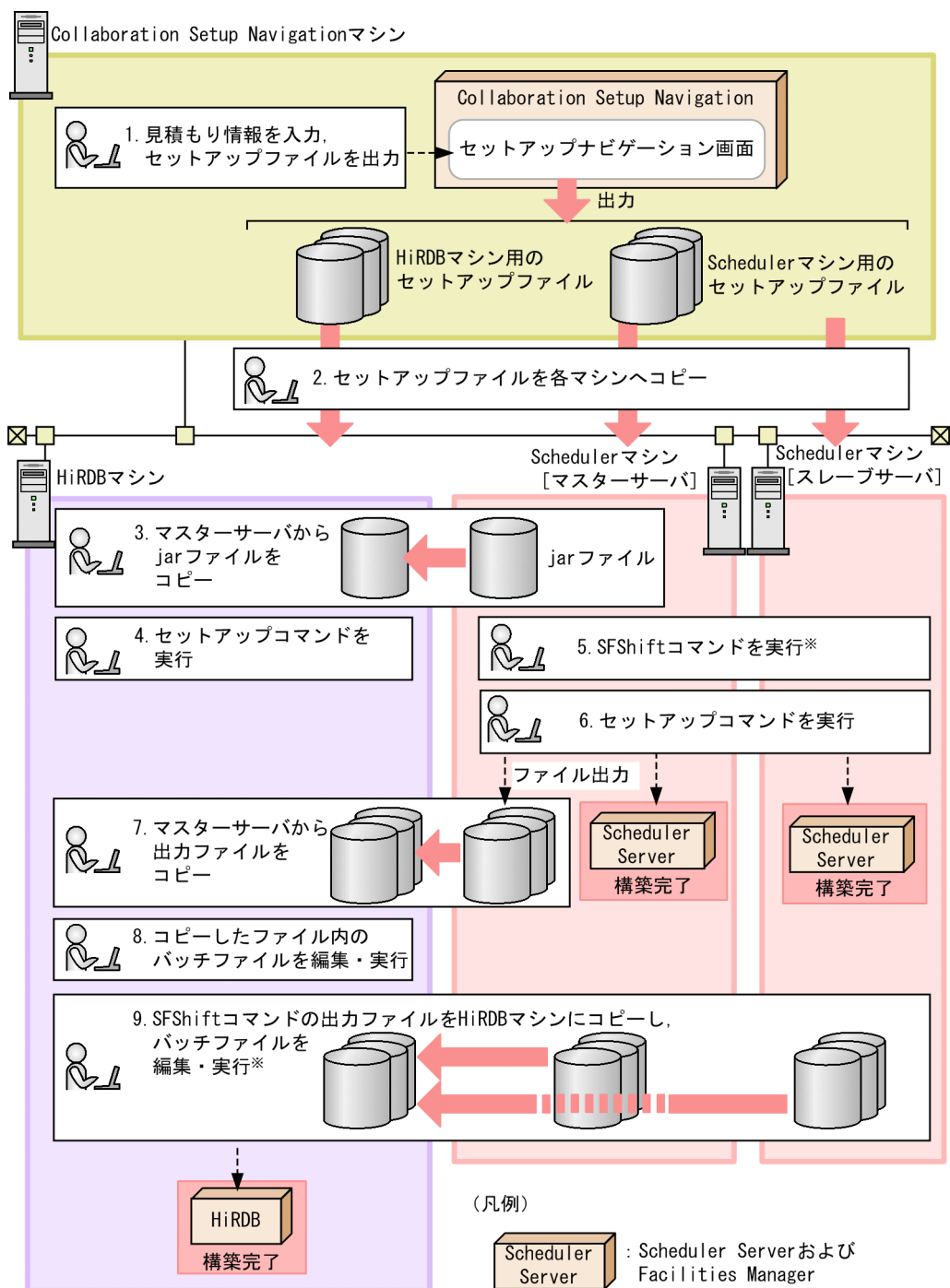
---

3. マスターサーバおよびスレーブサーバに、Scheduler Server および Facilities Manager をインストールします。
4. Address Server で、Scheduler Server で使用するユーザを登録します。  
詳細についてはマニュアル「Groupmax Address/Mail Version 7 システム管理者ガイド 基本操作編」を参照してください。

### (2) Scheduler Server および Facilities Manager をセットアップする

Scheduler Server および Facilities Manager をセットアップする流れは次のとおりです。

### 3. Scheduler ServerおよびFacilities Managerをセットアップする



注※ ファイルモードからデータを移行する  
場合だけ必要な手順です。

### 3. Scheduler Server および Facilities Manager をセットアップする

表 3-1 セットアップ手順

手順	マシン	作業内容	説明箇所
1	Collaboration Setup Navigation マシン	セットアップナビゲーション画面で構築情報を入力します。最後まで入力が完了したら、セットアップファイルを出力します。	3.3 節
2	Scheduler マシン HiRDB マシン	出力されたセットアップファイルを Scheduler マシンおよび HiRDB マシンの任意のディレクトリへコピーします。	3.4.1 項
3	Scheduler マシン HiRDB マシン	Scheduler マシンのマスターサーバから、gmax_scheduler_stpr.jar ファイルを HiRDB マシンへコピーします。	3.5.1 項
4	HiRDB マシン	HiRDB マシン上でセットアップコマンドを実行します。	3.5.2 項
5	Scheduler マシン	ファイルモードからデータを移行する場合、移行元の Scheduler マシンで SFShift コマンドを実行して移行用ファイルを作成します。	3.5.3(1)
6	Scheduler マシン	Scheduler マシン（マスターサーバ、スレーブサーバとも）でセットアップコマンドを実行します。これによって、Scheduler マシンの構築が完了します。この結果、マスターサーバでは Scheduler Server および Facilities Manager の GetAdAll コマンド（DBモード用）が実行され、HiRDB マシン構築用のファイルが出力されます。	3.4.2 項
7	Scheduler マシン HiRDB マシン	Scheduler マシンでセットアップコマンド実行によって出力されたファイルを HiRDB マシンへコピーします。	3.5.3 項
8	HiRDB マシン	コピーしたファイルの中のバッチファイルを編集します。 編集したバッチファイルを実行します。	
9	HiRDB マシン	5. で SFShift コマンドを実行した場合は、SFShift コマンドが出力したファイルを HiRDB マシンにコピーして、バッチファイルを編集したあとに実行します。 これによって、HiRDB マシンの構築が完了します。	3.5.3(1)

## 3.3 Collaboration Setup Navigation で構築情報を設定する

この節では、セットアップナビゲーション画面での構築情報の設定について説明します。

構築情報を設定するためのセットアップナビゲーション画面は、次のどちらかの方法で開いてください。

- Windows の [ スタート ] - [ プログラム ] - [ Collaboration Setup Navigation ] から「Setup Navigation 起動」を選択する。
- `csn_navistart` コマンドを実行する。  
`csn_navistart` コマンドについては、「5.2.1 セットアップナビゲーション画面を開く (`csn_navistart` コマンド)」を参照してください。

### 3.3.1 セットアップナビゲーション画面で構築情報を設定する

ここでは、セットアップナビゲーション画面での構築情報の設定手順を説明します。

#### (1) セットアップナビゲーション画面で構築情報を設定する

セットアップナビゲーション画面では、各画面で構築情報を設定し、[ 次へ ] ボタンで次の画面へ進みます。

セットアップナビゲーション画面で設定する値の説明を次に示します。

表 3-2 セットアップナビゲーション画面で設定する値の説明

画面名	画面項目	説明
「ステップ 1: メモリ所要量の見積もり」の [ 1. メモリ所要量の見積もり ] 画面	Scheduler Server に対するクライアント接続数	Scheduler Server のメモリ使用量を見積もるために使用します。 Collaboration Setup Navigation が出力する <code>csn_ssv_sv_mem.txt</code> に見積もり値が出力されます。
	Facilities Manager に対するクライアント接続数	Facilities Manager のメモリ使用量を見積もるために使用します。 Collaboration Setup Navigation が出力する <code>csn_ssv_rmsv_mem.txt</code> に見積もり値が出力されます。
「ステップ 2: HiRDB 設定情報」の [ 1.HiRDB 環境情報の設定 ] 画面	HiRDB 識別子	HiRDB のシステム共通定義に指定する HiRDB 識別子を指定します。
	ユニット識別子	HiRDB のシステム共通定義やユニット制御情報定義に指定するユニット識別子を指定します。

### 3. Scheduler Server および Facilities Manager をセットアップする

画面名	画面項目	説明
	認認識別子	HiRDB に接続するための認認識別子を指定します。
	パスワード	HiRDB に接続するためのパスワードを指定します。
	パスワード (再入力)	確認のため、パスワードを再入力します。
	最大同時接続数	HiRDB が受け付ける同時接続数の最大値を指定します。HiRDB システム共通定義の pd_max_user オペランドに対応します。
	スケジューラプロセスのポート番号	HiRDB のスケジューラプロセスのポート番号を指定します。HiRDB システム共通定義の pd_service_port オペランドに対応します。
	JRE インストールパス	HiRDB サーバ上にインストールした JRE のルートディレクトリを指定します。HiRDB システム共通定義の pd_java_runtimepath に対応します。
	HiRDB 運用ディレクトリ	HiRDB のインストールディレクトリを指定します。
	HiRDB ファイルシステム領域格納先ディレクトリ	Scheduler Server 用の HiRDB ファイルシステム領域を格納するディレクトリを指定します。
「ステップ 2 : HiRDB 設定情報」の [ 6. セキュリティ情報の設定 ] 画面	1 組織グループあたりの組織数	一つの組織グループに設定する組織数の平均値を指定します。

設定手順のうちポイントとなる事項を次に示します。

#### 操作

- 「ステップ 2 : HiRDB 設定情報」の [ 2. システム規模の設定 ] 画面で、Scheduler Server および Facilities Manager を利用するユーザ数を「5,000 人まで」「10,000 人まで」「30,000 人まで」の中から選択します。  
この 3 パターンに対しては、見積もりデータのサンプルが用意されています。サンプルの値を変更したい場合は、チェックボックス「選択したユーザ数をもとに個別に設定する。」をオンにしてください。オフにした場合は、Collaboration Setup Navigation が提供する見積もりのサンプル値を使用できます。
- チェックボックス「選択したユーザ数をもとに個別に設定する。」をオンにした場合、出力される見積もり基礎情報ファイルを基に見積もりファイルを作成して、「ステップ 2 : HiRDB 設定情報」の [ 8. 見積もりファイルの指定 ] 画面で読み込みます。  
[ 8. 見積もりファイルの指定 ] 画面を開いた時点で、セットアップナビゲーション画面で設定した内容を基に見積もり基礎情報ファイルが出力されます。見積もり基礎情報ファイルについては、「(2) 見積もり基礎情報ファイルの出力内容を確認する」を参照してください。

3. 「ステップ4：完了」でセットアップファイルを出力し、画面を閉じます。

## (2) 見積もり基礎情報ファイルの出力内容を確認する

見積もり基礎情報ファイルは、セットアップナビゲーション画面で設定した見積もり情報を基に出力されるファイルです。セットアップナビゲーション画面の「ステップ2：HiRDB 設定情報」の[8. 見積もりファイルの指定]画面を開いた際に、CSV形式で出力されます。見積もり基礎情報ファイルの出力内容については、「4.3.2 見積もり基礎情報ファイル」を参照してください。

見積もり基礎情報ファイルの出力先ディレクトリを次に示します。

*Collaboration Setup Navigation*のインストールディレクトリ  
¥systems¥ssv¥sample

出力された見積もり基礎情報ファイルを基に、RD エリアの容量を算出してください。RD エリアの容量の算出方法については、マニュアル「HiRDB Version 8 システム導入・設計ガイド (Windows(R) 用)」を参照してください。

RD エリアの容量は、次の手順で設定します。

1. 見積もりファイルを作成し、[8. 見積もりファイルの指定]画面でその格納場所を指定する。  
見積もりファイルの作成については、「(3) 見積もりファイルを作成する」を参照してください。
2. 表示された画面で見積もりデータを編集する。

## (3) 見積もりファイルを作成する

見積もりファイルには、セットアップナビゲーション画面で出力した見積もり基礎情報ファイルを基に、次に示す定義パラメタをユーザが指定します。

- HiRDB ファイルシステム領域のサイズ
- RD エリアのセグメント数
- RD エリアの1セグメント当たりのページ数
- グローバルバッファの面数
- シンクポイントダンプファイルの1ファイル当たりのレコード数
- サーバ用ステータスファイルの1ファイル当たりのレコード数

RD エリアのページ長は次のとおりです。

種類	RD エリア	ページ長
テーブル	SSVRDDATA220	8,192 バイト
	SSVRDDATA270	26,624 バイト
	上記以外の RD エリア	4,096 バイト
インデクス	すべての RD エリア	4,096 バイト

### 3. Scheduler Server および Facilities Manager をセットアップする

見積もり基礎情報ファイルを使用した見積もりファイルの作成方法については、「4.3.3 見積もりファイル」を参照してください。

## 3.3.2 セットアップファイルを出力する

セットアップナビゲーション画面ですべての構築情報を入力したら、次の手順でセットアップファイルの出力先ディレクトリを指定してください。

操作

1. [ 設定内容の確認 ] 画面のチェックボックス「セットアップファイルを出力する。」をオンにし、[ 次へ ] ボタンをクリックする。
2. ダイアログでセットアップファイルの保存場所を指定する。

これによって、指定したディレクトリに次の構成でファイルが出力されます。

```
セットアップファイルの出力先ディレクトリ
schedulerserver
  setupfiles
    scheduler
      ホスト名 ( Schedulerマシン用のセットアップファイルの出力先 )
      ホスト名
      :
      hirdb ( HiRDBマシン用のセットアップファイルの出力先 )
csn_ssv_setinfo.csv ( 設定内容ファイル )
```

セットアップファイルは Scheduler マシン用と HiRDB マシン用とに分かれて出力されます。セットアップファイルはセットアップコマンドなど、複数のファイルから構成されます。ディレクトリ構成の詳細については、「4.3.4 セットアップファイル」を参照してください。



## 3.4 Scheduler マシンでセットアップ作業を実行する

---

この節では、Scheduler マシンで実行するセットアップ作業を説明します。

### 3.4.1 セットアップファイルを各マシンにコピーする

「3.3.2 セットアップファイルを出力する」で出力されたセットアップファイルは、それぞれのマシンヘディレクトリごとコピーしてください。

コピー対象のセットアップファイルのディレクトリと、コピー先のマシンを次に示します。

- 「ホスト名」ディレクトリ  
該当するホスト名の Scheduler マシンの任意の場所へコピー
- 「hirdb」ディレクトリ  
HiRDB マシンの任意の場所へコピー

各マシンでは、次の条件を満たす任意のディレクトリへコピーしてください。

- 実行ユーザに書き込み権限がある。
- セットアップファイルのパスが OS の最大パス長を超えない。

### 3.4.2 Scheduler Server および Facilities Manager をセットアップする (csn\_ssv\_setup コマンド)

Scheduler マシン上で、Scheduler Server および Facilities Manager をセットアップするには、csn\_ssv\_setup コマンドを実行します。このコマンドは csn\_ssv\_dbsetup コマンドよりあとに実行してください。

csn\_ssv\_setup コマンドについては、「5.4.1 Scheduler Server および Facilities Manager をセットアップする (csn\_ssv\_setup コマンド)」を参照してください。

## 3.5 HiRDB マシンでセットアップ作業を実行する

---

この節では、HiRDB マシンで実行するセットアップ作業を説明します。

### 3.5.1 jar ファイルをマスターサーバからコピーする

Scheduler マシンのマスターサーバから HiRDB マシンへ、jar ファイルをコピーします。コピーするファイルと、コピー先ディレクトリを次に示します。

コピー元 (マスターサーバ)

*Scheduler Server* および *Facilities Manager* インストールディレクトリ  
¥lib¥gmax\_scheduler\_stpr.jar

コピー先 (HiRDB マシン)

*HiRDB* マシンのセットアップファイルをコピーしたディレクトリ ¥lib

### 3.5.2 HiRDB をセットアップする (csn\_ssv\_dbsetup コマンド)

Scheduler Server および Facilities Manager で使用する HiRDB をセットアップするには、csn\_ssv\_dbsetup コマンドを実行します。csn\_ssv\_dbsetup コマンドについては、「5.4.2 HiRDB をセットアップする (csn\_ssv\_dbsetup コマンド)」を参照してください。

### 3.5.3 HiRDB にデータを登録する

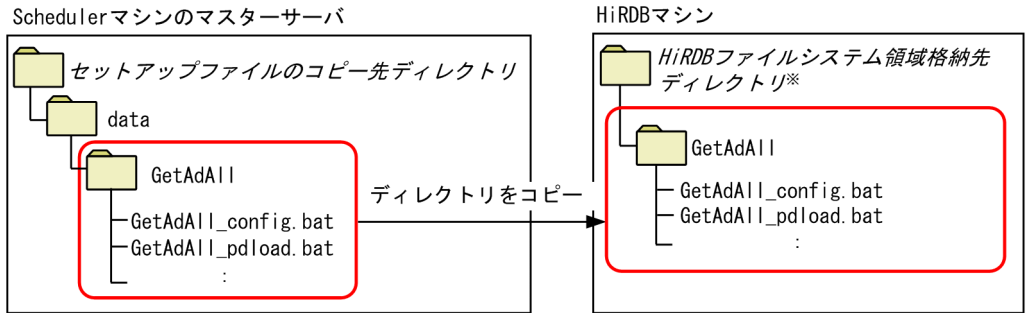
Scheduler マシンで「5.4.1 Scheduler Server および Facilities Manager をセットアップする (csn\_ssv\_setup コマンド)」に示す手順で csn\_ssv\_setup コマンドを実行すると、複数のファイルが生成されます。これらのファイルを HiRDB マシンへコピーし、その中のバッチファイルを実行することで、HiRDB マシンの構築が完了します。

HiRDB の構築を完了するまでの手順を次に示します。

操作

1. csn\_ssv\_setup コマンドから実行された GetAdAll コマンドの出力結果ファイルを HiRDB マシンの任意のディレクトリへコピーします。  
GetAdAll コマンドの出力結果ファイルの場所については、「5.4.1(2) 機能」を参照してください。  
HiRDB マシンへコピーするファイルを次の図に示します。

### 3. Scheduler Server および Facilities Manager をセットアップする



注※

セットアップナビゲーション画面の「ステップ2: HiRDB設定情報」の [1. HiRDB環境情報の設定] 画面で指定します。

- HiRDB マシンへコピーしたファイルのうち、GetAdAll\_config.bat ファイルをテキストエディタで編集します。  
編集項目と設定内容を次の表に示します。「」内は、セットアップナビゲーション画面の [ HiRDB 環境情報の設定 ] 画面の項目です。

編集項目	設定する内容
認識別子	「認識別子」の設定値
パスワード	「パスワード」の設定値
GETADALL	「HiRDB ファイルシステム領域格納先ディレクトリ」に設定した値 ¥GetAdAll

- 次に示すバッチファイルを同じコマンドプロンプト上で実行します。
  - GetAdAll\_config.bat (環境設定バッチファイル)
  - GetAdAll\_pdload.bat (pdload 実行バッチファイル)

#### (1) Scheduler Server および Facilities Manager のファイルモードからデータを移行する場合

Scheduler Server および Facilities Manager のファイルモードからデータを移行する場合は、上記の手順のあとに次に示す手順を実行してください。

操作

- 移行元の Scheduler マシン (ファイルモード環境) で SFShift コマンドを実行します。SFShift コマンドについては、マニュアル「Groupmax Scheduler/Facilities Manager Version 7 システム管理者ガイド」を参照してください。SFShift コマンドを実行すると、移行用ファイルが作成されます。
- SFShift コマンドで生成された移行用ファイルをディレクトリ単位で HiRDB マシンへコピーします。  
コピー対象のディレクトリとコピー先は、親サーバと子サーバで次のように異なります。

### 3. Scheduler Server および Facilities Manager をセットアップする

- 親サーバ (管理データのマスターデータを持つサーバ) の場合  
次に示すディレクトリごと, HiRDB マシンへコピーします。

*Scheduler Server* および *Facilities Manager* インストールディレクトリ  
¥tool¥sfshift¥shift

HiRDB マシンへのコピー先ディレクトリは, SFShift コマンドの `-path` オプション  
で指定したディレクトリです。

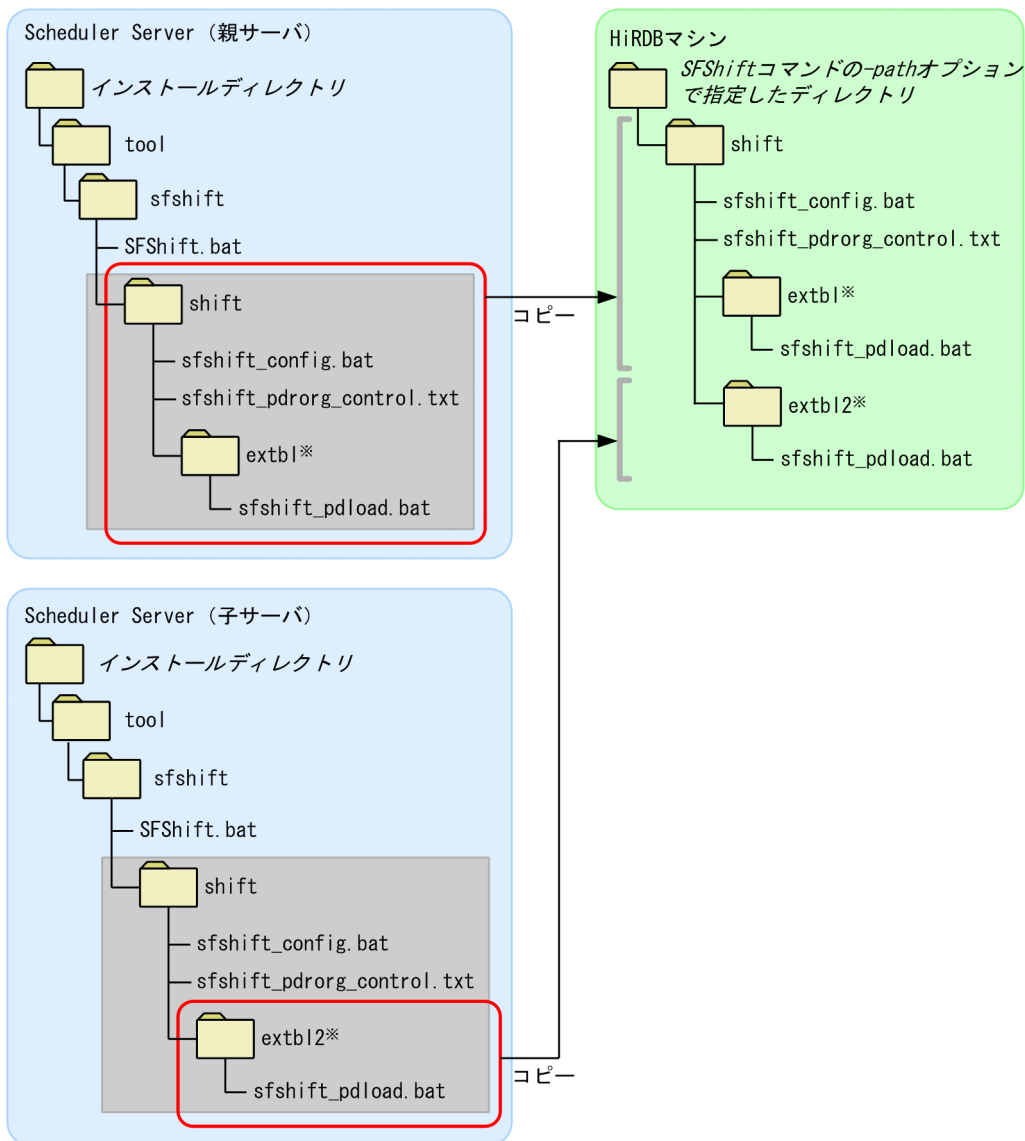
- 子サーバ (ファイルモードで, 親サーバ以外のサーバ) の場合  
次のディレクトリ下のデータのうち, SFShift コマンドの `-out` オプションで指定し  
たディレクトリを HiRDB マシンへコピーします。

*Scheduler Server* および *Facilities Manager* インストールディレクトリ  
¥tool¥sfshift¥shift

親サーバからコピーしたディレクトリの下へコピーしてください。

HiRDB マシンへコピーするディレクトリの範囲を次の図に示します。

図 3-2 HiRDB マシンへコピーするディレクトリの範囲



(凡例)

- : SFShift.batで生成されるディレクトリとファイルの範囲を示します。
- : HiRDBマシンへコピーする範囲を示します。

注※ SFShift.batの-outオプションで指定したディレクトリです。

3. HiRDB マシン上にコピーした移行用ファイルのうち、パッチファイルを編集して実行します。

対象となるパッチファイルは次のとおりです。編集内容についてはマニュアル

「Groupmax Scheduler/Facilities Manager Version 7 システム管理者ガイド」にある、

### 3. Scheduler Server および Facilities Manager をセットアップする

「SFShift コマンドの実行」の記述を参照してください。

- sfshift\_config.bat (環境設定バッチファイル)
- sfshift\_pdload.bat (pdload 実行バッチファイル)
- sfshift\_pdrorg.bat (pdrorg 実行バッチファイル)

# 4

## Collaboration Setup Navigation およびそのセッ トアップ製品で使用する ファイル

この章では、Collaboration Setup Navigation で使用するファイル、および 2 章と 3 章で説明しているセットアップ製品で使用するファイルについて説明します。

Collaboration Setup Navigation と、各セットアップ製品のインストールファイルの構成については、「付録 A ディレクトリ構成」を参照してください。

---

4.1 Collaboration Setup Navigation のファイル

---

4.2 File Sharing サーバのファイル

---

4.3 Scheduler Server および Facilities Manager のファイル

---

## 4.1 Collaboration Setup Navigation のファイル

この節では、Collaboration Setup Navigation の次に示すファイルについて説明します。

- 動作環境ファイル
- 入力値ファイル
- 設定内容ファイル

### 4.1.1 動作環境ファイル

動作環境ファイルの概要を次に示します。

表 4-1 動作環境ファイルの概要

項目	説明
ファイルの用途	主に次の内容を設定・変更したい場合に内容を編集します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• セットアップナビゲーション画面の表示言語の変更</li> <li>• Collaboration Setup Navigation のトレースファイルに関する設定</li> </ul>
ファイルの定義形式	Java のプロパティファイル形式
ファイルの格納場所	<i>Collaboration Setup Navigation</i> のインストールディレクトリ¥conf
ファイル名	csn_framework.properties
ファイル内容が有効になるタイミング	セットアップナビゲーション画面を開いた時

動作環境ファイルはテキストエディタ上で編集し、編集後は上書き保存してください。次の場合は初期値が適用されます。初期値のない csn\_TracePath ではデフォルト値が適用されます。

- キー名または値を省略した場合
- 不正な値を指定した場合

動作環境ファイルの記述形式は次のとおりです。

キー名 = 値

プロパティと定義内容を次に示します。



表 4-2 動作環境ファイルのプロパティ一覧

キー名	定義内容	指定できる値	初期値
csn_TracePath	トレースファイルの出力先ディレクトリのパス。指定を省略した場合は、次のパスが使用されます。 <i>Collaboration Setup Navigation</i> のインストールディレクトリ¥¥logディレクトリの区切り文字には、「¥¥」または「/」を使用してください。	-	(なし)
csn_TraceNum	トレースファイルのサイズが上限を超えた場合に、切り替えるファイルの面数。	1 ~ 16	16
csn_TraceSize	トレースファイルのサイズ(単位: バイト)。	4,096 ~ 2,147,483,647	1048576
csn_TraceLevel	トレースレベル。	0, 10, 20, 30	20
csn_DisplayLang	セットアップナビゲーション画面を開いた直後に表示する言語。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ja (日本語)</li> <li>• en (英語)</li> </ul>	ja
csn_ResourceBasename	(システム固定値)		

(凡例)

- : 該当なし

注

トレースレベルと、出力されるトレース情報との関係は次のとおりです。

トレースレベル	出力されるトレース情報
0	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 例外トレース情報</li> <li>• 重要なイベントのトレース情報</li> </ul>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>• トレースレベル 0 で出力されるトレース情報</li> <li>• 初期化やファイル出力など、重要なメソッドの開始・終了のトレース情報</li> </ul>
20	<ul style="list-style-type: none"> <li>• トレースレベル 10 で出力されるトレース情報</li> <li>• セットアップナビゲーション画面の操作が特定できるメソッドの開始・終了のトレース情報</li> </ul>
30	<ul style="list-style-type: none"> <li>• トレースレベル 20 で出力されるトレース情報</li> <li>• すべてのメソッドの開始・終了のトレース情報</li> </ul>

## 4.1.2 入力値ファイル

入力値ファイルの概要を次に示します。

#### 4. Collaboration Setup Navigation およびそのセットアップ製品で使用するファイル

表 4-3 入力値ファイルの概要

項目	説明
ファイルの用途	入力値ファイルは、システムが次の用途で使用します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• セットアップナビゲーション画面の設定内容を一時保存</li><li>• 一時保存した内容をセットアップナビゲーション画面へ表示</li><li>• セットアップファイルの出力時に、セットアップナビゲーション画面の設定内容を出力</li></ul>
ファイル名	csn_cfv_settings.xml または csn_ssv_settings.xml

セットアップナビゲーション画面の設定内容は、ヘッダ表示領域の [アクション] メニューの操作で入力値ファイルに保存したり、保存内容を画面上へ読み込んだりできます。[アクション] メニューについては、「1.3 Collaboration Setup Navigation のセットアップナビゲーション画面」を参照してください。

また、セットアップナビゲーション画面でセットアップファイルを出力する際には、セットアップナビゲーション画面の設定内容は入力値ファイルとして出力します。出力場所とファイル名については、以降の節での製品ごとのセットアップファイルの説明を参照してください。

### 4.1.3 設定内容ファイル

設定内容ファイルの概要を次に示します。

表 4-4 設定内容ファイルの概要

項目	説明
ファイルの用途	セットアップナビゲーション画面で、ユーザが設定した内容を出力します。
ファイルの定義形式	CSV 形式 (文字コードは UTF-8)
ファイルの格納場所	セットアップナビゲーション画面の出力処理で指定したディレクトリ以下
ファイル名	csn_cfv_setinfo.csv または csn_ssv_setinfo.csv

#### (1) 設定内容ファイルの出力形式

設定内容ファイルはヘッダとボディで構成されます。それぞれの出力形式について次に示します。各項目の詳細については、「(2) 設定内容ファイルの出力情報の詳細」を参照してください。

##### ヘッダ

項目名が列記されている行です。

ヘッダは、ボディより前の行に 1 行だけ記述されています。

- ヘッダの行頭には「#」が付き、コメント行として出力されます。
- ヘッダに出力される項目名は、設定内容ファイルの出力時に選択されている表示

言語で出力されます。

ボディ

出力された値が記述されている行です。ボディは、ヘッダの項目名に対応していません。

## (2) 設定内容ファイルの出力情報の詳細

設定内容ファイルの1行目には、ヘッダとして項目名が出力されます。

設定内容ファイルの項目名と設定値を次の表に示します。設定内容ファイルの保存時に未設定状態のプロセスに属する項目がある場合、その値は空文字で出力されます。

表 4-5 設定内容ファイルの項目名と設定値

項目名	項目の設定値
システム名	セットアップナビゲーション画面の構築手順表示領域に表示されるシステム名
ステップ名	セットアップナビゲーション画面に表示されるステップ番号とステップ名 形式：<ステップ番号> <ステップ名>
プロセス名	セットアップナビゲーション画面に表示されるプロセス名
項目名	セットアップナビゲーション画面の設定表示領域に表示される項目名
設定値	セットアップナビゲーション画面の設定表示領域に表示される入力値

## 4.2 File Sharing サーバのファイル

この節では、File Sharing サーバをセットアップする際にユーザが作成・編集する、次に示すファイルについて説明します。

- 動作環境プロパティファイル
- 見積もり基礎情報ファイル
- 見積もりファイル
- セットアップファイル

### 4.2.1 動作環境プロパティファイル

動作環境プロパティファイルの概要を次に示します。

表 4-6 動作環境プロパティファイルの概要

項目	説明
ファイルの用途	File Sharing サーバのセットアップコマンド名を変更できます。テキストエディタで編集してください。
ファイルの定義形式	Java のプロパティファイル形式
ファイルの格納場所	<i>Collaboration Setup Navigation</i> のインストールディレクトリ ¥systems¥cfv¥etc
ファイル名	csn_cfv.properties
ファイル内容が有効になるタイミング	<i>Collaboration Setup Navigation</i> の起動時

動作環境プロパティファイルの記述形式は次のとおりです。

キー名 = 値

動作環境プロパティファイルのプロパティと定義内容を次に示します。キーの値は 255 文字以内の、印刷可能な ASCII コードで指定してください。

表 4-7 動作環境プロパティファイル (File Sharing サーバ用) のプロパティ一覧

キー名	定義内容	デフォルト値	説明箇所
csn_cfv_SetupCmdName	File Sharing サーバ用のセットアップコマンド名。	csn_cfv_setup	「5.3.1 File Sharing サーバをセットアップする (csn_cfv_setup コマンド)」
csn_cfv_DB_SetupCmdName	HiRDB 用のセットアップコマンド名。	csn_cfv_dbsetup	「5.3.2 HiRDB をセットアップする (csn_cfv_dbsetup コマンド)」

## 4.2.2 見積もり基礎情報ファイル

見積もり基礎情報ファイルの概要を次に示します。

表 4-8 見積もり基礎情報ファイルの概要

項目	説明
ファイルの用途	見積もりに必要なデータを出力するファイルです。 セットアップナビゲーション画面の「ステップ 2：データベース容量の見積もり」の [ 7. 見積もりファイルの指定 ] 画面を開いた際に、設定した見積もり情報が出力されます。
ファイルの定義形式	CSV 形式
ファイルの格納場所	<i>Collaboration Setup Navigation</i> のインストールディレクトリ ¥systems¥cfv¥sample
ファイル名	「(2) 見積もり基礎情報ファイルの出力情報の詳細」を参照してください。
ファイル内容が有効になるタイミング	(ファイルは編集しないため、該当しない)

### (1) 見積もり基礎情報ファイルの出力形式

見積もり基礎情報ファイルは、ヘッダとボディで構成されます。それぞれの出力形式について次に示します。各エントリの詳細については、「(2) 見積もり基礎情報ファイルの出力情報の詳細」を参照してください。

#### ヘッダ

エントリ名が列記されている行です。

ヘッダは、ボディより前の行に 1 行だけ記述されています。

#### ボディ

出力された値が記述されている行です。見積もりに必要な値が出力されます。ボディは、ヘッダのエントリ名に対応しています。

### (2) 見積もり基礎情報ファイルの出力情報の詳細

見積もり基礎情報ファイルは次の 3 種類のファイルから構成されます。File Sharing サーバで利用する HiRDB に関して、次の情報を設定します。

表 4-9 見積もり基礎情報ファイルの出力情報の詳細

ファイル名	名称	説明
EDMestimate.csv	RD エリア見積もり基礎情報ファイル	すべての RD エリアを対象に、データベース容量の見積もりに必要な行の数などの基礎情報を出力します。
csn_cfv_estimate_dumpp.csv	シンクポイントダンプファイル見積もり基礎情報ファイル	HiRDB のシンクポイントダンプファイルのレコード数の見積もりに必要な情報を出力します。
csn_cfv_estimate_status.csv	サーバ用ステータスファイル	HiRDB のステータスファイルのレコード数の見積もりに必要な情報を出力します。

#### 4. Collaboration Setup Navigation およびそのセットアップ製品で使用するファイル

##### (a) RD エリア見積もり基礎情報ファイルの出力内容

RD エリア見積もり基礎情報ファイルの出力内容については、マニュアル「Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド」を参照してください。

##### (b) シンクポイントダンプファイル見積もり基礎情報ファイルの出力内容

シンクポイントダンプファイル見積もり基礎情報ファイルのボディ部には、次の「出力内容」に示す内容が順に出力されます。

表 4-10 シンクポイントダンプファイル見積もり基礎情報ファイルの出力内容

エントリ名	出力内容
pd_max_users	システム共通定義の pd_max_users オペランドに指定する値が出力されます。
pd_lck_until_disconnect_cnt	シングルサーバ定義の pd_lck_until_disconnect_cnt オペランドに指定する値として、「256」が出力されます。
pdlogadfg Count	シングルサーバ定義の pdlogadfg オペランドの定義数として、「3」が出力されます。
Revision Coefficient	補正係数として「1.2」が出力されます。

##### (c) サーバ用ステータスファイルの出力内容

サーバ用ステータスファイルのボディ部には、次の「出力内容」に示す内容が順に出力されます。

表 4-11 サーバ用ステータスファイルの出力内容

エントリ名	出力内容
Record Length	レコード長として、「4,096」が出力されます。
File Count	ステータスファイルの世代数として、「3」が出力されます。
Utility Type	ユティリティ専用ユニットでないことを示す「N」が出力されます。
RDAREA Count	サーバ内の RD エリア数として、「200」が出力されます。
pd_max_users	システム共通定義の pd_max_users オペランドに指定する値が出力されます。
pd_max_rdarea_no	システム共通定義の pd_max_rdarea_no オペランドに指定する値として、「200」が出力されます。
pd_max_file_no	システム共通定義の pd_max_file_no オペランドに指定する値として、「200」が出力されます。
RDAREA pdbuffer Count	システム共通定義の全 pdbuffer オペランドの定義数として、「200」が出力されます。
Index pdbuffer Count	システム共通定義のインデクス用の pdbuffer オペランドの定義数として、「0」が出力されます。
pd_ha_agent	システム共通定義の pd_ha_agent オペランドに指定する値として、「N」が出力されます。

エントリ名	出力内容
pd_log_auto_unload_path	pd_log_auto_unload_path オペランドを指定しないことを示す「N」が出力されます。
System File Group Count	シンクポイントダンプファイルのグループ数とシステムログファイルのグループ数の総和として、「9」が出力されます。
Synchronization Point Dump Count	シンクポイントダンプファイルのグループ数として、「3」が出力されます。
Revision Coefficient	補正係数として「1.2」が出力されます。

### 4.2.3 見積もりファイル

見積もりファイルは、見積もり基礎情報ファイルの内容を基にユーザが見積もった値を設定するファイルです。作成した見積もりファイルは、セットアップナビゲーション画面の [ 7. 見積もりファイルの指定 ] 画面で読み込みます。

見積もりファイルの概要を次に示します。

表 4-12 見積もりファイルの概要

項目	説明
ファイルの用途	<p>セットアップナビゲーション画面で出力した見積もり基礎情報ファイルを基に、次に示す定義パラメタを定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• HiRDB ファイルシステム領域のサイズ</li> <li>• RD エリアのセグメント数</li> <li>• RD エリアの 1 セグメント当たりのページ数</li> <li>• グローバルバッファの面数</li> <li>• シンクポイントダンプファイルの 1 ファイル当たりのレコード数</li> <li>• サーバ用ステータスファイルの 1 ファイル当たりのレコード数</li> </ul> <p>作成した見積もりファイルは、セットアップナビゲーション画面の「ステップ 2: データベース容量の見積もり」の [ 7. 見積もりファイルの指定 ] で格納場所を指定します。</p>
ファイルの定義形式	Java のプロパティファイル形式
ファイルの格納場所	任意のディレクトリ
ファイル名	任意のファイル名
ファイル内容が有効になるタイミング	セットアップナビゲーション画面でのファイル読み込み時

見積もりファイルの記述形式は次のとおりです。

キー名 = 値

見積もりファイルのプロパティと定義内容を次に示します。どのキーも省略不可です。デフォルト値はありません。

4. Collaboration Setup Navigation およびそのセットアップ製品で使用するファイル

表 4-13 見積もりファイルのプロパティ一覧

キー名	定義内容	指定できる値	
csn_cfv_e_pdfmkfs_CFS_SYSTBL_size	右に示す RD エリアの作成先となる HiRDB ファイルシステム領域のサイズを指定します。	1 ~ 1,048,575 の整数 (単位: MB)	
csn_cfv_e_pdfmkfs_CFS_SYSIDX_size			「dmaClass」または「edmClass」で始まる表を格納する RD エリア
csn_cfv_e_pdfmkfs_CFS_USRTBL_size			「dmaClass」または「edmClass」で始まる表に定義されるインデックスを格納する RD エリア
csn_cfv_e_pdfmkfs_CFS_USRIDX_size			「cfsClass」で始まる表を格納する RD エリア
csn_cfv_e_pdmod_CFS_SYSTBL_segment_num	右に示す RD エリアのセグメント数を指定します。	1 以上の整数	
csn_cfv_e_pdmod_CFS_SYSIDX_segment_num			「dmaClass」または「edmClass」で始まる表を格納する RD エリア
csn_cfv_e_pdmod_CFS_USRTBL_segment_num			「cfsClass」で始まる表を格納する RD エリア
csn_cfv_e_pdmod_CFS_USRIDX_segment_num			「cfsClass」で始まる表に定義されるインデックスを格納する RD エリア
csn_cfv_e_pdmod_CFS_SYSTBL_segment_size	右に示す RD エリアの 1 セグメント当たりのページ数を指定します。	1 ~ 16,000 の整数	
csn_cfv_e_pdmod_CFS_SYSIDX_segment_size			「dmaClass」または「edmClass」で始まる表を格納する RD エリア
csn_cfv_e_pdmod_CFS_USRTBL_segment_size			「dmaClass」または「edmClass」で始まる表に定義されるインデックスを格納する RD エリア
csn_cfv_e_pdmod_CFS_USRIDX_segment_size			「cfsClass」で始まる表を格納する RD エリア



キー名	定義内容	指定できる値	
csn_cfv_e_pdbuffer_CFS_SYSTBL_num	右に示す RD エリアに割り当てるグローバルバッファの面数を指定します。	「dmaClass」または「edmClass」で始まる表を格納する RD エリア	
csn_cfv_e_pdbuffer_CFS_SYSIDX_num			「dmaClass」または「edmClass」で始まる表に定義されるインデックスを格納する RD エリア
csn_cfv_e_pdbuffer_CFS_USRTBL_num			「cfsClass」で始まる表を格納する RD エリア
csn_cfv_e_pdbuffer_CFS_USRIDX_num			「cfsClass」で始まる表に定義されるインデックスを格納する RD エリア
csn_cfv_e_pdloginit_spd_rec_num	シンクポイントダンプファイルの 1 ファイル当たりのレコード数を指定します。	12 ~ 262,144 の整数	
csn_cfv_e_pdstsinit_sds_rec_num	サーバ用ステータスファイルの 1 ファイル当たりのレコード数を指定します。	32 ~ 2,096,107 の整数	

RD エリアや HiRDB ファイルシステム領域の見積もりについては、マニュアル「HiRDB Version 8 システム導入・設計ガイド (Windows(R) 用)」を参照してください。

## 4.2.4 セットアップファイル

セットアップファイルの概要を次に示します。

表 4-14 セットアップファイルの概要

項目	説明
ファイルの用途	セットアップファイルは、セットアップ時に出力する複数のファイルの総称です。次の 2 種類に分類されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• セットアップコマンドのファイル</li> <li>• セットアップ設定ファイル</li> </ul>
ファイルの定義形式	「(1) セットアップファイルの構成」を参照してください。
ファイルの格納場所	
ファイル名	
ファイル内容が有効になるタイミング	(出力したファイルは編集しないため、該当しない)

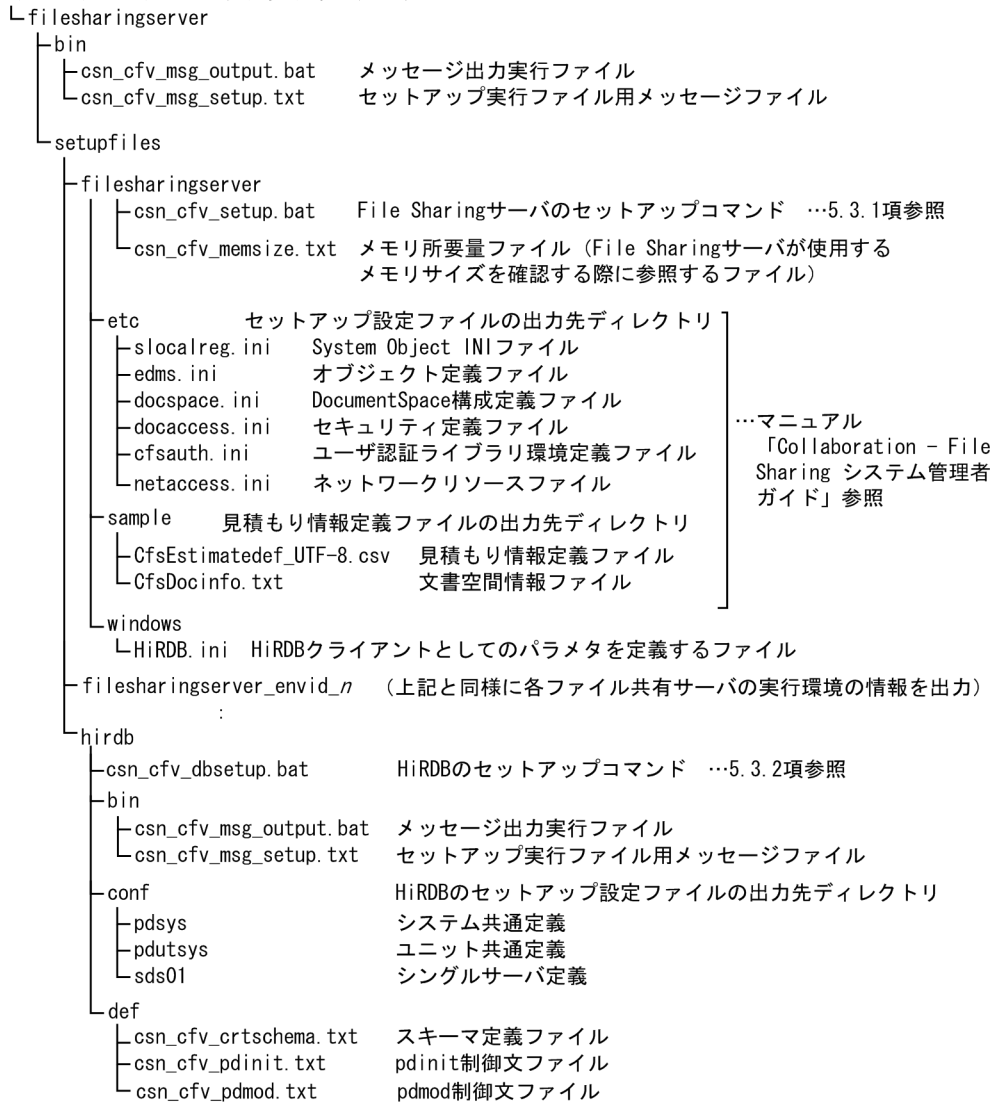
### (1) セットアップファイルの構成

出力されるセットアップファイルの構成を次に示します。

#### 4. Collaboration Setup Navigation およびそのセットアップ製品で使用するファイル

図 4-1 File Sharing サーバのセットアップファイルの構成

セットアップファイルの出力先ディレクトリ



出力されたセットアップファイルは、各マシンにコピーして実行する必要があります。コピー方法については「2.4.1 セットアップファイルを各マシンにコピーする」を参照してください。

## 4.3 Scheduler Server および Facilities Manager のファイル

この節では、Scheduler Server および Facilities Manager をセットアップする際にユーザが作成・編集する、次に示すファイルについて説明します。

- 動作環境プロパティファイル
- 見積もり基礎情報ファイル
- 見積もりファイル
- セットアップファイル

### 4.3.1 動作環境プロパティファイル

動作環境プロパティファイルの概要を次に示します。

表 4-15 動作環境プロパティファイルの概要

項目	説明
ファイルの用途	Scheduler Server および Facilities Manager のセットアップコマンド名を変更できます。テキストエディタで編集してください。
ファイルの定義形式	Java のプロパティファイル形式
ファイルの格納場所	<i>Collaboration Setup Navigation</i> のインストールディレクトリ ¥systems¥ssv¥etc
ファイル名	csn_ssv.properties
ファイル内容が有効になるタイミング	Collaboration Setup Navigation の起動時

動作環境プロパティファイルの記述形式は次のとおりです。

キー名 = 値

動作環境プロパティファイルのプロパティと定義内容を次に示します。キーの値は 255 文字以内の、印刷可能な ASCII コードで指定してください。

表 4-16 動作環境プロパティファイル ( Scheduler Server および Facilities Manager 用 ) のプロパティ一覧

キー名	定義内容	デフォルト値	説明箇所
csn_ssv_SetupCmdName	Scheduler Server および Facilities Manager 用のセットアップコマンド名。	csn_ssv_setup	「5.4.1 Scheduler Server および Facilities Manager をセットアップする ( csn_ssv_setup コマンド )」

#### 4. Collaboration Setup Navigation およびそのセットアップ製品で使用するファイル

キー名	定義内容	デフォルト値	説明箇所
csn_ssv_DB_SetupCmdName	HiRDB 用のセットアップコマンド名。	csn_ssv_dbsetup	「5.4.2 HiRDB をセットアップする (csn_ssv_dbsetup コマンド)」
csn_ssv_RestoreCmdName	Scheduler Server および Facilities Manager 用の環境初期化コマンド名。	csn_ssv_restore	「5.4.3 セットアップ前の状態に戻したい (csn_ssv_restore コマンド)」

### 4.3.2 見積もり基礎情報ファイル

見積もり基礎情報ファイルの概要を次に示します。

表 4-17 見積もり基礎情報ファイルの概要

項目	説明
ファイルの用途	見積もりに必要なデータを出力するファイルです。セットアップナビゲーション画面の「ステップ 2: HiRDB 設定情報」の [ 8. 見積もりファイルの指定 ] 画面を開いた際に、設定した見積もり情報が出力されます。
ファイルの定義形式	CSV 形式
ファイルの格納場所	<i>Collaboration Setup Navigation</i> のインストールディレクトリ ¥systems¥ssv¥sample
ファイル名	「(2) 見積もり基礎情報ファイルの出力情報の詳細」を参照してください。
ファイル内容が有効になるタイミング	(ファイルは編集しないため、該当しない)

#### (1) 見積もり基礎情報ファイルの出力形式

見積もり基礎情報ファイルは、ヘッダとボディで構成されます。それぞれの出力形式について次に示します。各エントリの詳細については、「(2) 見積もり基礎情報ファイルの出力情報の詳細」を参照してください。

##### ヘッダ

エントリ名が列記されている行です。

ヘッダは、ボディより前の行に 1 行だけ記述されています。

##### ボディ

出力された値が記述されている行です。見積もりに必要な値が出力されます。ボディは、ヘッダのエントリ名に対応しています。

#### (2) 見積もり基礎情報ファイルの出力情報の詳細

見積もり基礎情報ファイルは次の 3 種類のファイルから構成されます。Scheduler Server および Facilities Manager で利用する HiRDB に関して、次の情報を設定します。

表 4-18 見積もり基礎情報ファイルの出力情報の詳細

ファイル名	名称	説明
csn_ssv_estimate_rd area.csv	RD エリア見積もり 基礎情報ファイル	すべての RD エリアを対象に、データベース容量の見積もりに必要な行の数などの基礎情報を出力します。
csn_ssv_estimate_du mp.csv	シンクポイントダ ンプファイル見積もり 基礎情報ファイル	HiRDB のシンクポイントダンプファイルのレコード数の見積もりに必要な情報を出力します。
csn_ssv_estimate_sta tus.csv	サーバ用ステータス ファイル	HiRDB のステータスファイルのレコード数の見積もりに必要な情報を出力します。

## (a) RD エリア見積もり基礎情報ファイルの出力内容

RD エリア見積もり基礎情報ファイルのボディ部には、次の「出力内容」に示す内容が順に出力されます。

「Kind」が「UserTable」の場合で、「Data Type」が「BINARY」の列を含む表については、BINARY 列以外の情報と BINARY 列の情報の 2 行で出力します。「Kind」が「UserIndex」の場合は、列ごとに行を分けて出力します。

表 4-19 RD エリア見積もり基礎情報ファイルの出力内容

エントリ名	出力内容
Kind	次のどちらかの値が出力されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• UserTable : 表容量見積もり用のデータ</li> <li>• UserIndex : インデクス容量見積もり用データ</li> </ul>
Table Name	データベースに定義する表の名前が出力されます。
Index Name	データベースに定義するインデクスの名前が出力されます。 「Kind」が「UserTable」の場合は空となります。
Record Count	表に格納するレコードの総数が出力されます。 「Kind」が「UserIndex」の場合は空となります。
Record Length	レコードのデータサイズが出力されます。 「Kind」が「UserIndex」の場合は空となります。
Column Count	表に定義する列の総数が出力されます。 「Kind」が「UserIndex」の場合は空となります。
Key Kind	インデクスの種別として次のどちらかの値が出力されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 : ユニークキー</li> <li>• 0 : 重複キー</li> </ul> 「Kind」が「UserTable」の場合は空となります。
AvContent Size	常に空となります。
Area Name	表、インデクスを格納する RD エリア名が出力されます。

4. Collaboration Setup Navigation およびそのセットアップ製品で使用するファイル

エントリ名	出力内容
Column Name	<ul style="list-style-type: none"> <li>「Kind」が「UserTable」の場合 可変文字列型で平均文字列長が 256 バイト以上の列の名前が出力されます。該当する列が存在しない場合は空となります。</li> <li>「Kind」が「UserIndex」の場合 インデクスを定義する列の名前が出力されます。</li> </ul>
Data Type	<p>列のデータ型として次のどれかが出力されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>INT：整数</li> <li>CHAR：固定長文字列</li> <li>VARCHAR：可変長文字列</li> <li>MVARCHAR：可変長混在文字列</li> <li>DATE：日付</li> <li>TIMESTAMP：日付 / 時刻</li> <li>BINARY：バイナリデータ</li> <li>TIME：時刻</li> </ul> <p>「Kind」の値によって出力内容は次のように異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「Kind」が「UserTable」の場合 可変文字列型で平均文字列長が 256 バイト以上の列のデータ型が出力されます。該当する列が存在しない場合は空となります。</li> <li>「Kind」が「UserIndex」の場合 インデクスを定義する列のデータ型が出力されます。</li> </ul>
Column Length	<p>列の定義長が出力されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「Kind」が「UserTable」の場合 可変文字列型で平均文字列長が 256 バイト以上の列の定義長が出力されます。該当する列が存在しない場合は空となります。</li> <li>「Kind」が「UserIndex」の場合 インデクスを定義する列の定義長が出力されます。</li> </ul>
AvColumn Length	<p>可変長文字列型の列の平均文字列長が出力されます。 「Data Type」が「VARCHAR」「MVARCHAR」または「BINARY」の場合に出力されます。それ以外の場合は空となります。</p>
Key Type Count	<p>インデクスのキーの種類の数が出力されます。 「Kind」が「UserTable」の場合は常に空となります。 同一インデクスのすべての列情報に同じ値が出力されます。どれか一つの行の値を使用します。</p>
Duplicate Key Count	<p>インデクスのキーの重複数が出力されます。 「Kind」が「UserTable」の場合は常に空となります。 同一インデクスのすべての列情報に同じ値が出力されます。どれか一つの行の値を使用します。</p>

RD エリア見積もり基礎情報ファイルの出力例として、「TBL\_ANNIVERSARY」という名前の表の出力例を次に示します。

```

Kind,Table Name,Index Name,Record Count,Record Length,Column Count,Key
Kind,AvContent Size,Area Name,Column Name,Data Type,Column Length,AvColumn
Length,Key Type Count,Duplicate Key Count
UserTable,TBL_ANNIVERSARY,,1000,97,9,,,SSVRDDATA400,,,,,
UserIndex,TBL_ANNIVERSARY,IDX_ANNIVERSARY,,,,1,,SSVRDIDX400,AREACODE,CHAR,2,2,
UserIndex,TBL_ANNIVERSARY,IDX_ANNIVERSARY,,,,1,,SSVRDIDX400,OWNTYPE,INT,4,4,
UserIndex,TBL_ANNIVERSARY,IDX_ANNIVERSARY,,,,1,,SSVRDIDX400,OWNID,VARCHAR,255,
8,
UserIndex,TBL_ANNIVERSARY,IDX_ANNIVERSARY,,,,1,,SSVRDIDX400,CALDAY,DATE,4,4,
UserIndex,TBL_ANNIVERSARY,IDX_ANNI_DELFLAG,,,,0,,SSVRDIDX401,OWNTYPE,INT,4,4,
UserIndex,TBL_ANNIVERSARY,IDX_ANNI_DELFLAG,,,,0,,SSVRDIDX401,OWNID,VARCHAR,255,
8,

```

## (b) シンクポイントダンプファイル見積もり基礎情報ファイルの出力内容

シンクポイントダンプファイル見積もり基礎情報ファイルのボディ部には、次の「出力内容」に示す内容が順に出力されます。

表 4-20 シンクポイントダンプファイル見積もり基礎情報ファイルの出力内容

エントリ名	出力内容
pd_max_users	システム共通定義の pd_max_users オペランドに指定する値が出力されます。
pd_lck_until_disconnect_cnt	シングルサーバ定義の pd_lck_until_disconnect_cnt オペランドに指定する値として、「256」が出力されます。
pdlogadfg Count	シングルサーバ定義の pdlogadfg オペランドの数として、「3」が出力されます。
Correction Coefficient	補正係数として「1.2」が出力されます。

## (c) サーバ用ステータスファイルの出力内容

サーバ用ステータスファイルのボディ部には、次の「出力内容」に示す内容が順に出力されます。

表 4-21 サーバ用ステータスファイルの出力内容

エントリ名	出力内容
Record Length	レコード長として、「4,096」が出力されます。
File Count	ステータスファイルの世代数として、「3」が出力されます。
Utility Type	ユティリティ専用ユニットでないことを示す「N」が出力されます。
RDAREA Count	サーバ内の RD エリア数として、「200」が出力されます。
pd_max_users	システム共通定義の pd_max_users オペランドに指定する値が出力されます。
pd_max_rdarea_no	システム共通定義の pd_max_rdarea_no オペランドに指定する値として、「200」が出力されます。
pd_max_file_no	システム共通定義の pd_max_file_no オペランドに指定する値として、「200」が出力されます。

#### 4. Collaboration Setup Navigation およびそのセットアップ製品で使用するファイル

エントリ名	出力内容
RDAREA pdbuffer Count	システム共通定義の全 pdbuffer オペランドの定義数として、「200」が出力されます。
Index pdbuffer Count	システム共通定義のインデクス用の pdbuffer オペランドの定義数として、「0」が出力されます。
pd_ha_agent	システム共通定義の pd_ha_agent オペランドに指定する値として、「N」が出力されます。
pd_log_auto_unload_path	pd_log_auto_unload_path オペランドを指定しないことを示す「N」が出力されます。
System File Group Count	シンクポイントダンプファイルのグループ数とシステムログファイルのグループ数の総和として、「9」が出力されます。
Synchronization Point Dump Count	シンクポイントダンプファイルのグループ数として、「3」が出力されます。
Correction Coefficient	補正係数として「1.2」が出力されます。

### 4.3.3 見積もりファイル

見積もりファイルは、見積もり基礎情報ファイルの内容を基にユーザが見積もった値を設定するファイルです。作成した見積もりファイルは、セットアップナビゲーション画面の [ 8. 見積もりファイルの指定 ] 画面で読み込みます。

見積もりファイルの概要を次に示します。

表 4-22 見積もりファイルの概要

項目	説明
ファイルの用途	<p>セットアップナビゲーション画面で出力した見積もり基礎情報ファイルを基に、次に示す定義パラメタを定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• HiRDB ファイルシステム領域のサイズ</li> <li>• RD エリアのセグメント数</li> <li>• RD エリアの 1 セグメント当たりのページ数</li> <li>• グローバルバッファの面数</li> <li>• シンクポイントダンプファイルの 1 ファイル当たりのレコード数</li> <li>• サーバ用ステータスファイルの 1 ファイル当たりのレコード数</li> </ul> <p>作成した見積もりファイルは、セットアップナビゲーション画面の「ステップ 2: HiRDB 設定情報」の [ 8. 見積もりファイルの指定 ] で格納場所を指定します。</p>
ファイルの定義形式	Java のプロパティファイル形式
ファイルの格納場所	任意のディレクトリ
ファイル名	任意のファイル名
ファイル内容が有効になるタイミング	セットアップナビゲーション画面でのファイル読み込み時



## (1) ファイルの定義内容

見積もりファイルの記述形式は次のとおりです。

キー名 = 値

見積もりファイルのプロパティと定義内容を次に示します。どのキーも省略不可です。デフォルト値はありません。

表 4-23 見積もりファイルのプロパティ一覧

キー名	定義内容	指定できる値
csn_ssv_e_pdfmkfs_areasize	HiRDB ファイルシステム領域のサイズを指定します。	1 ~ 1,048,575 の整数 (単位: MB)
csn_ssv_e_pdmod_RD エリア名_segment_num	表 4-24, 表 4-25 に示すすべての RD エリアのセグメント数を指定します。	1 以上の整数
csn_ssv_e_pdmod_RD エリア名_segment_size	表 4-24, 表 4-25 に示すすべての RD エリアの 1 セグメント当たりのページ数を指定します。	1 ~ 16,000 の整数
csn_ssv_e_pdbuffer_ グローバルバッファ名_num	表 4-24, 表 4-25 に示すすべてのグローバルバッファの面数を指定します。	4 ~ 1,073,741,824 の整数
csn_ssv_e_pdloginit_spd_num	シンクポイントダンプファイルの 1 ファイル当たりのレコード数を指定します。	12 ~ 262,144 の整数
csn_ssv_e_pdstsinit_sds_num	サーバ用ステータスファイルの 1 ファイル当たりのレコード数を指定します。	32 ~ 2,096,107 の整数

RD エリアや HiRDB ファイルシステム領域の見積もりについては、マニュアル「HiRDB Version 8 システム導入・設計ガイド (Windows(R) 用)」を参照してください。

Scheduler Server および Facilities Manager で利用する RD エリア名と、それに対応するグローバルバッファ名の一覧を次に示します。

表 4-24 表用 RD エリア一覧

RD エリア名	表名	グローバルバッファ名
SSVRDDATA010	TBL_ORG	gbt_SSVRDDATA010
SSVRDDATA020	TBL_FACIACCESS	gbt_SSVRDDATA020
SSVRDDATA030	TBL_USER	gbt_SSVRDDATA030
SSVRDDATA040	TBL_BOSS	gbt_SSVRDDATA040
SSVRDDATA050	TBL_FACILITY	gbt_SSVRDDATA050

4. Collaboration Setup Navigation およびそのセットアップ製品で使用するファイル

RD エリア名	表名	グローバルバッファ名
SSVRDDATA060	TBL_FACIMANAGER	gbt_SSVRDDATA060
SSVRDDATA070	TBL_PROHIBITEDTIME	gbt_SSVRDDATA070
SSVRDDATA080	TBL_RESERVTERM	gbt_SSVRDDATA080
SSVRDDATA090	TBL_FACIIMAGE	gbt_SSVRDDATA090
SSVRDDATA110	TBL_OWNEQUIPMENT	gbt_SSVRDDATA110
SSVRDDATA120	TBL_EQUIPMENT	gbt_SSVRDDATA120
SSVRDDATA130	TBL_SECRANK	gbt_SSVRDDATA130
SSVRDDATA140	TBL_USRGRP	gbt_SSVRDDATA140
SSVRDDATA150	TBL_USRGRPMEMBER	gbt_SSVRDDATA150
SSVRDDATA160	TBL_USRACCESS	gbt_SSVRDDATA160
SSVRDDATA170	TBL_ORGGROUP	gbt_SSVRDDATA170
SSVRDDATA180	TBL_ORGGROUPMEMBER	gbt_SSVRDDATA180
SSVRDDATA190	TBL_DESTINATION	gbt_SSVRDDATA190
SSVRDDATA200	TBL_TITLE	gbt_SSVRDDATA200
SSVRDDATA220	TBL_SCHEDULE	gbt_SSVRDDATA220
SSVRDDATA230	TBL_TASK	gbt_SSVRDDATA230
SSVRDDATA240	TBL_RECEIVER	gbt_SSVRDDATA240
SSVRDDATA250	TBL_CONTACT	gbt_SSVRDDATA250
SSVRDDATA260	TBL_MEMO	gbt_SSVRDDATA260
SSVRDDATA270	TBL_MONTHLYID	gbt_SSVRDDATA270
SSVRDDATA280	TBL_IDSEQ	gbt_SSVRDDATA280
SSVRDDATA290	TBL_ORGTEMPLATE	gbt_SSVRDDATA290
SSVRDDATA300	TBL_ORGTEMPMAPPING	gbt_SSVRDDATA300
SSVRDDATA310	TBL_DIVISION	gbt_SSVRDDATA310
SSVRDDATA320	TBL_CALENDER	gbt_SSVRDDATA320
SSVRDDATA330	TBL_TIMEDIV	gbt_SSVRDDATA330
SSVRDDATA340	TBL_CONFIG	gbt_SSVRDDATA340
SSVRDDATA350	TBL_SETUP	gbt_SSVRDDATA350
SSVRDDATA360	TBL_DELETETERM	gbt_SSVRDDATA360
SSVRDDATA370	TBL_TIMEZONE	gbt_SSVRDDATA370
SSVRDDATA380	TBL_EXECSTATE	gbt_SSVRDDATA380
SSVRDDATA390	TBL_FACIORG	gbt_SSVRDDATA390
SSVRDDATA400	TBL_ANNIVERSARY	gbt_SSVRDDATA400
SSVRDDATA410	TBL_PRIVILEGE	gbt_SSVRDDATA410
SSVRDDATA420	TBL_AREANAME	gbt_SSVRDDATA420

RD エリア名	表名	グローバルバッファ名
SSVRDDATA430	TBL_ORGSECURITY	gbt_SSVRDDATA430

表 4-25 インデクス用 RD エリア一覧

RD エリア名	表名	インデクス	グローバルバッファ名	
SSVRDIDX010	TBL_ORG	主キー	gbi_SSVRDIDX010	
SSVRDIDX011		IDX_ORG_PORG	gbi_SSVRDIDX011	
SSVRDIDX020	TBL_FACIACCESS	主キー	gbi_SSVRDIDX020	
SSVRDIDX021		IDX_FACIACC_ID	gbi_SSVRDIDX021	
SSVRDIDX030	TBL_USER	主キー	gbi_SSVRDIDX030	
SSVRDIDX031		IDX_USER_POST	gbi_SSVRDIDX031	
SSVRDIDX032		IDX_USER_ID	gbi_SSVRDIDX032	
SSVRDIDX033		IDX_USER_NAME	gbi_SSVRDIDX033	
SSVRDIDX034		IDX_USER_INTNAME	gbi_SSVRDIDX034	
SSVRDIDX035		IDX_USER_MAINID	gbi_SSVRDIDX035	
SSVRDIDX036		IDX_USER_POSTORDER	gbi_SSVRDIDX036	
SSVRDIDX037		IDX_USER_DEFLFLAG	gbi_SSVRDIDX037	
SSVRDIDX040		TBL_BOSS	主キー	gbi_SSVRDIDX040
SSVRDIDX041			IDX_BOSS_SEC	gbi_SSVRDIDX041
SSVRDIDX050	TBL_FACILITY	主キー	gbi_SSVRDIDX050	
SSVRDIDX051		IDX_FACI_ORGID	gbi_SSVRDIDX051	
SSVRDIDX052		IDX_FACI_CAPACITY	gbi_SSVRDIDX052	
SSVRDIDX053		IDX_FACI_CAPONLY	gbi_SSVRDIDX053	
SSVRDIDX054		IDX_FACI_DEFFLAG	gbi_SSVRDIDX054	
SSVRDIDX060	TBL_FACIMANAGER	主キー	gbi_SSVRDIDX060	
SSVRDIDX061		IDX_FACIMAN_TGTID	gbi_SSVRDIDX061	
SSVRDIDX070	TBL_PROHIBITEDTIME	IDX_PROHIBITED_KEY	gbi_SSVRDIDX070	
SSVRDIDX080	TBL_RESERVTERM	主キー	gbi_SSVRDIDX080	
SSVRDIDX090	TBL_FACIIMAGE	主キー	gbi_SSVRDIDX090	
SSVRDIDX110	TBL_OWNEQUIPMENT	主キー	gbi_SSVRDIDX110	
SSVRDIDX111		IDX_OWNEQP_EQP	gbi_SSVRDIDX111	
SSVRDIDX120	TBL_EQUIPMENT	主キー	gbi_SSVRDIDX120	
SSVRDIDX130	TBL_SECRANK	主キー	gbi_SSVRDIDX130	
SSVRDIDX140	TBL_USRGRP	主キー	gbi_SSVRDIDX140	
SSVRDIDX150	TBL_USRGRPMEMBER	主キー	gbi_SSVRDIDX150	

4. Collaboration Setup Navigation およびそのセットアップ製品で使用するファイル

RD エリア名	表名	インデクス	グローバルバッファ名
SSVRDIDX151		IDX_USRGRPMEM_MEM ID	gbi_SSVRDIDX151
SSVRDIDX160	TBL_USRACCESS	主キー	gbi_SSVRDIDX160
SSVRDIDX161		IDX_USRACC_OTHER	gbi_SSVRDIDX161
SSVRDIDX170	TBL_ORGGROUP	主キー	gbi_SSVRDIDX170
SSVRDIDX180	TBL_ORGGROUPMEMBER	主キー	gbi_SSVRDIDX180
SSVRDIDX181		IDX_ORGGRPMEM_GRPID	gbi_SSVRDIDX181
SSVRDIDX182		IDX_ORGGRPMEM_MEM ID	gbi_SSVRDIDX182
SSVRDIDX190	TBL_DESTINATION	主キー	gbi_SSVRDIDX190
SSVRDIDX191		IDX_DEST_OWNER	gbi_SSVRDIDX191
SSVRDIDX200	TBL_TITLE	主キー	gbi_SSVRDIDX200
SSVRDIDX201		IDX_TITLE_TIME	gbi_SSVRDIDX201
SSVRDIDX220	TBL_SCHEDULE	主キー	gbi_SSVRDIDX220
SSVRDIDX221		IDX_SCHEDULE_TIME	gbi_SSVRDIDX221
SSVRDIDX222		IDX_SCHEDULE_DELRV	gbi_SSVRDIDX222
SSVRDIDX223		IDX_SCHEDULE_RESPONSE	gbi_SSVRDIDX223
SSVRDIDX224		IDX_SCHEDULE_SENDFLIST	gbi_SSVRDIDX224
SSVRDIDX225		IDX_SCHEDULE_EXTEND	gbi_SSVRDIDX225
SSVRDIDX226		IDX_SCHEDULE_DELALL	gbi_SSVRDIDX226
SSVRDIDX227		IDX_SCHEDULE_CODECHG	gbi_SSVRDIDX227
SSVRDIDX230	TBL_TASK	主キー	gbi_SSVRDIDX230
SSVRDIDX231		IDX_TASK_UPDATE	gbi_SSVRDIDX231
SSVRDIDX232		IDX_TASK_PARENT	gbi_SSVRDIDX232
SSVRDIDX233		IDX_TASK_STATUS	gbi_SSVRDIDX233
SSVRDIDX240	TBL_RECEIVER	主キー	gbi_SSVRDIDX240
SSVRDIDX241		IDX_RECV_RECVFLIST	gbi_SSVRDIDX241
SSVRDIDX242		IDX_RECV_RECVBLIST	gbi_SSVRDIDX242
SSVRDIDX243		IDX_RECV_EXTEND	gbi_SSVRDIDX243
SSVRDIDX250	TBL_CONTACT	主キー	gbi_SSVRDIDX250
SSVRDIDX251		IDX_CONTACT_TOID	gbi_SSVRDIDX251

RD エリア名	表名	インデクス	グローバルバッファ名
SSVRDIDX260	TBL_MEMO	主キー	gbi_SSVRDIDX260
SSVRDIDX261		IDX_MEMO_LIST	gbi_SSVRDIDX261
SSVRDIDX262		IDX_MEMO_ORG	gbi_SSVRDIDX262
SSVRDIDX263		IDX_MEMO_DELALL	gbi_SSVRDIDX263
SSVRDIDX264		IDX_MEMO_EXTEND	gbi_SSVRDIDX264
SSVRDIDX270	TBL_MONTHLYID	主キー	gbi_SSVRDIDX270
SSVRDIDX280	TBL_IDSEQ	主キー	gbi_SSVRDIDX280
SSVRDIDX290	TBL_ORGTEMPLATE	主キー	gbi_SSVRDIDX290
SSVRDIDX300	TBL_ORGTEMPMAPPING	主キー	gbi_SSVRDIDX300
SSVRDIDX301		IDX_TEMPLATE_ID	gbi_SSVRDIDX301
SSVRDIDX310	TBL_DIVISION	主キー	gbi_SSVRDIDX310
SSVRDIDX311		IDX_DIVISION_ORDER	gbi_SSVRDIDX311
SSVRDIDX320	TBL_CALENDER	主キー	gbi_SSVRDIDX320
SSVRDIDX321		IDX_CALENDER_DELETE	gbi_SSVRDIDX321
SSVRDIDX330	TBL_TIMEDIV	主キー	gbi_SSVRDIDX330
SSVRDIDX340	TBL_CONFIG	主キー	gbi_SSVRDIDX340
SSVRDIDX350	TBL_SETUP	主キー	gbi_SSVRDIDX350
SSVRDIDX360	TBL_DELETETERM	主キー	gbi_SSVRDIDX360
SSVRDIDX370	TBL_TIMEZONE	主キー	gbi_SSVRDIDX370
SSVRDIDX380	TBL_EXECSTATE	主キー	gbi_SSVRDIDX380
SSVRDIDX390	TBL_FACIORG	主キー	gbi_SSVRDIDX390
SSVRDIDX391		IDX_FACIORG_PORG	gbi_SSVRDIDX391
SSVRDIDX400	TBL_ANNIVERSARY	主キー	gbi_SSVRDIDX400
SSVRDIDX401		IDX_ANNI_DELFLAG	gbi_SSVRDIDX401
SSVRDIDX410	TBL_PRIVILEGE	主キー	gbi_SSVRDIDX410
SSVRDIDX420	TBL_AREANAME	主キー	gbi_SSVRDIDX420

## (2) ファイルの定義例

次の場合を例に、見積もりファイルの定義例を示します。

- HiRDB ファイルシステム領域のサイズを定義する
- RD エリア「SSVRDDATA010」「SSVRDIDX010」に対し、セグメント数およびページ数とグローバルバッファの面数を定義する
- シンクポイントダンプファイルとステータスファイルのレコード数を定義する

この条件での見積もりファイルの定義例を次に示します。

#### 4. Collaboration Setup Navigation およびそのセットアップ製品で使用するファイル

```
csn_ssv_e_pdfmkfs_areasize=200

csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA010_segment_num=1
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA010_segment_size=20
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX010_segment_num=1
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX010_segment_size=20

csn_ssv_e_pdbuffer_gbt_SSVRDDATA010_num=44
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX010_num=30

csn_ssv_e_pdloginit_spd_num=50
csn_ssv_e_pdstsinit_sds_num=800
```

見積もりファイルの雛形を次に示します。

```
csn_ssv_e_pdfmkfs_areasize=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA010_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA020_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA030_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA040_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA050_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA060_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA070_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA080_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA090_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA110_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA120_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA130_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA140_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA150_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA160_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA170_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA180_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA190_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA200_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA220_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA230_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA240_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA250_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA260_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA270_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA280_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA290_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA300_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA310_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA320_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA330_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA340_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA350_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA360_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA370_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA380_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA390_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA400_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA410_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA420_segment_num=
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA430_segment_num=
```

#### 4. Collaboration Setup Navigation およびそのセットアップ製品で使用するファイル

csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX010\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX011\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX020\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX021\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX030\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX031\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX032\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX033\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX034\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX035\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX036\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX037\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX040\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX041\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX050\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX051\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX052\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX053\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX054\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX060\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX061\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX070\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX080\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX090\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX110\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX111\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX120\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX130\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX140\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX150\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX151\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX160\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX161\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX170\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX180\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX181\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX182\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX190\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX191\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX200\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX201\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX220\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX221\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX222\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX223\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX224\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX225\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX226\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX227\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX230\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX231\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX232\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX233\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX240\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX241\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX242\_segment\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdmod\_SSVRDIDX243\_segment\_num=

#### 4. Collaboration Setup Navigation およびそのセットアップ製品で使用するファイル

```
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX250_segment_num=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX251_segment_num=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX260_segment_num=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX261_segment_num=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX262_segment_num=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX263_segment_num=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX264_segment_num=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX270_segment_num=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX280_segment_num=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX290_segment_num=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX300_segment_num=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX301_segment_num=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX310_segment_num=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX311_segment_num=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX320_segment_num=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX321_segment_num=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX330_segment_num=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX340_segment_num=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX350_segment_num=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX360_segment_num=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX370_segment_num=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX380_segment_num=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX390_segment_num=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX391_segment_num=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX400_segment_num=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX401_segment_num=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX410_segment_num=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX420_segment_num=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA010_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA020_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA030_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA040_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA050_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA060_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA070_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA080_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA090_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA110_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA120_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA130_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA140_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA150_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA160_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA170_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA180_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA190_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA200_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA220_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA230_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA240_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA250_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA260_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA270_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA280_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA290_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA300_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA310_segment_size=
```



#### 4. Collaboration Setup Navigation およびそのセットアップ製品で使用するファイル

```
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA320_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA330_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA340_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA350_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA360_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA370_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA380_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA390_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA400_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA410_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA420_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDDATA430_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX010_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX011_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX020_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX021_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX030_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX031_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX032_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX033_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX034_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX035_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX036_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX037_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX040_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX041_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX050_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX051_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX052_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX053_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX054_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX060_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX061_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX070_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX080_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX090_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX110_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX111_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX120_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX130_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX140_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX150_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX151_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX160_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX161_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX170_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX180_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX181_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX182_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX190_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX191_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX200_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX201_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX220_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX221_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX222_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX223_segment_size=
```

#### 4. Collaboration Setup Navigation およびそのセットアップ製品で使用するファイル

```
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX224_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX225_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX226_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX227_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX230_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX231_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX232_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX233_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX240_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX241_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX242_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX243_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX250_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX251_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX260_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX261_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX262_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX263_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX264_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX270_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX280_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX290_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX300_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX301_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX310_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX311_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX320_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX321_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX330_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX340_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX350_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX360_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX370_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX380_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX390_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX391_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX400_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX401_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX410_segment_size=  
csn_ssv_e_pdmod_SSVRDIDX420_segment_size=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbt_SSVRDDATA010_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbt_SSVRDDATA020_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbt_SSVRDDATA030_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbt_SSVRDDATA040_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbt_SSVRDDATA050_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbt_SSVRDDATA060_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbt_SSVRDDATA070_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbt_SSVRDDATA080_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbt_SSVRDDATA090_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbt_SSVRDDATA110_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbt_SSVRDDATA120_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbt_SSVRDDATA130_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbt_SSVRDDATA140_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbt_SSVRDDATA150_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbt_SSVRDDATA160_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbt_SSVRDDATA170_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbt_SSVRDDATA180_num=
```

#### 4. Collaboration Setup Navigation およびそのセットアップ製品で使用するファイル

csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbt\_SSVRDDATA190\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbt\_SSVRDDATA200\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbt\_SSVRDDATA220\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbt\_SSVRDDATA230\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbt\_SSVRDDATA240\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbt\_SSVRDDATA250\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbt\_SSVRDDATA260\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbt\_SSVRDDATA270\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbt\_SSVRDDATA280\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbt\_SSVRDDATA290\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbt\_SSVRDDATA300\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbt\_SSVRDDATA310\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbt\_SSVRDDATA320\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbt\_SSVRDDATA330\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbt\_SSVRDDATA340\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbt\_SSVRDDATA350\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbt\_SSVRDDATA360\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbt\_SSVRDDATA370\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbt\_SSVRDDATA380\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbt\_SSVRDDATA390\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbt\_SSVRDDATA400\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbt\_SSVRDDATA410\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbt\_SSVRDDATA420\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbt\_SSVRDDATA430\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbi\_SSVRDIDX010\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbi\_SSVRDIDX011\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbi\_SSVRDIDX020\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbi\_SSVRDIDX021\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbi\_SSVRDIDX030\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbi\_SSVRDIDX031\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbi\_SSVRDIDX032\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbi\_SSVRDIDX033\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbi\_SSVRDIDX034\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbi\_SSVRDIDX035\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbi\_SSVRDIDX036\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbi\_SSVRDIDX037\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbi\_SSVRDIDX040\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbi\_SSVRDIDX041\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbi\_SSVRDIDX050\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbi\_SSVRDIDX051\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbi\_SSVRDIDX052\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbi\_SSVRDIDX053\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbi\_SSVRDIDX054\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbi\_SSVRDIDX060\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbi\_SSVRDIDX061\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbi\_SSVRDIDX070\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbi\_SSVRDIDX080\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbi\_SSVRDIDX090\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbi\_SSVRDIDX110\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbi\_SSVRDIDX111\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbi\_SSVRDIDX120\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbi\_SSVRDIDX130\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbi\_SSVRDIDX140\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbi\_SSVRDIDX150\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbi\_SSVRDIDX151\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbi\_SSVRDIDX160\_num=  
csn\_ssv\_e\_pdbuffer\_gbi\_SSVRDIDX161\_num=

#### 4. Collaboration Setup Navigation およびそのセットアップ製品で使用するファイル

```
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX170_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX180_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX181_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX182_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX190_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX191_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX200_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX201_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX220_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX221_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX222_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX223_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX224_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX225_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX226_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX227_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX230_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX231_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX232_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX233_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX240_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX241_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX242_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX243_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX250_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX251_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX260_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX261_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX262_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX263_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX264_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX270_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX280_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX290_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX300_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX301_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX310_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX311_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX320_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX321_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX330_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX340_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX350_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX360_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX370_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX380_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX390_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX391_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX400_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX401_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX410_num=  
csn_ssv_e_pdbuffer_gbi_SSVRDIDX420_num=  
csn_ssv_e_pdloginit_spd_num=  
csn_ssv_e_pdstsinit_sds_num=
```

### 4.3.4 セットアップファイル

セットアップファイルの概要を次に示します。

表 4-26 セットアップファイルの概要

項目	説明
ファイルの用途	セットアップファイルは、セットアップ時に出力する複数のファイルの総称です。次の 2 種類に分類されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• セットアップコマンドのファイル</li> <li>• セットアップ設定ファイル</li> </ul>
ファイルの定義形式	「(1) セットアップファイルの構成」を参照してください。
ファイルの格納場所	
ファイル名	
ファイル内容が有効になるタイミング	(出力したファイルは編集しないため、該当しない)

#### (1) セットアップファイルの構成

出力されるセットアップファイルの構成を次に示します。

4. Collaboration Setup Navigation およびそのセットアップ製品で使用するファイル

図 4-2 Scheduler Server および Facilities Manager のセットアップファイルの構成

セットアップファイルの出力先ディレクトリ



注

メモリ所要量ファイルは、Scheduler Server または Facilities Manager が使用するメモリサイズを確認する際に参照するファイルです。

出力されたセットアップファイルは、Scheduler マシンおよび HiRDB マシンにコピーして、バッチファイルを実行する必要があります。コピー方法については「3.4.1 セットアップファイルを各マシンにコピーする」を参照してください。





# 5

## コマンド

この章では、Collaboration Setup Navigation および各セットアップ製品で実行するコマンドについて説明します。

---

5.1 コマンドの概要

---

5.2 Collaboration Setup Navigation のコマンド

---

5.3 File Sharing サーバのコマンド

---

5.4 Scheduler Server および Facilities Manager のコマンド

---

## 5.1 コマンドの概要

この節では、Collaboration Setup Navigation およびセットアップ製品のコマンドについて、概要を説明します。

### コマンド一覧

Collaboration Setup Navigation およびセットアップ製品で実行できるコマンドの一覧を次に示します。コマンドの詳細については、次の節以降で説明しています。

表 5-1 コマンド一覧

分類	コマンド名	機能
Collaboration Setup Navigation のコマンド	csn_navistart	セットアップナビゲーション画面を開きます。
File Sharing サーバのコマンド	csn_cfv_setup	File Sharing マシン上で File Sharing サーバをセットアップします。
	csn_cfv_dbsetup	File Sharing サーバで使用する HiRDB をセットアップします。
Scheduler Server および Facilities Manager のコマンド	csn_ssv_setup	Scheduler マシン上で、Scheduler Server および Facilities Manager をセットアップします。
	csn_ssv_dbsetup	Scheduler Server および Facilities Manager で使用する HiRDB をセットアップします。
	csn_ssv_restore	DB モードで構築途中の Scheduler マシンの環境をファイルモードへ戻せます。

### コマンドの実行方法

コマンドは次のどちらかの方法で実行します。コマンドは Administrator 権限を持っているユーザが実行してください。

- コマンドプロンプトでコマンド名を指定する。
- エクスプローラなどでコマンドファイルをダブルクリックして実行する。

### コマンドの入力形式

コマンドは次の形式で入力してください。パスの指定は省略できます。

コマンド名称 [ オプション...]

なお、オプションを持たないコマンドについては、コマンドの説明個所に項目「オプション」を記載していません。

## 5.2 Collaboration Setup Navigation のコマンド

---

### 5.2.1 セットアップナビゲーション画面を開く ( csn\_navistart コマンド )

このコマンドでは、構築情報を設定するためのセットアップナビゲーション画面を開きます。

なお、セットアップナビゲーション画面は、Windows の [ スタート ] - [ プログラム ] - [ Collaboration Setup Navigation ] から「Setup Navigation 起動」を選択する方法で開くこともできます。

#### (1) 形式

csn\_navistart[.bat]

#### (2) 機能

このコマンドを実行すると、セットアップナビゲーション画面が開きます。

セットアップナビゲーション画面の構成については「1.3 Collaboration Setup Navigation のセットアップナビゲーション画面」を参照してください。セットアップナビゲーション画面の操作のポイントについては、次の個所を参照してください。

- File Sharing サーバをセットアップする場合  
「2.3.1(1) セットアップナビゲーション画面で構築情報を設定する」
- Scheduler Server および Facilities Manager をセットアップする場合  
「3.3.1(1) セットアップナビゲーション画面で構築情報を設定する」

#### (3) 戻り値

0	セットアップナビゲーション画面を開くことに成功しました。
1	セットアップナビゲーション画面を開くことに失敗しました。

## 5.3 File Sharing サーバのコマンド

### 5.3.1 File Sharing サーバをセットアップする ( csn\_cfv\_setup コマンド )

このコマンドでは、File Sharing マシン上で File Sharing サーバをセットアップします。

#### (1) 形式

`csn_cfv_setup[.bat] [-b バックアップ先ディレクトリ]`

#### (2) 機能

このコマンドを実行すると、次の操作が実行されます。

- File Sharing マシン上で、File Sharing サーバがセットアップされます。
- システム環境変数の設定結果が次のファイル名で出力されます。設定結果を確認してください。

セットアップコマンドの実行ディレクトリ¥csn\_cfv\_setup\_sysenv.txt

このファイルには、システム環境変数の情報が 1 行ずつ出力されます。行ごとの出力項目は次のとおりです。

表 5-2 システム環境変数の設定結果の出力項目

出力項目	説明
設定フラグ	出力されるフラグとその意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• A：新規に環境変数を追加しました。</li> <li>• W：既存の環境変数の値を上書きしました。</li> <li>• -：メッセージ KDSN21016-Q（環境変数を設定するかどうかの問い合わせメッセージ）に対して、環境変数を設定しないよう応答しました。</li> </ul>
システム環境変数の名前	セットアップコマンドが値を設定したシステム環境変数の名前です。
システム環境変数の値	セットアップコマンドがシステム環境変数に設定した値です。

出力項目は「" (引用符)」で囲まれ、「, (コンマ)」で区切って出力されます。

#### (3) オプション

##### -b バックアップ先ディレクトリ

セットアップ前のデータのバックアップを出力するディレクトリを指定します。絶対パスと相対パスのどちらでも指定できます。

オプションの指定を省略した場合は、カレントディレクトリ下にディレクトリ「bk」が作成され、バックアップ先ディレクトリとなります。

ディレクトリが空でない場合は、エラーになります。

#### (4) コマンドを実行するための条件

コマンドを実行するには、「2.2(1) File Sharing サーバのセットアップの準備をする」に示す準備が完了している必要があります。

#### (5) 注意事項

- コマンドの実行を中断した場合、中断するまでに実行した処理は有効となります。
- コマンドの実行によって内部的に実行されたコマンドは、通常は標準出力または標準エラー出力に出力される内容をトレースファイルに出力します。トレースファイルについては、「6.1.2 このマニュアルでのメッセージの記載形式」を参照してください。
- コマンド名は、動作環境プロパティファイルのキー `csn_cfv_SetupCmdName` で変更できます。動作環境プロパティファイルについては、「4.2.1 動作環境プロパティファイル」を参照してください。

#### (6) 戻り値

0	File Sharing サーバのセットアップに成功しました。
1	File Sharing サーバのセットアップに失敗しました。

### 5.3.2 HiRDB をセットアップする ( `csn_cfv_dbsetup` コマンド )

File Sharing サーバで使用する HiRDB をセットアップします。

このコマンドは、「2.3.2 セットアップファイルを出力する」で出力されたセットアップファイルの一つとして、バッチファイル形式で出力されています。

#### (1) 形式

```
csn_cfv_dbsetup[.bat] [-b バックアップ先ディレクトリ]
```

#### (2) 機能

このコマンドを実行すると、File Sharing サーバが使用する HiRDB の構築に必要な環境設定、およびコマンドを実行できます。

#### (3) オプション

`-b` バックアップ先ディレクトリ

セットアップ前のデータのバックアップを出力するディレクトリを指定します。絶対パスと相対パスのどちらでも指定できます。

オプションの指定を省略した場合は、カレントディレクトリ下にディレクトリ「bk」が作成され、バックアップ先ディレクトリとなります。

ディレクトリが空でない場合は、エラーとなります。

## 5. コマンド

### (4) コマンドを実行するための条件

このコマンドを実行するには、HiRDB/ シングルサーバがインストールされている必要があります。

### (5) 注意事項

- コマンドの実行を中断した場合、中断するまでに実行した処理は有効となります。
- コマンドの実行によって内部的に実行されたコマンドは、通常は標準出力または標準エラー出力に出力される内容をトレースファイルに出力します。トレースファイルについては、「6.1.2 このマニュアルでのメッセージの記載形式」を参照してください。
- コマンド名は、動作環境プロパティファイルのキー `csn_cfv_DB_SetupCmdName` で変更できます。動作環境プロパティファイルについては、「4.2.1 動作環境プロパティファイル」を参照してください。

### (6) 戻り値

0	File Sharing サーバで使用する HiRDB のセットアップの実行に成功しました。
1	File Sharing サーバで使用する HiRDB のセットアップの実行に失敗しました。

## 5.4 Scheduler Server および Facilities Manager のコマンド

### 5.4.1 Scheduler Server および Facilities Manager をセットアップする (csn\_ssv\_setup コマンド)

このコマンドでは、Scheduler マシン上で、Scheduler Server および Facilities Manager をセットアップします。

マスターサーバとスレーブサーバでは、コマンドの実行内容が異なります。

#### (1) 形式

`csn_ssv_setup[.bat] [-b バックアップ先ディレクトリ]`

#### (2) 機能

このコマンドを実行すると、次の操作が実行されます。

- 実行したマシン上で、Scheduler Server および Facilities Manager がセットアップされます。
- マスターサーバでは、Scheduler Server および Facilities Manager の GetAdAll コマンド (DB モード用) が実行され、HiRDB マシンを構築するためのファイルが出力されます。

GetAdAll コマンドには次に示すオプションが設定されます。

GetAdAll コマンドに設定されるオプション	指定内容
/k セットアップコマンドのディレクトリ ¥GetAdAll	pdload 用ファイルの出力先ディレクトリ
/p HiRDB ファイルシステム領域格納先ディレクトリ ¥GetAdAll	pdload 用ファイルの転送先ディレクトリ

#### 注

HiRDB ファイルシステム領域格納先ディレクトリは、セットアップナビゲーション画面の「ステップ 2: HiRDB 設定情報」の [ 1.HiRDB 環境情報の設定 ] 画面で指定します。

GetAdAll コマンドについては、マニュアル「Groupmax Scheduler/Facilities Manager Version 7 システム管理者ガイド」を参照してください。

出力されたファイルのうち、バッチファイルを HiRDB で実行する方法については、「3.5.3 HiRDB にデータを登録する」を参照してください。

#### (3) オプション

-b バックアップ先ディレクトリ

## 5. コマンド

セットアップ前のデータのバックアップを出力するディレクトリを指定します。絶対パスと相対パスのどちらでも指定できます。環境初期化コマンド(「5.4.3 セットアップ前の状態に戻したい (csn\_ssv\_restore コマンド)」に記載)を実行するためのファイルもこのディレクトリに出力されます。オプションの指定を省略した場合は、カレントディレクトリ下にディレクトリ「bk」が作成され、バックアップ先ディレクトリとなります。ディレクトリが空でない場合は、エラーになります。

### (4) コマンドを実行するための条件

コマンドを実行するには、次のすべての条件を満たしている必要があります。

- 「3.2(1) Scheduler Server および Facilities Manager のセットアップの準備をする」に示す準備が完了していること。
- csn\_ssv\_dbsetup コマンド (HiRDB のセットアップ) によって HiRDB が構築されていること。  
csn\_ssv\_dbsetup コマンドについては「5.4.2 HiRDB をセットアップする (csn\_ssv\_dbsetup コマンド)」を参照してください。

### (5) 注意事項

- コマンドの実行を中断した場合、中断するまでに実行した処理は有効となります。
- コマンドの実行によって内部的に実行されたコマンドは、通常は標準出力または標準エラー出力に出力される内容をトレースファイルに出力します。トレースファイルについては、「6.1.2 このマニュアルでのメッセージの記載形式」を参照してください。
- コマンド名は、動作環境プロパティファイルのキー csn\_ssv\_SetupCmdName で変更できます。動作環境プロパティファイルについては、「4.3.1 動作環境プロパティファイル」を参照してください。

### (6) 戻り値

0	Scheduler Server および Facilities Manager のセットアップに成功しました。
1	Scheduler Server および Facilities Manager のセットアップに失敗しました。

## 5.4.2 HiRDB をセットアップする (csn\_ssv\_dbsetup コマンド)

Scheduler Server および Facilities Manager で使用する HiRDB をセットアップします。

### (1) 形式

```
csn_ssv_dbsetup[.bat] [-b バックアップ先ディレクトリ]
```

### (2) 機能

このコマンドを実行すると、Scheduler Server および Facilities Manager で使用する HiRDB がセットアップされます。



### (3) オプション

- b バックアップ先ディレクトリ  
 セットアップ前のデータをバックアップするため、退避ファイルや環境初期化ファイルの出力先ディレクトリを指定します。絶対パスと相対パスのどちらでも指定できます。  
 オプションの指定を省略した場合は、カレントディレクトリ下にディレクトリ「bk」が作成され、バックアップ先ディレクトリとなります。  
 ディレクトリが空でない場合は、エラーになります。

### (4) コマンドを実行するための条件

このコマンドを実行するには、HiRDB/ シングルサーバがインストールされている必要があります。

### (5) 注意事項

- コマンドの実行を中断した場合、中断するまでに実行した処理は有効となります。
- コマンドの実行によって内部的に実行されたコマンドは、通常は標準出力または標準エラー出力に出力される内容をトレースファイルに出力します。トレースファイルについては、「6.1.2 このマニュアルでのメッセージの記載形式」を参照してください。
- コマンド名は、動作環境プロパティファイルのキー `csn_ssv_DB_SetupCmdName` で変更できます。動作環境プロパティファイルについては、「4.3.1 動作環境プロパティファイル」を参照してください。

### (6) 戻り値

0	Scheduler Server および Facilities Manager で使用する HiRDB のセットアップの実行に成功しました。
1	Scheduler Server および Facilities Manager で使用する HiRDB のセットアップの実行に失敗しました。

## 5.4.3 セットアップ前の状態に戻したい ( `csn_ssv_restore` コマンド )

DB モードで構築途中の Scheduler マシン ( マスターサーバ、スレーブサーバとも ) の環境をファイルモードへ戻したい場合、このコマンドを実行すると、環境を初期化できます。

### (1) 形式

`csn_ssv_restore[.bat]`

### (2) 機能

セットアップ時 ( `csn_ssv_setup` コマンドの実行時 ) に保管したバックアップファイルをリストアして、セットアップファイルやレジストリをセットアップ前の状態に戻します。これによって、環境を初期化します。

## 5. コマンド

### (3) 注意事項

- コマンドの実行を中断した場合、中断するまでに実行した処理は有効となります。
- コマンドの実行結果はトレースファイルに出力します。トレースファイルについては、「6.1.2 このマニュアルでのメッセージの記載形式」を参照してください。
- コマンド名は、動作環境プロパティファイルのキー `csn_ssv_RestoreCmdName` で変更できます。動作環境プロパティファイルについては、「4.3.1 動作環境プロパティファイル」を参照してください。

### (4) 戻り値

0	セットアップ環境の初期化に成功しました。
1	セットアップ環境の初期化に失敗しました。

# 6

## メッセージ

この章では、Collaboration Setup Navigation 本体のメッセージと、セットアップ製品のメッセージについて説明します。

---

6.1 メッセージの形式

---

6.2 Collaboration Setup Navigation のメッセージ

---

6.3 File Sharing サーバのセットアップ時に出力されるメッセージ

---

6.4 Scheduler Server および Facilities Manager のセットアップ時に出力されるメッセージ

---

## 6.1 メッセージの形式

この節では、Collaboration Setup Navigation 本体のメッセージと、セットアップ製品のメッセージの出力形式を示します。また、このマニュアルでのメッセージの記載形式についても説明します。

### 6.1.1 メッセージの出力形式

メッセージは、メッセージ ID とそれに続くメッセージテキストで構成されます。メッセージの出力形式を次に示します。

メッセージID メッセージテキスト

### 6.1.2 このマニュアルでのメッセージの記載形式

このマニュアルでのメッセージの記載形式を次に示します。

KDSNnnnnn-i <メッセージの出力先>  
 日本語のメッセージテキスト  
 英語のメッセージテキスト  
 (S)  
 メッセージの出力要因および製品の動作  
 (O)  
 構築者が実施する対処

KDSN

Collaboration Setup Navigation のメッセージであることを示します。

nnnnn

メッセージの番号を示します。番号の意味は次のとおりです。

メッセージの種類	nnnnn の値	参照先	
Collaboration Setup Navigation で、セットアップ製品に共通して出力されるメッセージ	00000 ~ 09999	6.2 節	
Scheduler Server および Facilities Manager のセットアップ時に出力されるメッセージ	10000 ~ 19999	6.4 節	
File Sharing サーバのセットアップ時に出力されるメッセージ	セットアップナビゲーション画面の操作時に出力されるメッセージ	20000 ~ 20999	6.3.1 項
	セットアップコマンドの実行時に出力されるメッセージ	21000 ~ 21999	6.3.2 項

i

メッセージ種別を示します。

メッセージ種別の意味と、メッセージ出力後の処理を次に示します。

<i>i</i> の値	メッセージ種別の意味およびメッセージ出力後の処理
I	システムの動作を通知します。メッセージ出力後も処理を続行します。 このマニュアルでは、メッセージ種別「I」のメッセージは記載していません。
Q	確認メッセージです。
E	障害が発生したため、処理を中止します。 ただし、致命的なエラーでなければ、処理を再開できます。

#### <メッセージの出力先>

メッセージの出力先を次の記号で表します。

メッセージの出力先の値	メッセージの出力先・表示先
W	セットアップナビゲーション画面
O	標準出力
R	標準エラー出力
P	コマンドプロンプト
D	メッセージダイアログ
E	エラーメッセージ表示領域
T	トレースファイル

#### 注

Collaboration Setup Navigation のトレース情報は英語で出力されます。トレースファイルの出力先ディレクトリとファイル名は次のとおりです。

製品	トレースファイルの出力ディレクトリと出力ファイル名
Collaboration Setup Navigation の共通トレースファイル	<p>トレースファイルは、動作環境ファイルのキー「csn_TracePath」で指定したディレクトリに出力されます。動作環境ファイルについては、「4.1.1 動作環境ファイル」を参照してください。トレースファイルのデフォルトの出力先ディレクトリは次のとおりです。</p> <p><i>Collaboration Setup Navigation</i> のインストールディレクトリ¥log</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• トレースファイル CsnTrace_n.log n: 1 ~ 16 の整数</li> </ul>
File Sharing サーバのセットアップ時のトレースファイル	<p>トレースファイルは、環境変数_HIEDMS_TRACE_DIR に指定したディレクトリに出力されます。トレースファイルのデフォルトの出力先ディレクトリは次のとおりです。</p> <p><i>File Sharing</i> サーバのインストールディレクトリ¥Server¥spool¥server</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• File Sharing サーバ用セットアップコマンドおよびセットアップナビゲーション画面のトレースファイル CsnCfvSetupTrace.log</li> <li>• HiRDB 用セットアップコマンドのトレースファイル CsnCfvDbSetupTrace.log</li> </ul>

## 6. メッセージ

製品	トレースファイルの出力ディレクトリと出力ファイル名
Scheduler Server および Facilities Manager のセット アップ時のトレ ースファイル	<p>トレースファイルの出力先は、実行したセットアップコマンドの格納場所と同じディレクトリです。</p> <p>トレースファイル名は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Scheduler Server および Facilities Manager 用セットアップコマンド (csn_ssv_setup) のトレースファイル CsnSsvSetupTrace.log</li> <li>• HiRDB 用セットアップコマンド (csn_ssv_dbsetup) のトレースファイル CsnSsvDbSetupTrace.log</li> <li>• 環境初期化コマンド (csn_ssv_restore) のトレースファイル CsnSsvRestoreTrace.log</li> </ul>

### 日本語のメッセージテキストおよび 英語のメッセージテキスト

出力されるメッセージテキストを示します。メッセージテキスト中の %n (n は挿入句の順番) は、テキストおよび数値型の可変値です。

英語のメッセージテキストしかないメッセージについては、英語のメッセージテキストしか記載していません。

(S)

メッセージの出力要因および製品の動作を示します。

(O)

メッセージに対する構築者の対処を示します。

「保守員に連絡してください」とは、購入時の契約に基づいて、システム管理者が弊社問い合わせ窓口に連絡することを示します。

## 6.2 Collaboration Setup Navigation のメッセージ

---

### **KDSN00002-E <D,T>**

---

プロパティファイルが存在しません。File: %1

The property file "%1" does not exist.

(S)

プロパティファイルが存在しません。

- %1 : 存在しないプロパティファイル名

(O)

プロパティファイルが存在するか確認してください。

### **KDSN00003-E <D,T>**

---

プロパティファイルが不正です。File: %1 Info: %2

The property file "%1" is invalid. (info = %2)

(S)

プロパティファイルの内容が不正です。

- %1 : プロパティファイル名
- %2 : エラーの詳細情報。内容については「6.2.1 メッセージに出力される詳細情報」を参照してください。

(O)

%2 に示すエラーの内容を確認して、%1 に示すファイルの内容を見直してください。

### **KDSN00004-E <D,T>**

---

ファイルの読み込みに失敗しました。File: %1 Info: %2

An attempt to read the file "%1" has failed. (info = %2)

(S)

ファイルの読み込み時にエラーが発生しました。

- %1 : エラーが発生したファイル名
- %2 : エラーの詳細情報 (Java API の例外情報 (エラーメッセージ))

(O)

%2 に示すエラーの内容を確認して、障害の要因を取り除いてください。

それでも障害から回復できない場合は、保守員に連絡してください。

### **KDSN00005-E <D,T>**

---

トレースの初期化に失敗しました。Info: %1

Trace initialization has failed. (info = %1)

(S)

トレースの初期化に失敗しました。次の要因が考えられます。

- トレースファイルの出力先ディレクトリのアクセス権限がない。
- トレースファイルのアクセス権限がない。

メッセージ中の「%1」は次の情報を示します。

- %1 : エラーの詳細情報 (エラーコード)

(O)

トレースファイルの出力先ディレクトリまたはトレースファイルのアクセス権限を確認し、書き込みができるようにしてください。それでも障害から回復できない場合は、保守員に連絡してください。

### **KDSN00006-E <D,T>**

---

構築システムの定義情報が不正です。File: %1 Info: %2

The configuration system definition information is invalid. (file = %1, info = %2)

(S)

入力値ファイルまたは条件ファイルの定義情報が不正です。

- %1 : 不正なファイル名
- %2 : エラーの詳細情報 (エラーの原因とコード)。内容については「6.2.1 メッセージに出力される詳細情報」を参照してください。

(O)

保守員に連絡してください。

### **KDSN00007-E <D,T>**

---

ナビゲーション画面は既に起動されています。

Collaboration Setup Navigation has already started.

(S)

セットアップナビゲーション画面を開こうとしたところ、すでに開いていました。

(O)

すでに開いているセットアップナビゲーション画面で操作してください。

### **KDSN00008-E <D,T>**

---

画面表示時にエラーが発生しました。Info:%1

An attempt to display a window has failed. (info = %1)



(S)

構築手順画面，フロー画面，設定項目画面の表示時にエラーが発生しました。

- %1：エラーの詳細情報（Java API の例外情報（エラーメッセージ））。

(O)

%1 に示すエラーの内容を確認して，障害の要因を取り除いてください。

それでも障害から回復できない場合は，保守員に連絡してください。

### **KDSN00010-E <E,T>**

---

セットアップファイルの出力に失敗しました。Info: %1

An attempt to output a setup file has failed. (info = %1)

(S)

セットアップファイルの出力時にエラーが発生しました。

- %1：エラーの詳細情報（Java API の例外情報（エラーメッセージ））。

(O)

%1 に示すエラーの内容を確認して，障害の要因を取り除いてください。

それでも障害から回復できない場合は，保守員に連絡してください。

### **KDSN00013-E <D,T>**

---

設定内容の保存に失敗しました。File: %1 Info: %2

An attempt to save settings data has failed. (file = %1, info = %2)

(S)

設定内容の保存時にエラーが発生しました。

- %1：出力ファイルパス
- %2：エラーの詳細情報（Java API の例外情報（エラーメッセージ））。

(O)

%2 に示すエラーの内容を確認して，障害の要因を取り除いてください。

それでも障害から回復できない場合は，保守員に連絡してください。

### **KDSN00015-E <D,T>**

---

指定したファイルの内容が不正です。File: %1 Info: %2

The specified file "%1" is invalid. (info = %2)

(S)

指定したファイルの内容が不正です。

- %1：入力ファイルパス
- %2：エラーの詳細情報。内容については「6.2.1 メッセージに出力される詳細情報」を参照してください。

## 6. メッセージ

(O)

%2 に示すエラーの内容を確認して、指定したファイルの内容を見直してください。

### **KDSN00016-E <D,T>**

---

設定内容の読み込みに失敗しました。File: %1 Info: %2

An attempt to open settings data has failed. (file = %1, info = %2)

(S)

設定内容の読み込み時にエラーが発生しました。

- %1 : 入力ファイルパス
- %2 : エラーの詳細情報 (Java API の例外情報 (エラーメッセージ))

(O)

%2 に示すエラーの内容を確認して、障害の要因を取り除いてください。  
それでも障害から回復できない場合は、保守員に連絡してください。

### **KDSN00017-E <D,E,T>**

---

%1 は、%2 文字で指定してください。

Specify no more than %2 characters for "%1".

(S)

フォルダ選択ダイアログで [ 開く ] ボタンをクリック (<D, T>) したか、[ 見積もり  
ファイルの指定 ] 画面で [ 実行 ] アンカーをクリック (<E, T>) した際、指定内容  
に次のどれかの指定誤りを検出しました。

- 必須項目が未指定
- スペースまたはタブだけで構成される文字列を指定
- 指定値が範囲外

メッセージ中の「%1」「%2」は次の情報を示します。

- %1 : 項目名
- %2 : 最大値、または指定値の範囲

指定値の範囲は「<最小値>-<最大値>」の形式で出力されます。

<最小値> : %1 で示す項目の最小値

<最大値> : %1 で示す項目の最大値

(O)

メッセージに従って対処してください。

必須項目はすべて指定してください。

### **KDSN00018-E <E,T>**

---

%1 に指定したファイルが存在しません。正しいファイルを指定してください。

The file specified for "%1" does not exist. Specify a valid file.

(S)

[見積もりファイルの指定]画面で[実行]アンカーをクリックした際、指定内容に次のどちらかの誤りを検出しました。

- パスが不正
- 指定されたパスにファイルが存在しない

メッセージ中の「%1」は次の情報を示します。

- %1：項目名

(O)

メッセージに従って対処してください。

必須項目はすべて指定してください。

### **KDSN00019-E <D,T>**

---

指定したディレクトリに、セットアップファイル出力ディレクトリが存在します。別のディレクトリを指定してください。Directory: %1

A setup file export directory already exists in the directory "%1". Specify another directory.

(S)

セットアップファイルまたは入力値ファイルの出力時に指定されたディレクトリに、すでに「構築システムディレクトリ名¥setupfiles」ディレクトリが存在します。

- %1：セットアップファイルの出力ディレクトリ名

(O)

別のディレクトリを指定してください。

### **KDSN00020-E <D,T>**

---

上書きするファイルには、セットアップファイル出力時の内容が保存されているため、上書きできません。

「名前を付けて保存」メニューから別のファイルに保存してください。

The specified file cannot be overwritten because it contains data saved when a setup file was exported.

From the [Save As] menu, specify a different file.

(S)

上書き保存する入力値ファイルには、セットアップファイル出力時の内容が保存されています。セットアップファイルと指定値の対応を取るために、この入力値ファイルには上書きできません。

(O)

[名前を付けて保存]メニューから別のディレクトリを指定して、別のファイルに保存してください。

### **KDSN00021-E <D,T>**

---

ディレクトリ %1 が存在しません。正しいディレクトリを指定してください。

The directory "%1" does not exist. Specify a valid directory.

(S)

指定されたディレクトリが存在しません。

- %1 : 存在しないディレクトリ名

(O)

存在するディレクトリを指定してください。

### **KDSN00022-E <D,T>**

---

指定したディレクトリに、入力値ファイルが存在しません。正しいディレクトリを指定してください。

The specified directory does not contain an input value file. Specify a valid directory.

(S)

構築システムディレクトリに、入力値ファイルが存在しません。

(O)

構築システムディレクトリを指定してください。

### **KDSN00023-E <E,T>**

---

%1 は、%2 の範囲で指定してください。

Specify a value in the range "%2 "for %1".

(S)

[見積もりファイルの指定]画面で[次へ]ボタンをクリックした際、指定内容に次のどれかの誤りを検出しました。

- 必須項目が未指定
- スペースまたはタブだけで構成された文字列を指定
- 指定値が整数値以外
- 指定値が範囲外

メッセージ中の「%1」「%2」は次の情報を示します。

- %1 : 項目名
- %2 : 指定値の範囲

「<最小値>-<最大値>」の形式で出力されます。

<最小値> : %1 で示す項目の最小値

<最大値> : %1 で示す項目の最大値

(O)

メッセージに従って対処してください。

必須項目はすべて指定してください。

**KDSN00024-E <E,T>**

---

%1 は、%2 バイトで指定してください。

Specify a value of no more than %2 bytes for "%1".

(S)

[見積もりファイルの指定]画面で[次へ]ボタンをクリックした際、指定内容に次のどれかの誤りを検出しました。

- 必須項目が未指定
- スペースまたはタブだけで構成された文字列を指定
- 指定値が範囲外

メッセージ中の「%1」「%2」は次の情報を示します。

- %1：項目名
- %2：最大値、または指定値の範囲

指定値の範囲は「<最小値><最大値>」の形式で出力されます。

- <最小値>：%1 で示す項目の最小値
- <最大値>：%1 で示す項目の最大値

(O)

メッセージに従って対処してください。

必須項目はすべて指定してください。

**KDSN00025-E <E,T>**

---

%1 は、%2 以上の整数で指定してください。

Specify an integer that is %2 or higher for "%1".

(S)

[見積もりファイルの指定]画面で[次へ]ボタンをクリックした際、指定内容に次のどれかの誤りを検出しました。

- 必須項目が未指定
- スペースまたはタブだけで構成された文字列を指定
- 指定値が整数値以外
- 指定値が範囲外

メッセージ中の「%1」「%2」は次の情報を示します。

- %1：項目名
- %2：最小値

(O)

メッセージに従って対処してください。

必須項目はすべて指定してください。

### **KDSN00026-E <E,T>**

---

%1 がチェックされていません。

%1 is not checked.

(S)

[ 設定内容の確認 ] 画面で [ 次へ ] ボタンをクリックしましたが、必要な項目がチェックされていませんでした。

- %1 : 項目名

(O)

メッセージに従って対処してください。

必須項目はすべて指定してください。

### **KDSN00027-E <E,T>**

---

入力値が不正です。Key: %1 Value: %2

The input value is invalid. (key = %1, value = %2)

(S)

指定値が不正です。

メッセージ中の「%1」「%2」は次の情報を示します。

- %1 : 項目名
- %2 : 指定値

(O)

項目の指定値を見直してください。

### **KDSN00028-E <E,T>**

---

ディレクトリの作成に失敗しました。Info: %1

An attempt to create directory has failed. (info = %1)

(S)

ディレクトリの作成に失敗しました。

メッセージ中の「%1」は次の情報を示します。

- %1 : ディレクトリ名

(O)

ディレクトリ名と同じファイルが存在しないか確認してください。

ディレクトリ名が正しいパスか確認してください。

### **KDSN00029-E <D,T>**

---

指定したディレクトリが不正です。正しいディレクトリを指定してください。Directory: %1

The specified directory "%1" is invalid. Specify a valid directory.

- (S)  
指定されたディレクトリが構築システムディレクトリではありません。  
• %1：指定されたディレクトリ名
- (O)  
構築システムディレクトリを指定してください。

### **KDSN09998-E <P>**

---

The file "%1" does not exist.

- (S)  
ファイルが存在しません。  
• %1：存在しないファイル名
- (O)  
• %1 が「%COSMINEXUS\_HOME%\jdk\bin\javaw.exe」の場合  
uCosminexus Application Server Standard がインストールされているか、環境変数「COSMINEXUS\_HOME」が定義されているか確認してください。  
• %1 が  
「%COLLABORATION\_SETUPNAVI\_HOME%\systems\fw\lib\csn\_framework.jar」の場合  
環境変数「COLLABORATION\_SETUPNAVI\_HOME」が定義されているか確認してください。

### **KDSN09999-E <D,E,T>**

---

内部エラーが発生しました。Info: %1

An internal error has occurred. (info = %1)

- (S)  
内部エラーが発生しました。  
• %1：エラーの詳細情報。
- (O)  
%1 に示すエラーの内容を確認して、障害の要因を取り除いてください。  
それでも障害から回復できない場合は、保守員に連絡してください。

## 6.2.1 メッセージに出力される詳細情報

Collaboration Setup Navigation のメッセージに出力される詳細情報に関して、出力要因と対処を次の表に示します。

## 6. メッセージ

表 6-1 Collaboration Setup Navigation のメッセージに出力される詳細情報

出力される詳細情報	出力要因	対策
The key "%1" is not specified.	プロパティファイルにキーが存在しません。 • %1: 存在しないキー名	プロパティファイルにキーを指定してください。
The key "%1" is invalid.	プロパティファイルのキーが不正です。 • %1: 不正なキー名	プロパティファイルのキーを変更してください。
A value is not specified for the key "%1".	プロパティファイルのキーに値が指定されていません。 • %1: 値が指定されていないキー名	プロパティファイルのキーに値を指定してください。
The value "%1" of the key "%2" is invalid.	プロパティファイルのキーに指定されている値が不正です。 • %1: キーの値 • %2: 不正な値が指定されているキー名	プロパティファイルのキーの値を修正してください。
The element "%1" is not specified.	要素 %1 が存在しません。 • %1: 存在しない要素名	XML ファイルに要素を指定してください。
The attribute "%1" of the element "%2" is not specified.	要素 %2 に属性 %1 が存在しません。 • %1: 存在しない属性名 • %2: 要素名	XML ファイルに属性を指定してください。
A value is not specified for the attribute "%1" of the element "%2".	要素 %2 の属性 %1 に値が指定されていません。 • %1: 値が指定されていない属性名 • %2: 要素名	XML ファイルの属性に値を指定してください。
The value "%1" of the attribute "%2" of the element "%3" is invalid.	要素 %3 の属性 %2 に指定されている値 %1 が不正です。 • %1: 属性の値 • %2: 不正な値が指定されている属性名 • %3: 要素名	XML ファイルの属性の値を修正してください。
The invalid element "%1" is specified.	不正な要素 %1 が指定されています。 • %1: 指定されている要素名	XML ファイルの要素を見直してください。
The element "%1" is duplicated.	要素 %1 が重複しています。 • %1: 重複している要素名	XML ファイルの要素を見直してください。



## 6.3 File Sharing サーバのセットアップ時に出 力されるメッセージ

---

### 6.3.1 セットアップナビゲーション画面の操作時に出力され るメッセージ

#### **KDSN20001-E <T>**

---

プロパティファイルの指定が不正です。(key = %1)

A property file is invalid. (key = %1)

(S)

不正な値が指定されているプロパティファイルのキーを読み込もうとしました。

- %1：不正な値が設定されているプロパティファイルのキー名

(O)

%1 に示すプロパティファイルのキーに、適切な値が設定されているか確認してください。

#### **KDSN20003-E <E,T>**

---

見積りデータファイルの指定が不正です。(key = %1)

An estimation data file is invalid. (key = %1)

(S)

不正な値が指定されている見積りデータファイルのキーが読み込まれました。

- %1：不正な値が設定されている見積りデータファイルのキー名

(O)

%1 に示す見積りデータファイルのキーに、適切な値が設定されているか確認してください。

#### **KDSN20011-E <E,T>**

---

%1 は、%2 の範囲で指定してください。

Specify a value in the range %2 for "%1".

(S)

次に示す画面で [ 次へ ] ボタンをクリックした際、指定誤りを検出しました。

- [ メモリ所要量の見積もり ] 画面
- [ データベース容量の見積もりの設定 ] 画面
- [ ルートフォルダの設定 ] 画面
- [ ベースパス情報の設定 ] 画面

## 6. メッセージ

- [ 最大許容サイズ情報の設定 ] 画面
- [ ディレクトリサーバの接続設定 ] 画面

考えられる指定誤りは次のとおりです。

- 必須項目が未指定
- スペースまたはタブだけで構成された文字列を指定
- 指定値が整数値以外
- 指定値が範囲外

メッセージ中の「%1」「%2」は次の情報を示します。

- %1 : 項目名
- %2 : 指定値の範囲

「< 最小値>-< 最大値>」の形式で出力されます。

- < 最小値> : %1 で示す項目の最小値
- < 最大値> : %1 で示す項目の最大値

(O)

メッセージに従って対処してください。

必須項目はすべて指定してください。

### **KDSN20012-E <E,T>**

---

%1 は、%2 バイトで指定してください。

Specify a value of no more than %2 bytes for "%1".

(S)

次に示す画面で [ 次へ ] ボタンをクリックした際、指定誤りを検出しました。

- [ File Sharing サーバの接続設定 ] 画面
- [ Online Community Management の接続設定 ] 画面
- [ ディレクトリサーバの接続設定 ] 画面
- [ 兼任ユーザ情報の設定 ] 画面
- [ ファイル実体の格納先の設定 ] 画面

考えられる指定誤りは次のとおりです。

- 必須項目が未指定
- スペースまたはタブだけで構成された文字列を指定
- 指定値が範囲外

メッセージ中の「%1」「%2」は次の情報を示します。

- %1 : 項目名
- %2 : 最大値、または指定値の範囲

指定値の範囲は「< 最小値>-< 最大値>」の形式で出力されます。

- < 最小値> : %1 で示す項目の最小値
- < 最大値> : %1 で示す項目の最大値

(O)

メッセージに従って対処してください。  
必須項目はすべて指定してください。

**KDSN20013-E <E,T>**

---

%1 は、%2 バイトの半角英数字で指定してください。

Specify no more than %2 bytes of alphanumeric characters for "%1".

(S)

次に示す画面で [ 次へ ] ボタンをクリックした際、指定誤りを検出しました。

- [ File Sharing サーバの接続設定 ] 画面
- [ Online Community Management の接続設定 ] 画面

考えられる指定誤りは次のとおりです。

- 必須項目が未指定
- スペースまたはタブだけで構成された文字列を指定
- 指定値が半角英数字以外
- 指定値が範囲外

メッセージ中の「%1」「%2」は次の情報を示します。

- %1：項目名
- %2：指定値の範囲

「<最小値>-<最大値>」の形式で出力されます。

- <最小値>：%1 で示す項目の最小値
- <最大値>：%1 で示す項目の最大値

(O)

メッセージに従って対処してください。  
必須項目はすべて指定してください。

**KDSN20014-E <E,T>**

---

%1 は、%2 バイトの半角英数字で指定してください。また、先頭は英字にしてください。

Specify no more than %2 bytes of alphanumeric characters for "%1". Also, make sure the first character is a letter.

(S)

次に示す画面で [ 次へ ] ボタンをクリックした際、指定誤りを検出しました。

- [ File Sharing サーバの接続設定 ] 画面
- [ Online Community Management の接続設定 ] 画面

考えられる指定誤りは次のとおりです。

- 必須項目が未指定
- スペースまたはタブだけで構成された文字列を指定
- 指定値が半角英数字以外

## 6. メッセージ

- 指定値の先頭が半角英字以外
- 指定値が範囲外

メッセージ中の「%1」「%2」は次の情報を示します。

- %1：項目名
- %2：指定値の範囲

「<最小値>-<最大値>」の形式で出力されます。

<最小値>：%1 で示す項目の最小値

<最大値>：%1 で示す項目の最大値

(O)

メッセージに従って対処してください。

必須項目はすべて指定してください。

### **KDSN20015-E <E,T>**

---

%1 は、%2 と同じ値を指定してください。

For "%1", specify the same value as "%2".

(S)

次に示す画面で [次へ] ボタンをクリックした際、%1 の項目と %2 の項目の指定値の不一致を検出しました。

- [ File Sharing サーバの接続設定 ] 画面
- [ Online Community Management の接続設定 ] 画面
- [ ディレクトリサーバの接続設定 ] 画面
- [ ファイル実体の格納先の設定 ] 画面

メッセージ中の「%1」「%2」は次の情報を示します。

- %1：項目名 1
- %2：項目名 2

(O)

メッセージに従って対処してください。

### **KDSN20016-E <E,T>**

---

%1 のユーザ ID は、%2 バイトの範囲で指定してください。

Specify a name of %2 bytes for the "%1" user ID.

(S)

[セキュリティ管理者の設定] 画面で [>] ボタンをクリックしたところ、セキュリティ管理者テキストボックスの指定値が範囲外でした。

メッセージ中の「%1」「%2」は次の情報を示します。

- %1：項目名
- %2：指定値の範囲

「<最小値>-<最大値>」の形式で出力されます。

<最小値> : %1 で示す項目の最小値

<最大値> : %1 で示す項目の最大値

(O)

メッセージに従って対処してください。

必須項目はすべて指定してください。

### **KDSN20017-E <E,T>**

---

%1 に指定したユーザ ID を追加できません。%1 に設定されているユーザ ID を減らしてください。

The specified user ID of %1 cannot be added. Decrease the number of user ID set for "%1".

(S)

[セキュリティ管理者の設定] 画面で [次へ] ボタンをクリックしたところ、セキュリティ管理者リストに設定済みのユーザ ID と、セキュリティ管理者テキストボックスのユーザ ID の合計が、最大値を超えていました。

次の条件を満たす場合に、最大値を超えたと見なされます。

$A < B + C$

A : セキュリティ定義ファイル (docaccess.ini) のエントリの最大値 (2,048 バイト)

B : SecurityAdmin エントリの固定部分 (14 バイト)

C : エントリに指定する文字列の長さ ( $D + 3 \times (E + 1) - 1$ )

D : ユーザ ID の長さの合計

E : セキュリティ管理者リストに設定済みのユーザ数

メッセージ中の「%1」は次の情報を示します。

- %1 : 項目名

(O)

最大値を超えないよう指定値を修正してください。

### **KDSN20018-E <E,T>**

---

%1 は、%2 バイトの半角英数字で指定してください。また、英字は大文字にしてください。

Specify no more than %2 bytes of alphanumeric characters for "%1". Also, make sure the first character is an upper-case letter.

(S)

[File Sharing サーバの接続設定] 画面で [次へ] ボタンをクリックした際、指定内容に次のどれかの誤りを検出しました。

- 必須項目が未指定
- スペースまたはタブだけで構成された文字列を指定
- 指定値が半角英数字以外

## 6. メッセージ

- 指定値の英字が小文字
- 指定値が範囲外

メッセージ中の「%1」「%2」は次の情報を示します。

- %1：項目名
- %2：最大値

(O)

メッセージに従って対処してください。  
必須項目はすべて指定してください。

### **KDSN20019-E <E,T>**

---

%1 は、%2 文字で指定してください。

For "%1", specify up to or within the following number of characters: %2.

(S)

次に示す画面で [ 次へ ] ボタンをクリックした際、指定内容に誤りを検出しました。

- [ 文書空間情報の設定 ] 画面
- [ File Sharing サーバの接続設定 ] 画面
- [ トレースファイルの設定 ] 画面

考えられる指定誤りは次のとおりです。

- 必須項目が未指定
- スペースまたはタブだけで構成された文字列を指定
- 指定値が範囲外

メッセージ中の「%1」「%2」は次の情報を示します。

- %1：項目名
- %2：最大値、または指定値の範囲

指定値の範囲は「< 最小値 > < 最大値 >」の形式で出力されます。

< 最小値 >：%1 で示す項目の最小値

< 最大値 >：%1 で示す項目の最大値

(O)

メッセージに従って対処してください。  
必須項目はすべて指定してください。

### **KDSN20020-E <E,T>**

---

内部エラーが発生しました。詳細情報：%1

An internal error occurred. (info = %1)

(S)

内部エラーが発生しました。

- %1：詳細情報（ない場合は出力されません）

(O)

出力される詳細情報，出力要因および対策を次に示します。

出力される詳細情報	出力要因	対策
The input data is invalid. "< 項目名>"	入力値ファイルから読み込んだデータが不正です。	入力値ファイルの保存，またはセットアップファイル出力の操作で出力した入力値ファイルを読み込んで，再度操作を実行してください。

これ以外の詳細情報が出力されている場合，または詳細情報が出力されていない場合は，セットアップナビゲーションのトレースファイルを確認し，詳細情報を基に障害の要因を取り除いてください。

障害から回復できない場合は，トレースファイルを採取して，保守員に連絡してください。

### **KDSN20021-E <E,T>**

見積もり基礎情報ファイルの出力でエラーが発生しました。ファイル：%1

An error occurred during output of an estimation basic information file. (file = %1)

(S)

見積もり基礎情報ファイルの出力時にエラーが発生しました。

- %1：出力に失敗したファイルの絶対パス

(O)

次の点を確認し，詳細情報を基にエラーの要因を取り除いてから再実行してください。

- 見積もり基礎情報ファイルの出力先ディレクトリに書き込み権限があるか。
- 見積もり基礎情報ファイルの出力パスの長さが 255 文字を超えていないか。

### **KDSN20022-E <E,T>**

指定したユーザ ID は，すでにセキュリティ管理者として設定されています。

The specified user ID have already been set as Security Administrator.

(S)

[セキュリティ管理者の設定]画面で「>」ボタンをクリックしたところ，セキュリティ管理者テキストボックスに指定したユーザ ID が，セキュリティ管理者リストの要素としてすでに設定されていました。

(O)

指定したユーザ ID を見直してください。

### **KDSN20023-E <E,T>**

セキュリティ管理者として設定するユーザ ID を指定してください。

Specify the user ID to set as Security Administrator.

## 6. メッセージ

(S)

[セキュリティ管理者の設定]画面でセキュリティ管理者リストに一人もユーザが設定されないまま,[次へ]ボタンがクリックされました。

(O)

一人以上のセキュリティ管理者を設定してください。

### 6.3.2 セットアップコマンドの実行時に出力されるメッセージ

#### **KDSN21001-E <R,T>**

---

The specified option is invalid.

Usage:%1

(S)

セットアップコマンドに、誤ったオプションが指定されました。

- %1 : ユーザが指定したオプションと Usage

(O)

コマンドの指定内容が正しいか確認してください。

#### **KDSN21002-E <R,T>**

---

An attempt to execute setup command has failed. Command Name:%1

(S)

前提製品のコマンド実行時にエラーが発生したため、セットアップコマンドの実行中にエラーが発生しました。

- %1 : セットアップコマンド名

(O)

セットアップコマンドのトレースファイルを参照し、前提製品のコマンドが出力したメッセージの対処を実施してください。

#### **KDSN21005-E <R,T>**

---

The specified backup directory is not empty.

(S)

セットアップコマンドの -b オプションで指定したバックアップディレクトリは、内容が空ではありませんでした。

(O)

セットアップコマンドの -b オプションに、内容が空のディレクトリを指定してください。



**KDSN21006-E <R,T>**

---

An attempt to create backup directory has failed. Info:%1

(S)

セットアップコマンドの `-b` オプションで指定したバックアップディレクトリの作成に失敗しました。

- %1 : 作成に失敗したバックアップディレクトリの絶対パス

(O)

次のように対処してください。

- セットアップコマンドの `-b` オプションで指定したバックアップディレクトリと同じ名前のファイルが存在しないことを確認する。
- バックアップディレクトリの絶対パスの長さが 255 文字以下であることを確認する。
- バックアップディレクトリ作成先の読み取り権限があるか確認する。

**KDSN21007-E <R,T>**

---

The environment variable "%1" does not exist.

(S)

セットアップコマンドが必要とする環境変数が存在しません。

- %1 : 必要な環境変数

(O)

%1 に示す環境変数が存在することを確認してください。

環境変数が存在しない場合は、環境変数を設定後、セットアップコマンドを再実行してください。

**KDSN21011-E <R,T>**

---

An attempt to backup a file has failed. Destination %1 File:%2

(S)

ファイルのバックアップに失敗しました。

- %1 : バックアップ先のディレクトリパス
- %2 : バックアップできなかったファイルの絶対パス

(O)

次のように対処してください。

- %2 に示すファイルが存在するか確認する。
- %1 に示すディレクトリの書き込み権限があるか確認する。
- %2 に示すファイルの読み取り権限があるか確認する。

**KDSN21013-E <R,T>**

An attempt to copy a file has failed. Destination:%1 File:%2

(S)

ファイルのコピーに失敗しました。

- %1 : コピー先のディレクトリパス
- %2 : コピーできなかったファイルの絶対パス

(O)

次のように対処してください。

- %2 に示すファイルが存在するか確認する。
- %1 に示すディレクトリの書き込み権限があるか確認する。
- %2 に示すファイルの読み取り権限があるか確認する。

**KDSN21014-E <R,T>**

HiRDB file system area already exists. Dir:%1

(S)

HiRDB ファイルシステムの作成先ディレクトリに、すでに HiRDB ファイルシステム領域が存在します。

- %1 : HiRDB ファイルシステムの作成先ディレクトリのパス

(O)

既存の HiRDB ファイルシステム領域を削除してからコマンドを再実行してください。

**KDSN21015-E <R,T>**

An attempt to set the specified environment variable has failed. (name = %1, value = %2, reason = %3)

(S)

システム環境変数の設定に失敗しました。

- %1 : 環境変数名
- %2 : セットアップコマンドで設定する値
- %3 : 要因を示す文字列。出力される文字列とその対処を次の表に示します。

要因を示す文字列	意味	対処
The maximum length was exceeded.	%1 で示す環境変数と、%2 で示す設定値の文字列長の合計が、1,024 文字を超えています。	不要な環境変数を削除し、設定に失敗した環境変数を手動で設定してください。
The specified environment variable already exists.	%1 で示す環境変数の値に、%2 で示す設定値がすでに設定されています。	不要。

要因を示す文字列	意味	対処
(上記以外)	%errorlevel% の値であり、上記以外の要因であることを示します。	OS の setx コマンドの戻り値を基に原因を取り除き、コマンドを再実行してください。

(O)

必要に応じて、原因を取り除いてからコマンドを再実行してください。

### **KDSN21016-Q <R,T>**

Are you sure you want to set the specified environment variable? (name = %1, current value = %2, set value = %3, operation = %4)

(S)

セットアップコマンドがシステム環境変数を設定するに当たり、環境変数を設定してよいか確認するメッセージです。

- %1：環境変数名
- %2：%1 の環境変数に設定されている値（環境変数が存在しない場合は空文字列）
- %3：セットアップコマンドで設定する値
- %4：環境変数の設定方法として、次の内容を出力

Add：現在の設定内容に追加する

Overwrite：現在の設定内容を書き換える

(O)

設定した環境変数の内容を確認する場合、システム環境変数一覧ファイルを参照してください。システム環境変数一覧ファイルについては、「5.3.1(2) 機能」を参照してください。

## 6.4 Scheduler Server および Facilities Manager のセットアップ時に出力されるメッセージ

---

### **KDSN10002-E <W,T>**

---

内部エラーが発生しました。

An internal error occurred. (info = %1)

(S)

指定値のチェックで、プログラム内部のデータに不整合が生じています。

(O)

顧客問い合わせ窓口にお問い合わせください。

### **KDSN10010-E <W,T>**

---

見積もり基礎情報ファイルの出力でエラーが発生しました。詳細情報 : %1

An error occurred during output of an estimation basic information file. (info = %1)

(S)

見積もり基礎情報ファイルの出力時にエラーが発生しました。

• %1 : 詳細情報

(O)

詳細情報を参照して、エラーの要因を取り除いてから再実行してください。

### **KDSN10019-E <W,T>**

---

見積もりファイルの HiRDB ファイルシステム領域のサイズは、1-1,048,575 の範囲で指定してください。

In the estimation file, specify a value from 1 to 1,048,575 for the size of the HiRDB file system area.

(S)

見積もりファイルの HiRDB ファイルシステム領域のサイズが不正です。

(O)

HiRDB ファイルシステム領域のサイズは、1 ~ 1,048,575 の範囲で指定してください。

### **KDSN10020-E <W,T>**

---

見積もりファイルの RD エリアのセグメント数は、1 以上の整数値を指定してください。RD エリア : %1

In the estimation file, specify a minimum of 1 for the number of RD area segments. (RD area = %1)

(S)

見積もりファイルの RD エリアのセグメント数が不正です。

- %1 : RD エリア名

(O)

RD エリアのセグメント数は、1 以上の整数値を指定してください。

### **KDSN10021-E <W,T>**

---

見積もりファイルの RD エリアのセグメントサイズは、1-16,000 の範囲で指定してください。

RD エリア : %1

In the estimation file, specify a value from 1 to 16,000 for the size of RD area segments. (RD area = %1)

(S)

見積もりファイルの RD エリアのセグメントサイズが不正です。

- %1 : RD エリア名

(O)

RD エリアのセグメントサイズは、1 ~ 16,000 の範囲で指定してください。

### **KDSN10022-E <W,T>**

---

見積もりファイルの RD エリアに割り当てるグローバルバッファの面数は、4-1,073,741,824 の範囲で指定してください。RD エリア : %1

In the estimation file, specify a value from 4 to 1,073,741,824 for the RD area buffer sector count. (RD area = %1)

(S)

見積もりファイルの RD エリアに割り当てるグローバルバッファの面数が不正です。

- %1 : RD エリア名

(O)

RD エリアに割り当てるグローバルバッファの面数は、4 ~ 1,073,741,824 の範囲で指定してください。

### **KDSN10023-E <W,T>**

---

Scheduler Server に対するクライアント接続数は、1-300 の範囲で指定してください。

Specify a value from 1 to 300 for the number of client connections to Scheduler Server.

(S)

Scheduler Server に対するクライアント接続数に設定された値が不正です。

## 6. メッセージ

(O)

Scheduler Server に対するクライアント接続数は、1 ~ 300 の範囲で指定してください。

### **KDSN10024-E <W,T>**

---

Facilities Manager に対するクライアント接続数は、1-300 の範囲で指定してください。

Specify a value from 1 to 300 for the number of client connections to Facilities Manager.

(S)

Facilities Manager に対するクライアント接続数に設定された値が不正です。

(O)

Facilities Manager に対するクライアント接続数は、1 ~ 300 の範囲で指定してください。

### **KDSN10025-E <W,T>**

---

HiRDB 識別子は、4 バイトの半角英数字で指定してください。

Specify four 1-byte alphanumeric characters for the HiRDB identifier.

(S)

HiRDB 識別子の指定値に、次のどちらかの誤りがあると考えられます。

- 設定された値が 4 バイトを超えています。
- 半角英数字以外の文字が使われています。

(O)

HiRDB 識別子は 4 バイトの半角英数字で指定してください。

### **KDSN10026-E <W,T>**

---

認可識別子は、1-8 バイトの半角英数字で指定してください。

Specify from 1 to 8 1-byte alphanumeric characters for the authorization identifier.

(S)

認可識別子の指定値に、次のどれかの誤りがあると考えられます。

- 値が設定されていません。
- 設定された値が 8 バイトを超えています。
- 半角英数字以外の文字が使われています。

(O)

認可識別子は 1 ~ 8 バイトの半角英数字で指定してください。

**KDSN10027-E <W,T>**

---

パスワードは、1-30 バイトの半角英数字で指定してください。また、先頭は英字にしてください。

Specify from 1 to 30 1-byte alphanumeric characters for the password. Make sure that the first character is a letter.

(S)

パスワードの指定値に、次のどれかの誤りがあると考えられます。

- パスワードが設定されていません。
- 設定された値が 30 バイトを超えています。
- 半角英数字以外の文字が使われています。
- 先頭が英字ではありません。

(O)

パスワードは 1 ~ 30 バイトの半角英数字で指定してください。また、先頭は英字にしてください。

**KDSN10028-E <W,T>**

---

パスワード (再入力) は、パスワードと同じ値を指定してください。

Specify the same password again.

(S)

パスワード (再入力) に設定された値が、パスワードで設定した値と異なっていません。

(O)

パスワード (再入力) は、パスワードと同じ値を指定してください。

**KDSN10029-E <W,T>**

---

最大同時接続数は、1-3,000 の範囲で指定してください。

Specify a value from 1 to 3,000 for the maximum number of concurrent connections.

(S)

最大同時接続数に設定された値が不正です。

(O)

最大同時接続数は 1 ~ 3,000 の範囲で指定してください。

**KDSN10030-E <W,T>**

---

JRE インストールパスは、1-255 文字で指定してください。

Specify a value of no more than 1 to 255 characters for the JRE installation path.

## 6. メッセージ

(S)

JRE インストールパスに設定された値が不正です。

(O)

JRE インストールパスは 1 ~ 255 文字で指定してください。

### **KDSN10031-E <W,T>**

---

HiRDB 運用ディレクトリは、1-255 文字で指定してください。

Specify a value of no more than 1 to 255 characters for the HiRDB directory.

(S)

HiRDB 運用ディレクトリに設定された値が不正です。

(O)

HiRDB 運用ディレクトリは 1 ~ 255 文字で指定してください。

### **KDSN10032-E <W,T>**

---

スケジュール機能を使用するユーザ数は、1-400,000 の範囲で指定してください。

Specify a value from 1 to 400,000 for the number of users who will use schedule functionality.

(S)

スケジュール機能を使用するユーザ数に設定された値が不正です。

(O)

スケジュール機能を使用するユーザ数は、1 ~ 400,000 の範囲で指定してください。

### **KDSN10033-E <W,T>**

---

システム全体の組織数は、1-30,000 の範囲で指定してください。

Specify a value from 1 to 30,000 for the number of organizations to be registered in the system.

(S)

システム全体の組織数に設定された値が不正です。

(O)

システム全体の組織数は 1 ~ 30,000 の範囲で指定してください。

### **KDSN10034-E <W,T>**

---

システムに登録する施設数は、1-30,000 の範囲で指定してください。

Specify a value from 1 to 30,000 for the number of facilities to be registered in the system.

(S)

システムに登録する施設数に設定された値が不正です。



(O)

システムに登録する施設数は、1 ~ 30,000 の範囲で指定してください。

---

**KDSN10035-E <W,T>**

---

システムに登録する施設の組織数は、1-30,000 の範囲で指定してください。

Specify a value from 1 to 30,000 for the number of facility organizations to be registered in the system.

(S)

システムに登録する施設の組織数に設定された値が不正です。

(O)

システムに登録する施設の組織数は、1 ~ 30,000 の範囲で指定してください。

---

**KDSN10036-E <W,T>**

---

1人あたりのスケジュール数は、0-1,800,000 の範囲で指定してください。

Specify a value from 0 to 1,800,000 for the number of scheduled events per a user.

(S)

一人あたりのスケジュール数に設定された値が不正です。

(O)

一人あたりのスケジュール数は、0 ~ 1,800,000 の範囲で指定してください。

---

**KDSN10037-E <W,T>**

---

システムに登録する施設管理者数は、0-30,000 の範囲で指定してください。

Specify a value from 0 to 30,000 for the number of facility managers to be registered in the system.

(S)

システムに登録する施設管理者数に設定された値が不正です。

(O)

システムに登録する施設管理者数は、0 ~ 30,000 の範囲で指定してください。

---

**KDSN10038-E <W,T>**

---

施設アクセス権が設定されている施設数は、0-32,500 の範囲で指定してください。

Specify a value from 0 to 32,500 for the number of facility access permissions for organizations.

(S)

施設アクセス権が設定されている施設数に設定された値が不正です。

(O)

施設アクセス権が設定されている施設数は、0 ~ 32,500 の範囲で指定してください。

### **KDSN10039-E <W,T>**

---

システムに登録する組織グループ数は、0-32,500 の範囲で指定してください。

Specify a value from 0 to 32,500 for the number of organization groups to be registered in the system.

(S)

システムに登録する組織グループ数に設定された値が不正です。

(O)

システムに登録する組織グループ数は、0 ~ 32,500 の範囲で指定してください。

### **KDSN10040-E <W,T>**

---

システムに登録する組織グループのメンバ総数は、0-32,500 の範囲で指定してください。

Specify a value from 0 to 32,500 for the number of members of organization groups to be registered in the system.

(S)

システムに登録する組織グループのメンバ総数に設定された値が不正です。

(O)

システムに登録する組織グループのメンバ総数は、0 ~ 32,500 の範囲で指定してください。

### **KDSN10041-E <W,T>**

---

1 組織グループあたりの組織数は、0-32,500 の範囲で指定してください。

Specify a value from 0 to 32,500 for the number of organizations per organization group.

(S)

1 組織グループあたりの組織数に設定された値が不正です。

(O)

1 組織グループあたりの組織数は、0 ~ 32,500 の範囲で指定してください。

### **KDSN10042-E <W,T>**

---

システムに登録する特権ユーザ数は、0-30,000 の範囲で指定してください。

Specify a value from 0 to 30,000 for the number of privileged users to be registered in the system.

(S)

システムに登録する特権ユーザ数に設定された値が不正です。

(O)

システムに登録する特権ユーザ数は、0 ~ 30,000 の範囲で指定してください。

**KDSN10043-E <W,T>**

---

組織テンプレートを割り当てる組織の数は、0-32,500 の範囲で指定してください。

Specify a value from 0 to 32,500 for the number of organizations to be allocated to organization templates.

(S)

組織テンプレートを割り当てる組織の数に設定された値が不正です。

(O)

組織テンプレートを割り当てる組織の数は、0 ~ 32,500 の範囲で指定してください。

**KDSN10044-E <W,T>**

---

システムに登録する組織テンプレートの数は、0-32,500 の範囲で指定してください。

Specify a value from 0 to 32,500 for the number of organization templates to be registered in the system.

(S)

システムに登録する組織テンプレートの数に設定された値が不正です。

(O)

システムに登録する組織テンプレートの数は、0 ~ 32,500 の範囲で指定してください。

**KDSN10045-E <W,T>**

---

見積もりファイルパスは、1-255 バイトで指定してください。

Specify from 1 to 255 bytes of characters for the estimation file name.

(S)

見積もりファイルパスに設定された値が不正です。

(O)

見積もりファイルパスは、1 ~ 255 バイトで指定してください。

**KDSN10046-E <W,T>**

---

HiRDB ファイルシステム領域格納先ディレクトリパスは、1-255 文字で指定してください。

Specify a value of no more than 1 to 255 characters for the setup directory.

(S)

HiRDB ファイルシステム領域格納先ディレクトリパスに設定された値が不正です。

(O)

HiRDB ファイルシステム領域格納先ディレクトリパスは、1 ~ 255 文字で指定してください。

## 6. メッセージ

### **KDSN10047-E <W,T>**

---

接続先 HiRDB のホスト名は、1-255 バイトで指定してください。

Specify from 1 to 255 bytes of characters for the host name of the destination HiRDB.

(S)

接続先 HiRDB のホスト名に設定された値が不正です。

(O)

接続先 HiRDB のホスト名は、1 ~ 255 バイトで指定してください。

### **KDSN10048-E <W,T>**

---

トレースファイル格納ディレクトリパスは、1-255 文字で指定してください。

Specify a value of no more than 1 to 255 characters for the trace directory.

(S)

トレースファイル格納ディレクトリパスに設定された値が不正です。

(O)

トレースファイル格納ディレクトリパスは、1 ~ 255 文字で指定してください。

### **KDSN10049-E <W,T>**

---

予約する受信ポート番号は、5,001-65,535 の範囲で指定してください。

Specify a value from 5,001 to 65,535 for the reserved port number.

(S)

予約する受信ポート番号に設定された値が不正です。

(O)

予約する受信ポート番号は、5,001 ~ 65,535 の範囲で指定してください。

### **KDSN10050-E <W,T>**

---

マスターサーバの IP アドレスは、IPv4 形式の IP アドレスで指定してください。

Specify the IP address of the master server in IPv4 format.

(S)

マスターサーバの IP アドレスに設定された値が不正です。

(O)

マスターサーバの IP アドレスは、IPv4 形式の IP アドレスで指定してください。

### **KDSN10051-E <W,T>**

---

Scheduler Server の HiRDB 接続数は、1-64 の範囲で指定してください。

Specify a value from 1 to 64 for the number of connections to HiRDB from Scheduler Server.

(S)

Scheduler Server の HiRDB 接続数に設定された値が不正です。

(O)

Scheduler Server の HiRDB 接続数は、1 ~ 64 の範囲で指定してください。

---

**KDSN10052-E <W,T>**

---

Facilities Manager の HiRDB 接続数は、1-64 の範囲で指定してください。

Specify a value from 1 to 64 for the number of connections to HiRDB from Facilities Manager.

(S)

Facilities Manager の HiRDB 接続数に設定された値が不正です。

(O)

Facilities Manager の HiRDB 接続数は、1 ~ 64 の範囲で指定してください。

---

**KDSN10053-E <W,T>**

---

Scheduler Server のタイムゾーンは GMT[+|-]HH:MM 形式で指定してください。

Specify the time zone of Scheduler Server in GMT[+|-]HH:MM format.

(S)

Scheduler Server のタイムゾーンに設定された値が不正です。

(O)

Scheduler Server のタイムゾーンは、GMT[+|-]HH:MM 形式で指定してください。

---

**KDSN10054-E <W,T>**

---

Scheduler Server のポート番号は、5,001-65,535 の範囲で指定してください。

Specify a value from 5,001 to 65,535 for the port number of Scheduler Server.

(S)

Scheduler Server のポート番号に設定された値が不正です。

(O)

Scheduler Server のポート番号は、5,001 ~ 65,535 の範囲で指定してください。

---

**KDSN10055-E <W,T>**

---

Facilities Manager のポート番号は、5,001-65,535 の範囲で指定してください。

Specify a value from 5,001 to 65,535 for the port number of Facilities Manager.

(S)

Facilities Manager のポート番号に設定された値が不正です。

## 6. メッセージ

(O)

Facilities Manager のポート番号は、5,001 ~ 65,535 の範囲で指定してください。

### **KDSN10056-E <W,T>**

---

Address Server のホスト名は、1-255 文字で指定してください。

Specify from 1 to 255 bytes of characters for the host name of the address server.

(S)

Address Server のホスト名に設定された値が不正です。

(O)

Address Server のホスト名は、1 ~ 255 文字で指定してください。

### **KDSN10057-E <W,T>**

---

ユーザ認証用ポート番号は、5,001-65,535 の範囲で指定してください。

Specify a value from 5,001 to 65,535 for the port number for user authorization.

(S)

ユーザ認証用ポート番号に設定された値が不正です。

(O)

ユーザ認証用ポート番号は、5,001 ~ 65,535 の範囲で指定してください。

### **KDSN10058-E <W,T>**

---

追加するスレーブサーバ数は、0-5 の範囲で指定してください。

Specify a value from 0 to 5 for the number of slave servers.

(S)

追加するスレーブサーバ数として設定された値が不正です。

(O)

追加するスレーブサーバ数は 0 ~ 5 の範囲で指定してください。

### **KDSN10059-E <W,T>**

---

スレーブサーバのホスト名は、1-255 バイトで指定してください。

Specify from 1 to 255 bytes of characters for the host name of the slave server.

(S)

スレーブサーバのホスト名として設定された値が不正です。

(O)

スレーブサーバのホスト名は 1 ~ 255 バイトで指定してください。

**KDSN10060-E <W,T>**

---

スケジューラプロセスのポート番号は、5,001-65,535 の範囲で指定してください。

Specify a Scheduler process port number from 5,001 to 65,535.

(S)

スケジューラプロセスのポート番号に設定された値が不正です。

(O)

スケジューラプロセスのポート番号は、5,001 ~ 65,535 の範囲で指定してください。

**KDSN10062-E <W,T>**

---

見積もりファイルの RD エリアのページサイズは、4,096-30,720 の範囲で、かつ 2,048 の倍数を指定してください。RD エリア : %1

In the estimation file, specify a value from 4,096 to 30,720 (in multiples of 2,048) for the size of RD area pages. (RD area : %1)

(S)

見積もりファイルの RD エリアのページサイズが不正です。

- %1 : RD エリア名

(O)

見積もりファイルの RD エリアのページサイズは、4,096 ~ 30,720 の範囲かつ 2,048 の倍数を指定してください。

**KDSN10063-E <W,T>**

---

ユニット識別子は 4 バイトで指定してください。

Specify four 1-byte alphanumeric characters for the unit identifier.

(S)

HiRDB のユニット名に設定された値が不正です。

(O)

ユニット識別子は 4 バイトで指定してください。

**KDSN10064-E <W,T>**

---

接続先 HiRDB のポート番号は 5,001-65,535 の範囲で指定してください。

Specify a value from 5,001 to 65,535 for the port number of the destination HiRDB.

(S)

接続先 HiRDB のポート番号に設定された値が不正です。

## 6. メッセージ

(O)

接続先 HiRDB のポート番号は 5,001 ~ 65,535 の範囲で指定してください。

### **KDSN10065-E <W,T>**

---

マスターサーバのホスト名とスレーブサーバのホスト名は、ユニークな値で指定してください。

Specify a unique value of the host name with the slave server.

(S)

マスターサーバまたはスレーブサーバのホスト名に設定された値が不正です。

(O)

マスターサーバまたはスレーブサーバのホスト名は、ユニークな値で指定してください。

### **KDSN11005-E <R,T>**

---

An attempt to execute the setup command "%1" has failed.

(S)

セットアップコマンドの実行に失敗しました。

- %1 : セットアップコマンド名

(O)

セットアップコマンド実行時に出力されたトレースファイルを参照して、エラーの要因を取り除いたあと、コマンドを再実行してください。

### **KDSN11006-E <R,T>**

---

An option was specified incorrectly for the executed command.

%1

(S)

コマンド実行時に誤ったオプションが指定されました。

- %1 : Usage

(O)

コマンドの指定内容を確認してください。

### **KDSN11007-Q <O>**

---

Groupmax Address Server, Scheduler Server and Facilities Manager will now stop.

(S)

Address Server , Scheduler Server , Facilities Manager を停止します。



**KDSN11008-E <R,T>**

---

The backup directory specified by using the -b option of the setup command is not empty.

(S)

セットアップコマンドの -b オプションで指定したバックアップディレクトリは、内容が空ではありませんでした。

(O)

セットアップコマンドの -b オプションに空のディレクトリを指定して、再実行してください。

**KDSN11009-E <R,T>**

---

Creation of the backup directory specified by using the -b option of the setup command failed.

(S)

セットアップコマンドの -b オプションで指定したバックアップディレクトリの作成に失敗しました。

(O)

次の点を確認し、要因を取り除いてください。

- 指定したバックアップディレクトリと同じ名前のファイルがないか。
- バックアップディレクトリの絶対パスの長さが、255 文字以下になっているか。
- バックアップディレクトリ作成先の読み取り権限があるか。

**KDSN11011-E <R,T>**

---

An attempt to back up a file has failed. (destination = %1, file = %2)

(S)

ファイルのバックアップに失敗しました。

- %1 : バックアップ先のディレクトリパス
- %2 : バックアップに失敗したファイルの絶対パス

(O)

次の点を確認し、要因を取り除いてください。

- %2 に示すファイルが存在するか。
- %1 に示すディレクトリに書き込み権限があるか。
- %2 に示すファイルに対する読み取り権限があるか。

**KDSN11012-E <R,T>**

---

An attempt to copy a file has failed. (destination = %1, file = %2)

(S)

ファイルのコピーに失敗しました。

- %1 : コピー先のディレクトリパス

## 6. メッセージ

- %2 : コピーできなかったファイルの絶対パス

(O)

次の点を確認し、要因を取り除いてください。

- %2 に示すファイルが存在するか。
- %1 に示すディレクトリに書き込み権限があるか。
- %2 に示すファイルに読み取り権限があるか。

### **KDSN11013-E <R,T>**

---

An attempt to execute the command "%1" has failed.

(S)

コマンドの実行に失敗しました。

- %1 : コマンド名

(O)

セットアップ実行ファイルのトレースファイルを参照して、エラーの要因を取り除いたあと、再実行してください。

### **KDSN11014-E <R,T>**

---

An attempt to write to the registry has failed. (key = %1)

(S)

レジストリの書き込みに失敗しました。

- %1 : レジストリキー

(O)

Administrators グループ権限で実行してください。

### **KDSN11015-E <R,T>**

---

An attempt to delete a file has failed. (file = %1)

(S)

ファイルの削除に失敗しました。

- %1 : 削除に失敗したファイルの絶対パス

(O)

%1 に示すファイルの削除権限があるか確認してください。

### **KDSN11016-E <R,T>**

---

An attempt to access to a file has failed. (file = %1, func = %2)

(S)

ファイルアクセスに失敗しました。

- %1 : アクセスに失敗したファイルの絶対パス

- %2 : エラーが発生した関数

(O)

%1 に示すファイルへのアクセス権限があるか確認してください。

### **KDSN11045-E <R,T>**

---

A HiRDB file system area already exists in the HiRDB file system directory "%1".

(S)

HiRDB ファイルシステム領域格納先ディレクトリに、HiRDB ファイルシステム領域が存在します。

- %1 : HiRDB ファイルシステム領域格納先ディレクトリのパス

(O)

既存の HiRDB ファイルシステム領域を削除して、コマンドを再実行してください。

### **KDSN11046-E <R,T>**

---

%1 is not installed.

(S)

必要な製品がインストールされていません。

- %1 : インストールされていない製品の名称

次の中から該当する製品名を出力します。

- Groupmax Address Server
- Groupmax Scheduler Server

(O)

%1 に示す製品をインストール、セットアップしてから再実行してください。

### **KDSN11047-E <R,T>**

---

The file "%1" was not found.

(S)

指定したファイルが存在しません。

- %1 : ファイルの絶対パス

(O)

%1 に示すファイルへのアクセス権があるか確認してください。

### **KDSN11048-E <R,T>**

---

An attempt to export a registry key has failed. (destination = %1, key = %2)

(S)

レジストリのエクスポートに失敗しました。

## 6. メッセージ

- %1 : エクスポートされるディスクファイルの絶対パス
- %2 : エクスポートできなかったレジストリのキー

(O)

次の点を確認し, 要因を取り除いてください。

- Scheduler Server がインストールされているか。
- Administrators グループ権限で実行しているか。
- %1 に示すファイルへの書き込み権限があるか。

### **KDSN11049-E <R,T>**

---

The JAR file for stored procedures "%1" does not exist.

(S)

ストアードプロシジャの JAR ファイルが存在しません。

- %1 : ストアドプロシジャ JAR ファイルを格納するディレクトリの絶対パス

(O)

ストアードプロシジャの JAR ファイルをコピーして, 再実行してください。

- コピー元 : *Scheduler Server* および *Facilities Manager* インストールディレクトリ¥lib
- コピー先 : セットアップコマンドのファイルパス¥lib

### **KDSN11050-E <R,T>**

---

The format of the specified file is invalid. (file = %1, line = %2)

(S)

指定したファイルのフォーマットが不正です。

- %1 : ファイルの絶対パス
- %2 : 行番号

(O)

%1 に示すファイルを修正して, 再実行してください。

# 付録

---

付録 A ディレクトリ構成

---

付録 B こんなときは

---

付録 C このマニュアルの参考情報

---

付録 D 用語解説

---

## 付録 A ディレクトリ構成

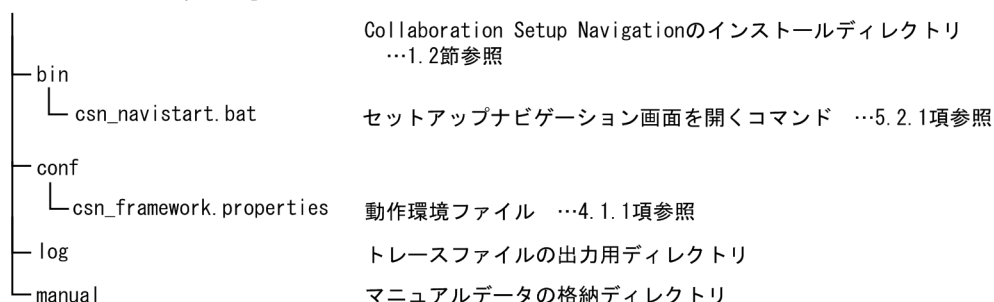
この節では、Collaboration Setup Navigation とセットアップする製品の、インストール時のディレクトリ構成を示します。

### 付録 A.1 Collaboration Setup Navigation のディレクトリ構成

Collaboration Setup Navigation のインストール時のディレクトリ構成を次に示します。

図 A-1 Collaboration Setup Navigation のディレクトリ構成

Collaboration Setup Navigationのインストールディレクトリ

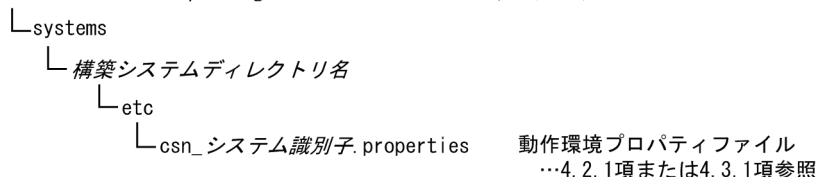


### 付録 A.2 各セットアップ製品のディレクトリ構成

各セットアップ製品のインストール時のディレクトリ構成を次に示します。

図 A-2 各セットアップ製品のディレクトリ構成

Collaboration Setup Navigationのインストールディレクトリ



(凡例)

構築システムディレクトリ名は、セットアップする製品によって次のように異なります。

cfv : File Sharingサーバ

ssv : Scheduler ServerおよびFacilities Manager

システム識別子は、セットアップする製品によって次のように異なります。

cfv : File Sharingサーバ

ssv : Scheduler ServerおよびFacilities Manager

---

## 付録 B こんなときは

### 付録 B.1 セットアップ前の状態に戻したい (`csn_ssv_restore` コマンド)

Scheduler Server および Facilities Manager のセットアップ時に、DB モードで構築途中の Scheduler マシン (マスターサーバ、スレーブサーバとも) の環境を `csn_ssv_setup` コマンド実行前の状態に戻したい場合、`csn_ssv_restore` コマンドを実行すると、環境を初期化できます。

`csn_ssv_restore` コマンドについては、「5.4.3 セットアップ前の状態に戻したい (`csn_ssv_restore` コマンド)」を参照してください。

---

## 付録 C このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報を示します。

### 付録 C.1 関連マニュアル

関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

#### (1) セットアップ製品のマニュアル

- Groupmax Scheduler/Facilities Manager Version 7 システム管理者ガイド (3020-3-D15)  
日立のグループウェアの 1 アプリケーションである Groupmax Scheduler Server Version 7 および Groupmax Facilities Manager Version 7 のシステム構築手順、および運用方法について説明しています。
- Collaboration 導入ガイド (3020-3-H01)  
Collaboration や各コンポーネントの概要、Collaboration のインストールやシステムの構築手順などについて説明しています。
- Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド (3020-3-H13)  
Collaboration - File Sharing を利用するための環境設定および運用方法について説明しています。
- Collaboration - File Sharing メッセージ (3020-3-H14)  
Collaboration - File Sharing のメッセージの形式、メッセージおよび対処方法について説明しています。
- Collaboration - File Sharing ユーザーズガイド (3020-3-H15)  
Collaboration - File Sharing の機能の概要および操作方法について説明しています。
- Collaboration 移行ガイド (3020-3-H44)  
Collaboration システムの移行手順について説明しています。

#### (2) 前提製品のマニュアル

- Groupmax Object Server Version 6 システム管理者ガイド (3020-3-B56)  
日立のグループウェア Groupmax のデータベースとしてオブジェクト管理ファイルを管理および運用するための機能と使い方について説明しています。
- Groupmax Address/Mail Version 7 システム管理者ガイド 基本操作編 (3020-3-D10)  
Groupmax Version 7 の Address Server Version 7 の機能および使用方法について説明しています。
- Cosminexus アプリケーションサーバ V8 システム構築・運用ガイド (3020-3-U04)  
Cosminexus アプリケーションサーバのシステムを構築・運用する手順について説明しています。

#### (3) 関連製品のマニュアル

- HiRDB Version 8 システム導入・設計ガイド (Windows(R) 用) (3020-6-352)  
HiRDB Version 8 のシステムの構築方法、データベースの作成方法およびシステムと



データベースの設計方法について説明しています。

- HiRDB Version 8 UAP 開発ガイド (3020-6-356)

HiRDB Version 8 のデータベース言語である SQL を使ってユーザアプリケーションプログラムを開発するための基礎技術や、HiRDB クライアントの環境設定について説明しています。

## 付録 C.2 このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、製品名を次のように表記しています。

表記	製品名
Address Server	Groupmax Address Server Version 7
File Sharing サーバ	Collaboration - File Sharing Server
Facilities Manager	Groupmax Facilities Manager Version 7
HiRDB/Run Time	HiRDB/Run Time Version 8
HiRDB/ シングルサーバ または HiRDB	<ul style="list-style-type: none"> <li>• HiRDB/Single Server Version 8</li> <li>• HiRDB/Single Server Version 8(64)</li> </ul>
Object Server	Groupmax Object Server Version 6
Scheduler Server	Groupmax Scheduler Server Version 7
uCosminexus Application Server	uCosminexus Application Server Standard
管理ツール	Groupmax Scheduler_Facilities 管理ツール Version 7

## 付録 C.3 英略語

このマニュアルで使用する英略語を次に示します。

英略語	英字での表記
API	Application Program Interface
CSV	Comma Separated Value
DB	Database
IP	Internet Protocol
IPv4	Internet Protocol Version 4
JAR	Java(TM) Archive File
JRE	Java(TM) Runtime Environment
OS	Operating System
PC	Personal Computer
RD	Relational Database
TCP/IP	Transmission Control Protocol / Internet Protocol

英略語	英字での表記
UAP	User Application Program
WOW64	Windows On Windows 64
XML	Extensible Markup Language

## 付録 C.4 KB (キロバイト) などの単位表記について

1KB (キロバイト), 1MB (メガバイト), 1GB (ギガバイト), 1TB (テラバイト) はそれぞれ  $1,024$  バイト,  $1,024^2$  バイト,  $1,024^3$  バイト,  $1,024^4$  バイトです。

---

## 付録 D 用語解説

ここでは、マニュアルに登場する用語について説明します。

### (英字)

---

#### DB モード

Scheduler Server および Facilities Manager のデータを HiRDB で一元管理する方法です。

これに対して、Scheduler Server および Facilities Manager 自身でデータを管理する方法はファイルモードと呼びます。

#### File Sharing サーバ

このマニュアル内での、製品名「Groupmax Collaboration・File Server」の表記です。

#### File Sharing マシン

File Sharing サーバを構築するマシンを指します。

#### HiRDB マシン

HiRDB を構築するマシンを指します。

#### RD エリア

データベースの表、インデクスおよびデータディクショナリを格納するデータ領域のことです。データの格納単位の一つで、1～16個の HiRDB ファイルから構成されます。

#### Scheduler マシン

Scheduler Server および Facilities Manager を構築するマシンを指します。

### (力行)

---

#### グループルートフォルダ

グループフォルダ（階層型の組織またはユーザでファイルを共有し、管理するためのフォルダ）を作成する場合に、グループフォルダの上位にシステム管理者が作成するフォルダのことです。

#### 構築システム

Collaboration Setup Navigation でセットアップする製品のことで。

#### 個人ルートフォルダ

ポータルを経由して初めて File Sharing サーバにログインする際に、自動的に作成されるフォルダです。

一人のユーザにつき、一つの個人ルートフォルダが作成されます。個人ルートフォルダの直下には、ファイルとフォルダの両方を登録できます。

#### コミュニティルートフォルダ

[コミュニティ管理] ポートレットでワークプレースを作成する際に、ワークプレースルートフォル

ダとともに自動的に作成されるフォルダです。  
一つのコミュニティにつき、一つのコミュニティルートフォルダが作成されます。コミュニティルートフォルダの直下には、ワークプレースルートフォルダだけが作成されます。

## (サ行)

---

### ストアドプロシジャ

一連のデータベースのアクセス手順を手続きとしてデータベースに登録しておく機能です。

### スレーブサーバ

Scheduler Server および Facilities Manager を DB モードで運用している場合、マスターサーバ以外のマシンをスレーブサーバと呼びます。

### セットアップナビゲーション画面

Collaboration Setup Navigation で、セットアップ製品の構築情報を入力する画面です。

### セットアップファイル

製品のセットアップに必要な複数のファイルです。次の 2 種類で構成されます。

- セットアップコマンドのファイル (\*.bat)
- セットアップ設定ファイル

セットアップナビゲーション画面で構築情報を入力したあとに出力されます。

## (ハ行)

---

### ファイルモード

Scheduler Server および Facilities Manager 自身でデータを管理する方法です。  
これに対して、Scheduler Server のデータを HiRDB で一元管理する方法を DB モードと呼びます。

## (マ行)

---

### マスターサーバ

Scheduler Server および Facilities Manager を DB モードで運用している場合、DB にアクセスするコマンドを実行するマシンをマスターサーバと呼びます。マスターサーバ以外のマシンはスレーブサーバと呼びます。

### 見積もり基礎情報ファイル

データベース容量の見積もりデータの基として使用するファイルです。セットアップナビゲーション画面で構築情報を入力したあとに出力されます。

### 見積もりファイル

データベース容量の見積もり値を記述するファイルです。

---

# 索引

## A

---

Address Server〔前提製品〕 4

## C

---

Collaboration - File Sharing Server〔セットアップできる製品〕 2

Collaboration Setup Navigation で構築情報を設定する〔File Sharing サーバ〕 15

Collaboration Setup Navigation で構築情報を設定する〔Scheduler Server および Facilities Manager〕 27

Collaboration Setup Navigation で使用するファイル 37

Collaboration Setup Navigation とは 2

Collaboration Setup Navigation のインストール 6

Collaboration Setup Navigation の概要 1

Collaboration Setup Navigation のコマンド 73

Collaboration Setup Navigation のシステム構成（File Sharing サーバを構築する場合） 12

Collaboration Setup Navigation のシステム構成（Scheduler Server および Facilities Manager を構築する場合） 22

Collaboration Setup Navigation のセットアップ 6

Collaboration Setup Navigation のセットアップナビゲーション画面 7

Collaboration Setup Navigation のセットアップナビゲーション画面の構成 8

Collaboration Setup Navigation のディレクトリ構成 124

Collaboration Setup Navigation のファイル 38

Collaboration Setup Navigation のメッセージ 85

Collaboration Setup Navigation マシン 2

csn\_cfv\_dbsetup コマンド〔HiRDB をセットアップする〕 20, 75

csn\_cfv\_setup コマンド〔File Sharing サーバをセットアップする〕 19, 74

csn\_navistart コマンド〔セットアップナビゲーション画面を開く〕 73

csn\_ssv\_dbsetup コマンド〔HiRDB をセットアップする〕 32, 78

csn\_ssv\_restore コマンド〔セットアップ前の状態に戻したい〕 79, 125

csn\_ssv\_setup コマンド〔Scheduler Server および Facilities Manager をセットアップする〕 31, 77

## D

---

DABroker Library〔前提製品〕 3

DB モード〔用語解説〕 129

## F

---

Facilities Manager のファイルモードからデータを移行する場合 33

File Sharing サーバ〔用語解説〕 129

File Sharing サーバのコマンド 74

File Sharing サーバのセットアップ〔概要〕 2

File Sharing サーバのセットアップ時に出力されるメッセージ 95

File Sharing サーバのセットアップ手順 13

File Sharing サーバのセットアップの準備をする 13

File Sharing サーバのファイル 42

File Sharing サーバをセットアップする 13

File Sharing サーバをセットアップする（csn\_cfv\_setup コマンド） 19, 74

File Sharing マシン 2

File Sharing マシン〔用語解説〕 129

File Sharing マシンでセットアップ作業を実行する 19

## G

---

- Groupmax Address Server Version 7〔前提製品〕 4
- Groupmax Facilities Manager Version 7〔セットアップできる製品〕 2
- Groupmax Object Server Version 6〔前提製品〕 4
- Groupmax Scheduler Server Version 7〔セットアップできる製品〕 2

## H

---

- HiRDB/Run Time〔前提製品〕 3, 4
- HiRDB/ シングルサーバ〔前提製品〕 3, 4
- HiRDB SQL Executer〔前提製品〕 4
- HiRDB にデータを登録する〔Scheduler Server および Facilities Manager〕 32
- HiRDB マシン 2
- HiRDB マシン〔用語解説〕 129
- HiRDB マシンでセットアップ作業を実行する〔Scheduler Server および Facilities Manager〕 32
- HiRDB をセットアップする (csn\_cfvdbssetup コマンド) 20, 75
- HiRDB をセットアップする (csn\_ssv\_dbssetup コマンド) 32, 78

## J

---

- jar ファイルをマスターサーバからコピーする 32
- Java(TM) Runtime Environment〔前提製品〕 4
- JRE〔前提製品〕 4

## O

---

- Object Server〔前提製品〕 4

## R

---

- RD エリア〔用語解説〕 129
- RD エリア見積もり基礎情報ファイル〔File Sharing サーバ〕 43

- RD エリア見積もり基礎情報ファイル〔Scheduler Server および Facilities Manager〕 51

## S

---

- Scheduler Server および Facilities Manager のコマンド 77
- Scheduler Server および Facilities Manager のセットアップ〔概要〕 3
- Scheduler Server および Facilities Manager のセットアップ時に出力されるメッセージ 106
- Scheduler Server および Facilities Manager のセットアップ手順 23
- Scheduler Server および Facilities Manager のセットアップの準備をする 23
- Scheduler Server および Facilities Manager のファイル 49
- Scheduler Server および Facilities Manager をセットアップする 24
- Scheduler Server および Facilities Manager をセットアップする (csn\_ssv\_setup コマンド) 31, 77
- Scheduler Server のファイルモードからデータを移行する場合 33
- Scheduler マシン 2
- Scheduler マシン〔用語解説〕 129
- Scheduler マシンでセットアップ作業を実行する 31

## T

---

- TPBroker〔前提製品〕 3

## い

---

- インストール〔Collaboration Setup Navigation〕 6

## か

---

- 概要〔Collaboration Setup Navigation〕 1
- 関連製品のマニュアル 126
- 関連マニュアル 126

## く

グループルートフォルダ〔用語解説〕 129

## こ

構築システム〔用語解説〕 129

構築手順表示領域 8

個人ルートフォルダ〔用語解説〕 129

このマニュアルでのメッセージの記載形式  
82

コマンド 71

コマンド〔 Collaboration Setup Navigation 〕  
73

コマンド〔 File Sharing サーバ 〕 74

コマンド〔 Scheduler Server および  
Facilities Manager 〕 77

コマンド一覧 72

コマンドの概要 72

コミュニティルートフォルダ〔用語解説〕  
129

こんなときは〔 Scheduler Server および  
Facilities Manager 〕 125

## さ

サーバ用ステータスファイル〔 File Sharing  
サーバ 〕 43

サーバ用ステータスファイル〔 Scheduler  
Server および Facilities Manager 〕 51

## し

システム構成（ File Sharing サーバを構築す  
る場合 ） 12

システム構成（ Scheduler Server および  
Facilities Manager を構築する場合 ） 22

シンクポイントダンプファイル見積み基礎  
情報ファイル〔 File Sharing サーバ 〕 43

シンクポイントダンプファイル見積み基礎  
情報ファイル〔 Scheduler Server および  
Facilities Manager 〕 51

## す

ステップ〔 セットアップナビゲーション画  
面 〕 8

ストアドプロシジャ〔用語解説〕 130

スレーブサーバ〔用語解説〕 130

## せ

設定内容ファイル 40

設定表示領域 8

セットアップ〔 Collaboration Setup  
Navigation 〕 6

セットアップ〔 File Sharing サーバ 〕 13

セットアップ〔 Scheduler Server および  
Facilities Manager 〕 24

セットアップコマンドの実行時に出力される  
メッセージ 102

セットアップ製品で使用するファイル 37

セットアップ製品のディレクトリ構成 124

セットアップ製品のマニュアル 126

セットアップナビゲーション画面〔用語解  
説〕 130

セットアップナビゲーション画面で構築情報  
を設定する〔 File Sharing サーバ 〕 15

セットアップナビゲーション画面で構築情報  
を設定する〔 Scheduler Server および  
Facilities Manager 〕 27

セットアップナビゲーション画面の構成 8

セットアップナビゲーション画面の操作時に  
出力されるメッセージ 95

セットアップナビゲーション画面の表示言語  
の変更 38

セットアップナビゲーション画面を開く 73

セットアップファイル〔 File Sharing サー  
バ 〕 47

セットアップファイル〔 Scheduler Server お  
よび Facilities Manager 〕 67

セットアップファイル〔用語解説〕 130

セットアップファイルを各マシンにコピーす  
る〔 File Sharing サーバ 〕 19

セットアップファイルを各マシンにコピーす  
る〔 Scheduler Server および Facilities  
Manager 〕 31

セットアップファイルを出力する〔File Sharing サーバ〕 17  
 セットアップファイルを出力する  
 〔Scheduler Server および Facilities Manager〕 30  
 セットアップ前の状態に戻したい  
 (csn\_ssv\_restore コマンド) 79, 125  
 前提製品のマニュアル 126

## て

---

ディレクトリ構成〔Collaboration Setup Navigation〕 124  
 ディレクトリ構成〔セットアップ製品〕 124

## と

---

動作環境ファイル 38  
 動作環境プロパティファイル〔File Sharing サーバ〕 42  
 動作環境プロパティファイル〔Scheduler Server および Facilities Manager〕 49  
 トレースファイル 83  
 トレースファイル (Collaboration Setup Navigation) の設定 39  
 トレースファイル (csn\_cfv\_dbsetup コマンド) 76  
 トレースファイル (csn\_cfv\_setup コマンド) 75  
 トレースファイル (csn\_ssv\_dbsetup コマンド) 79  
 トレースファイル (csn\_ssv\_restore コマンド) 80  
 トレースファイル (csn\_ssv\_setup コマンド) 78

## に

---

入力値ファイル 39

## ふ

---

ファイル〔Collaboration Setup Navigation およびそのセットアップ製品〕 37  
 ファイルモード〔用語解説〕 130

ファイルモードからデータを移行する場合 33  
 フロー表示領域 8  
 プロセス〔セットアップナビゲーション画面〕 8

## ま

---

マスターサーバ〔用語解説〕 130

## み

---

見積もり基礎情報ファイル〔File Sharing サーバ〕 43  
 見積もり基礎情報ファイル〔Scheduler Server および Facilities Manager〕 50  
 見積もり基礎情報ファイル〔用語解説〕 130  
 見積もりファイル〔File Sharing サーバ〕 45  
 見積もりファイル〔Scheduler Server および Facilities Manager〕 54  
 見積もりファイル〔用語解説〕 130

## め

---

メッセージ 81  
 メッセージ〔Collaboration Setup Navigation〕 85  
 メッセージ〔File Sharing サーバのセットアップ時〕 95  
 メッセージ〔Scheduler Server および Facilities Manager のセットアップ時〕 106  
 メッセージ〔セットアップコマンドの実行時〕 102  
 メッセージ〔セットアップナビゲーション画面の操作時〕 95  
 メッセージに出力される詳細情報〔Collaboration Setup Navigation〕 93  
 メッセージの形式 82  
 メッセージの出力形式 82  
 メッセージの出力先 83